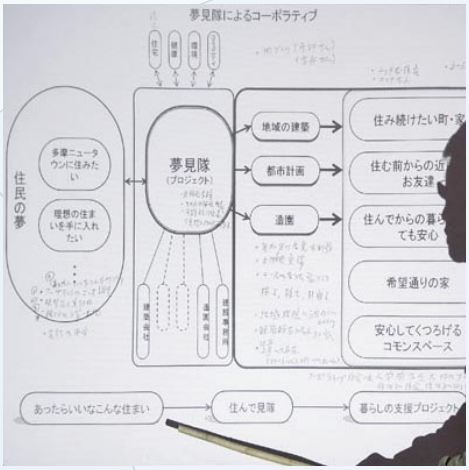
# 地域コーディネーター
# ケーススタディブック

はちおうじ志民塾　専門課程　地域コーディネーター養成コース
プロジェクトチーム編



# 目次

実施概要・日程　02

第1回「図解で読み解くコーディネーター」　04
久恒　啓一（多摩大学教授・学長室長）

第 2 回「地域コーディネーターとは」　08
中庭　光彦（多摩大学総合研究所准教授）

第 3 回「ビジネスお助け隊」　14
前川　勲（サイバーシルクロード八王子 副会長・ビジネスお助け隊　リーダー）

第 4 回「NPO 法人多摩草むらの会」　20
風間　美代子（NPO 法人多摩草むらの会　代表）

第 5 回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」　24
桑田　俊夫（グリーンピア相模原代表取締役）

第 6 回「長池ぽんぽこ祭り」　30
田中　純（NPO フュージョン長池理事）

第 7 回「長池里山クラブ」　38
赤羽　誠（長池里山クラブ事務局長）

第 8 回「多摩 NPO センター」　46
御舩　哲（NPO フュージョン理事）

第 9 回「夢見隊」　58
宇野　健一（夢見隊チームリーダー／（有）アトリエU都市・地域空間計画室）

第 10 回「図解でまとめ」　64
久恒　啓一（多摩大学教授・学長室長）

第 11 回「番外編」　68
ファシリテーター：富永　一夫（NPO フュージョン長池　理事長）

# はちおうじ志民塾　専門課程　地域コーディネーター養成コース

## 実施概要

| | |
|---|---|
| **実施日程** | 2009 年 9 月 19 日（土）～ 11 月 21 日（土）<br>（全 10 回） |
| **講義会場** | 八王子市長池公園自然館（東京都八王子市別所 2-58）<br>レクチャールーム |
| **ファシリテーター（全 10 回）** | 富永　一夫（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池　理事長） |

## 日程

| コース回 | 日付 | テーマ | 講師 | 内容 |
|---|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 9 月 19 日（土） | 図解で読み解くコーディネーター | 久恒　啓一 | 多摩大学教授兼多摩大学総合研究所所長<br>図解の研究者として、地域コーディネーターの行動パターンを、図解で読み解く方法を講義。この回は、講師陣も図解の講義を受講。 |
| 第 2 回 | 9 月 26 日（土） | 地域コーディネーターとは | 中庭　光彦 | 多摩大学総合研究所准教授<br>「地域コーディネーターとは何か」を定義。 |
| 第 3 回 | 10 月 3 日（土） | ビジネスお助け隊 | 前川　勲 | サイバーシルクロード八王子のビジネスお助け隊　代表<br>ビジネスお助け隊のメンバーおよび中・小企業の方々を日々コーディネート。 |
| 第 4 回 | 10 月 10 日（土） | NPO 法人多摩草むらの会 | 風間美代子 | NPO 法人多摩草むらの会（精神障害者団体）代表<br>グループホーム、連ストラン、畑等、精神障害者が自立するための働き場を用意するために日々コーディネート。 |

## 日程

| コース回 | 日付 | テーマ | 講師 | 内容 |
|---|---|---|---|---|
| 第 5 回 | 10 月 17 日（土） | (株) グリーンピア相模原 (モナの丘) | 桑田　俊夫 | 農業生産法人モナの丘　社長<br>相模原市で農業生産法人を経営。農場、レストラン等を経営するために、日々コーディネート |
| 第 6 回 | 10 月 24 日（土） | 長池ぽんぽこ祭り | 田中　純 | 長池ぽんぽこ祭り　事務局長<br>1996 年から始めたお祭りの事務局長として、毎年 4 月～ 9 月までコーディネート。 |
| 第 7 回 | 10 月 31 日（土） | 長池里山クラブ | 赤羽　誠 | 長池里山クラブ　事務局長<br>長池公園内で活躍している公園アドプト団体：長池里山クラブの活動を支えるためにコーディネート。 |
| 第 8 回 | 11 月 7 日（土） | 多摩 NPO センター | 御船　哲 | 多摩 NPO センター　元センター長（平成 21 年 3 月 31 日退任）<br>地域密着の NPO 支援センター長として、地域の市民活動、行政、大学等々をコーディネート。 |
| 第 9 回 | 11 月 14 日（土） | 夢見隊 | 宇野　健一 | 夢見隊　チームリーダー<br>コーポラティブ住宅：夢見隊 1 号 14 世帯、夢見隊 2 号 6 世帯の建設をコーディネート。 |
| 第 10 回 | 11 月 21 日（土） | 図解でまとめ | 久恒　啓一 | 多摩大学教授兼多摩大学総合研究所所長<br>コーディネートの実践家 7 人を受講生に図解してもらったものを最終的に取りまとめて、地域のコーディネーターとはどのように行動する人のことであるかをよみといて頂く。 |

# 第1回 「図解で読み解く･地域コーディネーター」

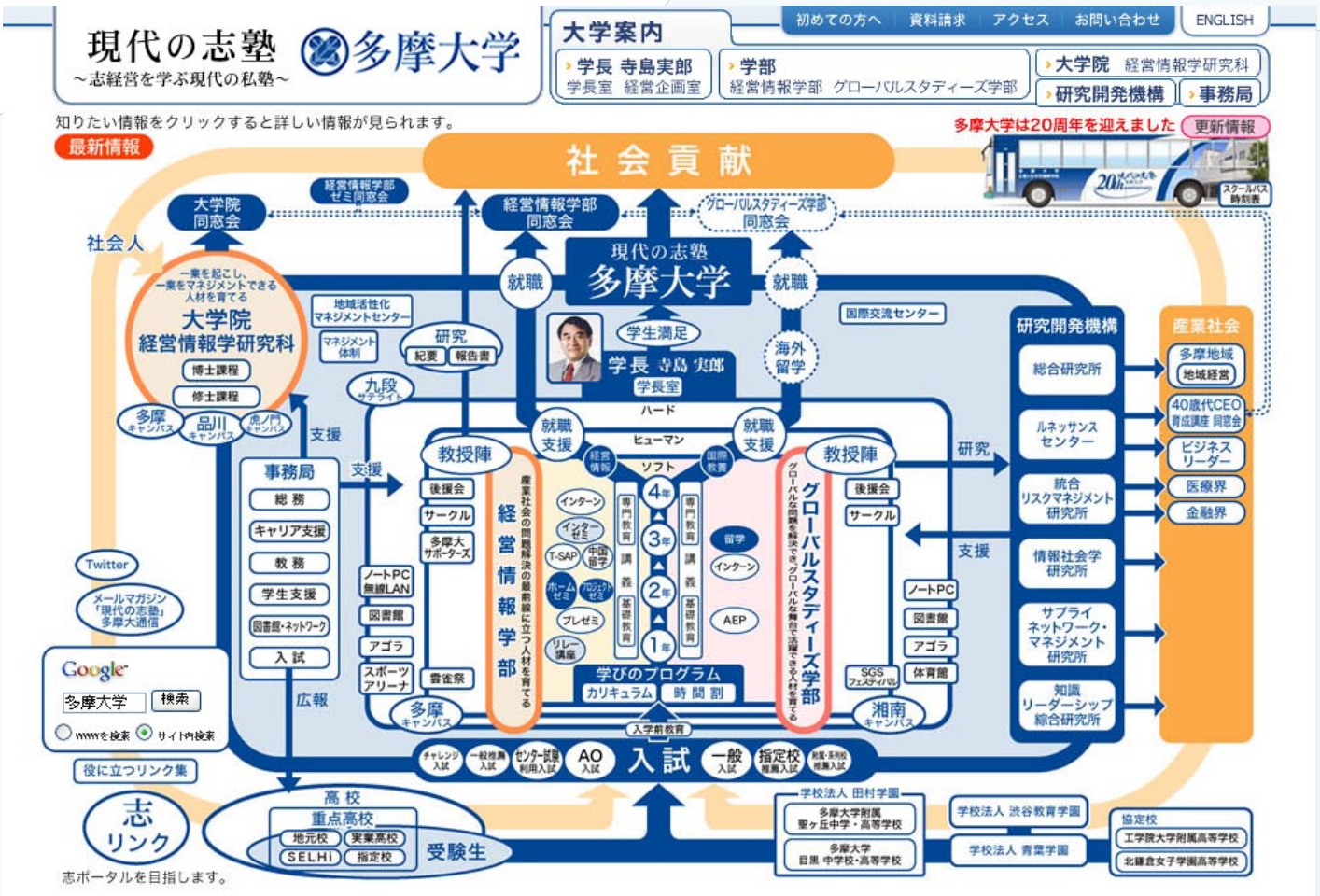
講師　久恒（ひさつね）　啓一（けいいち）

## はじめに

住まいは、長池公園自然館から歩いて2～3分の所です。毎朝愛犬と長池公園を散歩しながら、この環境を楽しんでいます。
受講生（10名）の方々の平均年齢を出しましたら、丁度私の年齢になりました。
毎日ブログを更新し、1800日になります。
是非ご覧ください。

## 多摩大学とのかかわり

民間企業に20年勤務した後、野田一夫さん（多摩大学初代学長）に本を認められ、仙台の大学（県立宮城大学）に着任。2009年4月から寺島学長（2～30年来の友人）の就任を助けるべく2008年4月に多摩大学に着任し、教授・学長室長、ホームページの改変を担当することになりました。
多摩大学のホームページは、1枚の図解で説明し、リンクを張って内容に飛べるよう、組み立てています。「広報会議」誌8月1日号の大学のホームページ特集で高く評価されました。
ホームページを充実させていくと、WEBによるマネジメントを展望できるのではないかと思っています。
多摩大学創設20周年を機に、「現代の志塾」を教育理念に掲げました。学生にも自分の志を書き出し、それを出発点に学ぶよう勧めています。社会や暮らしの不条理を、仕事を通じて解決する。それが『志』です。




多摩大学HPのトップページ

# 第1回 「図解で読み解く･地域コーディネーター」

## 図で考えること

ブログは文章を使って書いていますが、「箇条書き」は、物事を考えるという点で問題があります。各条の関係をどう考えるのか。例えば、私のプロフィールを記したHPを見てください。少し説明を加えると、私は、地域についての知識・経験が足りないので、宮城大学では、地域からの依頼は全て引き受けてきました。専門家の集まる会議に専門家は沢山いるので、会長なら務まると思い、農業審議会の会長も経験しました。
その結果、どの組織も同じ構造だ、ということが判っていました。そして、日本は〝もの真似〟でできていることが判りました。

各県は、中央省庁に向けて、他の県に負けないようにと、同じように書いています。市町村も県を見習い、他の市町村に負けないよう、同じように書いています。どの段階でも住民のニーズを確かめた形跡がありません。例えば、総合計画づくりでも、まずニーズを把握していません。日本のどの組織にも〝考える人〟が不足しています。
〝考える人〟をいかに育てるかが課題です。その解決方法の一つは、図をを使うことだと考えています。
「図で考える人は仕事ができる」（日経ビジネス人文庫）を2002年に出版しました。このコースの資料としても配布させていただきました。編集者からは、あえて図解を入れずに、文章でまとめてくれと言われたのですが、逆にこれが成功し、ベストセラーになりました。

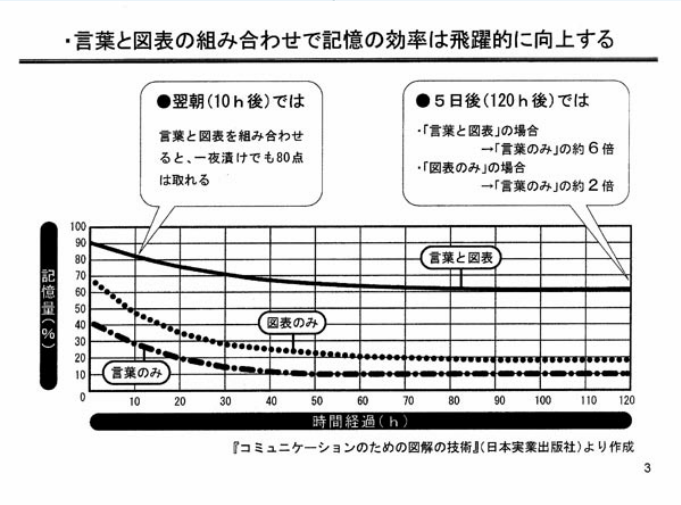
## 地域コーディネーターを図解で読み解く

図解は、地域コーディネーターの道具として使うことができます。
7人の講師の考え、やっていることを学び、各講師の話を図で解くことにより、八王子市における地域コーディネーター像が明らかになってくるに違いないと考えます。
ビジネスの現場では、問題解決の連続・積み重ねです。解決するほどに、より高い大きい問題にぶつかることになります。あらゆる組織の仕事は、真似とパクリでやっていると思います。知識があるだけでは解けません。知識より、自分の目を信じて問題を掘り下げることです。
地域コーディネーターに関する実証的研究を、はちおうじ志民塾から発信したいと考えております。

## 図解の具体化について

具体的な図を見てみましょう。資料3頁「言葉と図表の組合せで記憶の効率は飛躍的に向上する」はUSA空軍の実験データから図解したものです。

箇条書きでは、相対的な大きさ、関係、相互の重なりを示すことが出来ません。
図で表現する方法は進化していきます。図にしようとすると、自動的にこれはどこに位置付けしたらよいかを考えることになります。図を書くとは、手を動かして考えることを促します。



# 第1回 「図解で読み解く･地域コーディネーター」

**考え方、世界観の骨格こそ教えるべきだ。**

定性的な情報をどのように本質的な情報にするか、量ではなく1件でも100件でも丹念に情報を重ねていくことで、図解により本質的な情報に組み立てることが出来ます。
社会的合意形成の技術にも問題があります。その点も図解思考で解決できます。
合意＝（定性情報＋図解思考）÷顧客視点

**説得より納得を、お客様を忘れずに**

**図解演習**
それでは、これから図で考える演習を、出席者全員でやります。課題を出しますので、自分で選んで決めてやってください。

課題
- あなたの仕事を図解する。
- 地域コーディネーターの仕事を図解する。

あなたの仕事を素人にも判るように、専門用語を使わないでください。専門用語を使うと、その説明も注意書きする必要がでてきて、図が複雑になります。仕事など、やってきたこと、やりたいことを家族に説明できるように図解してください。
私を中心に置き、キーワードを並べて円で囲み、それぞれの関係を考えて図示してください。

**図解討議**

出来た図解をお互いに見せ合って、数人のグループで討議をします。グループ討議は、前後の４人を単位にして、お互いに見せ合って、遠慮なく質問、提案、指摘をしてください。

書き直すために話合い、その要点は
イ　書き方
ロ　内容
ハ　関係の作り方

自分が描いてみて、腑に落ちることが大事です。
図を作るということは、アンテナを立てること。その後、情報を加えていくと納得しやすいです。図を使うと、人との意見交換が容易にできます。指摘されると、納得できるが、文章を直されるとむっとくる。昔から〝文は人なり〟というぐらいで、文にものをいわれると、人としての自分にものをいわれたような気分になるものです。
考える対象に近付き過ぎると判らなくなります。また、違った景色を見ていると意見は異なります。足元は深く掘って理解していくが、意識的に目線を高くしましょう、すると景色が変わります。また、時系列で書くと判り易く、流れがあると書きやすいです。
正しいものがあるのでなく、いくつかの選択肢から何を選ぶかということです。

**質疑応答**

質問：箇条書きはベースとして必要ではないか？
久恒：直したくなったら、図解は直しやすい。対象が違うと図も変わる。気分が違うと図も変わる。図を書くと言葉には鋭敏になる。講義の記録もキーワードを書けばよいのです。
そして、それらの関係、重なりを考えてみればよいのです。
「文章＝内容×表現」であるから、内容があれば書ける、内容がないのに書こうとするから苦しくなります。図解に色わけは使わないことです。多色にするとごまかされやすくなります。
原則黒一色で描きましょう、論理は白黒です。
理解、疑問、反論、この三つが考える基本です。これができれば考えることになります。だから、「わかったこと」「わからないこと」「反対のこと」を並べてみましょう。

# 第1回 「図解で読み解く・地域コーディネーター」

**本日の宿題とまとめ**

今日の図解を手直しして、来週提出しましょう。
次回からは、その日の後半に図解をまとめて提出し、事務局から久恒先生に届けます。
地域コーディネーター講義毎にできた 80 枚をまとめると、地域コーディネーターとは何かという「はちおうじ版」ができあがることになります。
この専門課程は 10 回で終わりますが、ここまで学んできたのは、それぞれが自分の課題に志を持って取り組むためです。そこで、プロジェクトメンバーと事務局は、受講生皆さん一人一人の課題を継続支援することにしたいと考えました。そのための具体策を、いま協議しているところです。
この講座中に具体的なプログラムを発表します。

本日の講師 久恒氏と、講義を図解でまとめる受講生の皆さん
平成 21 年 9 月 19 日　長池公園自然館にて

# 第 2 回 「地域コーディネーターとは」

講師　中庭（なかにわ）　光彦（みつひこ）

## はじめに

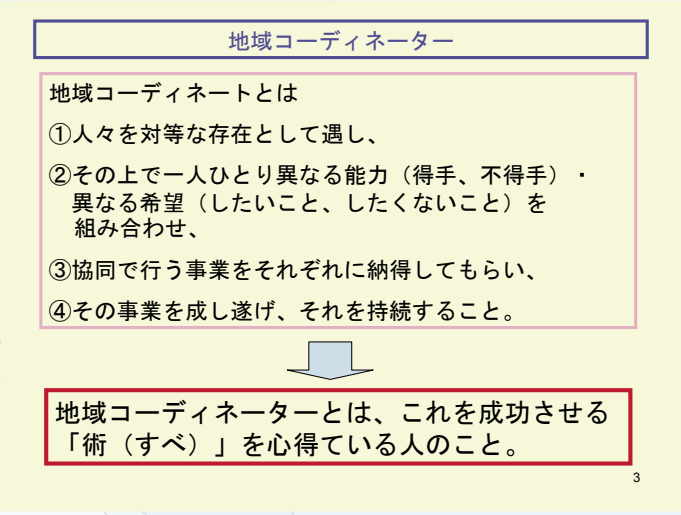
第1回お疲れ様でした。久恒先生は、私の上司ですので、その後はやりづらいですね。前回は私も図解に挑戦しましたが、苦労しました。文章大好き、箇条書き大好きの人間ですので、ご容赦下さい。
私は、元々会社員をしておりました。コミュニティに関心を持ち、10 年前、中央大学大学院総合政策研究科で学び、住まいは大田区ですが、そこから通いました。その時に、初めて多摩ニュータウンを見て、異質な街に驚きました。
コミュニティをベースにした研究を、富永さんの活動を対象にすると面白いと直感で決め、取り組んできました。以後、多摩を研究し、全国の事例と比較して調査研究を進めています。
地域コーディネーターとは何か、難しい主題ですが、私なりの考え方を参考に供したいと思います。
資料 1 により、パワーポイント（以下「PP」と略します）を見ながら講義します。

## 地域活動を引っ張る 2 種類の人

地域コーディネーターはある概念の反対語として使われ始めました。それは、指導者です。リーダーとは違う、探索者のような意味を込めて、コーディネーターという言葉が使われているようです。
リーダーは NHK の番組「プロジェクト X」に出てくるヒーローやヒロインのイメージです。
「計画をしっかり固め」
「話したことは変えない」
「強い指導力」
これが世間のリーダー像で、地域活動には、リーダー養成講座も多い。しかし、どうもリーダーばかり育ててもうまくいかないのでは？現場はそう思いはじめている。
一方は、探索者。この人たちは、計画は考えるためにある、考えている。話すことはコロコロ変わるけれど、一緒に走る安心感。状況が変われば計画も変わって、当然話すことも変わる。強力な指導力なくても、一緒に安心して走れる人のいるところが成功している。地域コーディネーターはどうもリーダーより探索者です。
このようなことをお話しする、私の今日の立場を申し上げておきます。地域を視るには、譬えてみると、診断と治療を行う医師と、患者に併走して元気をつける看護師との観点があります。地域づくりは、看護師だけでは、うまくいかず、医師が協力する必要があるわけですが、医師としては、各地の事例を知り、その地域にはこの処方が必要、効く、と言えなければならない。今日の講義は医師の立場、方法で語ります。

## 地域コーディネーターとは

人々を対等な存在として遇し、その上で一人ひとり異なる能力（得手・不得手）、異なる希望（したいこと、したくないこと）を組み合わせ、協同で行う事業をそれぞれに納得してもらい、その事業を成し遂げ、それを持続すること。
これを成功させる術を心得ている人のことを地域コーディネーターという。
これが、私の定義です。英和辞典には、coodinate の意味の第一に、〝対等にすること〟とある。これは含蓄のある言葉です。

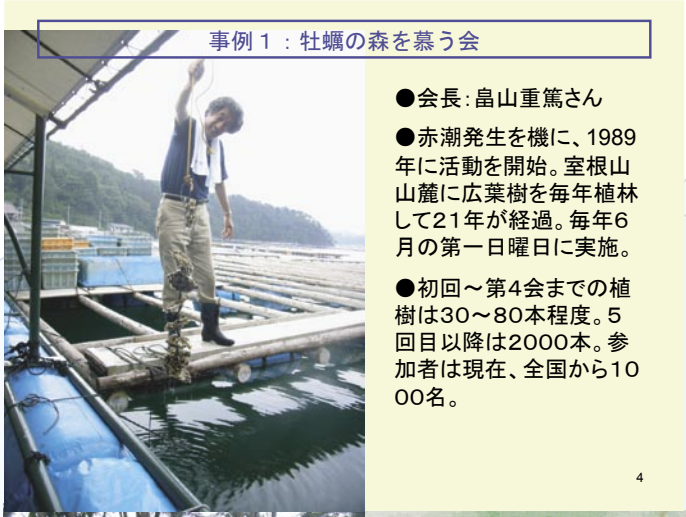


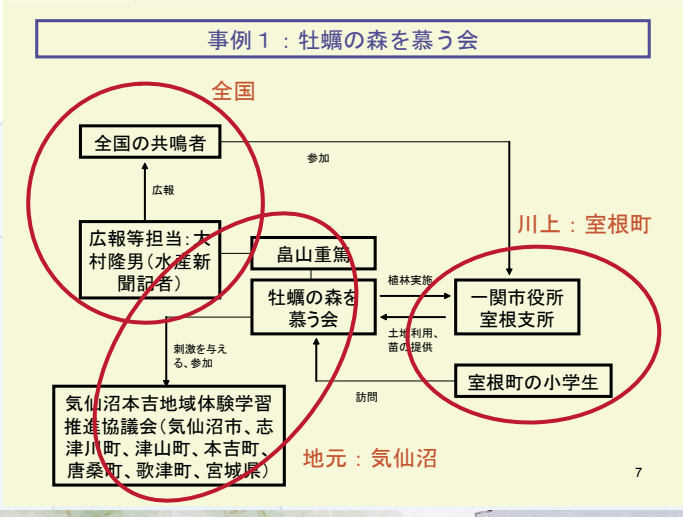
# 第 2 回 「地域コーディネーターとは」

## 事例から学ぼう

### 事例 1.　牡蠣の森を慕う会　畠山　重篤さん

森は海の恋人という言葉をご存知の方も多いでしょう。畠山さんは、宮城県の気仙沼湾で、カキ養殖業を営み、1989 年の赤潮発生を機にその対策として、このキャッチフレーズをかかげ、湾に注ぐ大川の上流、室根山に植林を始めました。20 年経ち、全国から 1,500 人が参加するほどになっています。
宮城県の漁師が、岩手県一関市の室根山に植樹しており、2 県にまたがる事業となっています。苗は室根町提供で、小・中学生が毎年植林（名前入木札を立てる）しています。この事業は、20 年が経過しました。
最初、畠山さんは室根町へ駆け込み　木を植えさせて！土地は使わせて！と言い、労力は畠山さん側が提供しました。それを、右腕の大林隆男さんが自分のネットワークであちらこちらに知らせました。その結果、全国から問い合わせが来て、一緒にやりたい！との申し出が殺到したわけです。外からの評判で、気仙沼の人も動き始めました。上流の小学生も畠山さんの養殖場を訪問しました。その事例をみて体験学習になると後で気づき、気仙沼本吉地域体験学習推進協議会の立ち上げに、結果として拡がりました。川上の室根町→全国→地元・気仙沼。地元はかえって、地元の良さを気づくことが少ない。
畠山さんは労力を提供、 室根町は、土地と苗を提供、これは対等な関係ですね。最初からわかって計画したらできるのか？活動することで、周囲の状況がどんどん変わりますし、その状況に機敏に対応していかねばならない。その連鎖が活動の循環拡大になるわけです。



# 第 2 回 「地域コーディネーターとは」

**事例 2　塚越教子さん**

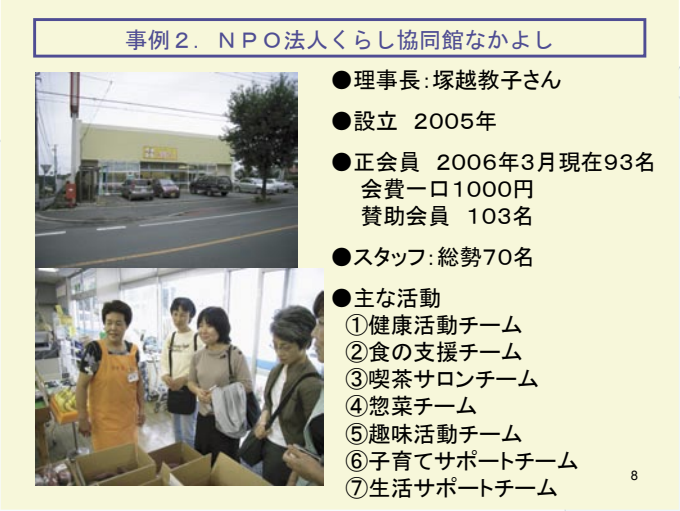
**NPO 法人くらし協同館なかよし ( 以下「なかよし」と略す )**

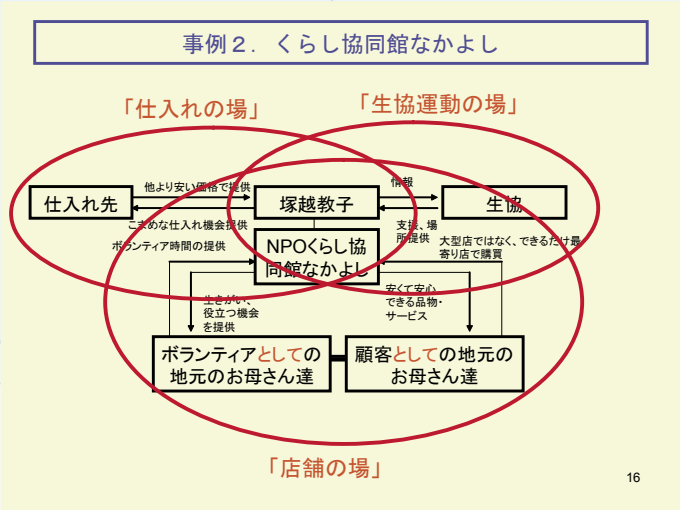
茨城県ひたちなか市 (人口 15 万人) で、地域密着型スーパーを NPO で営業しているのが「NPO くらし協同館なかよし」です。この店、元は生協店舗でした。戸建 1,000 戸の中に立地しています。それが、2004 年に、近くに大型スーパーができ、閉店することになりました。その時、生協は、NPO で店を運営してくれれば、賃料を無償提供すると提案しました。

それを受け止めたのが塚越さんと仲間たち。
野菜は地元農家が協力。売れ残り野菜は食材になり、惣菜に加工され、喫茶スペースで家庭の味を売る。集会スペースでは各種会合、教室で人を集め、託児スペースも用意して参加しやすくしています。
2004 年に生協店舗は閉店、一方で受けても NPO 大丈夫？の声もあがりましたが、その時、塚越さんと仲間たちはアンケートを 2 回実施しました。

1 回目は、「何をやってほしいか？」
「食の支援はやってほしい」との回答が得られました。

2 回目は、「1 年間限定で協力の意志あるか？」
「ある」と答えた人には、記名と資格特技を聞くものでしたが、50 名の記名が集まりました。
協力者が一定人数いるので、できることから始めようとしたわけです。始めて、視えるようになると循環して廻って、さらに拡がっていきます。スタッフは、働きたい日に自分の名前をカレンダーに記入し、協力日時と調整します。お手伝いするとお小遣いと料理方法を教えてもらえるとの評判から協力者も増える。仕入れ農家には、こまめに注文と対応。協力する人は顧客の顔も持つので、「働く機会を得るので協力しよう」「安くてよいもの売るので、できるだけここで買おう」という気持ちが連鎖するわけです。
関係ができてくると三つの場面が繋がります。





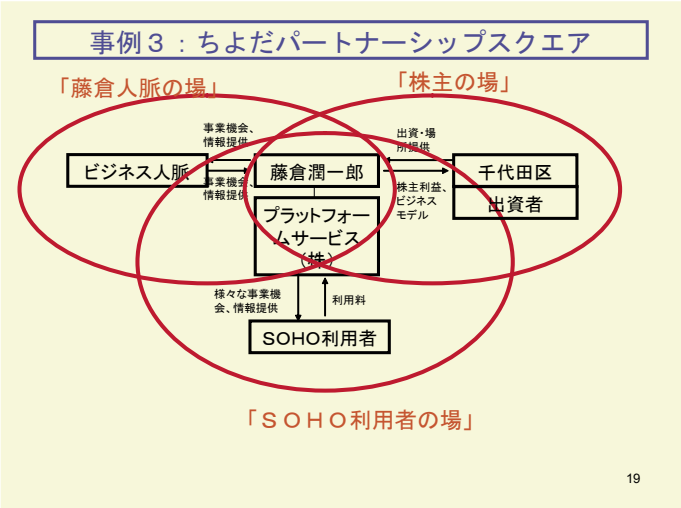
# 第 2 回 「地域コーディネーターとは」

**事例 3　ちよだパートナーシップスクエア**
**藤倉潤一郎さん**

元は千代田中小企業振興公社の建物であったものを、区費投入せず、創業支援施設とし、民活としてリニューアルオープンさせたものです。2004 年 10 月にオープンし現状は、売上 2 億円。利益 1000 万円をあげています。

面白いのは、藤倉さんの経歴です。いろいろなプロジェクトにかかわり、広い人脈を育てて来たので、それを生かして新事業を行なってきた方です。
この創業支援施設には、1 階に喫茶店があり、ある相談が来ると、「それならＡ社、Ｂ社が良い、今お客さんが来ているので、1 階に降りてきて話を聞いてもらおう」という展開が生まれます。施設管理者としても勉強会を企画し、会員・入居者に情報を提供しました。
株主と人脈と利用者とそれぞれ Win-Win の関係、対等な関係の場を創ることができていることがわかります。

今の事務空間内部の風景　立地条件のよさも生きている




**講義のまとめ**

● 活動は外部で理解してもらう。地元はそれをみて評価（迂回戦略）
富永さんは見附ヶ丘協議会を始めていたが、NPO 法人になってから地元は気づく。地元で廻りの人々が何をやっているのか多くの場合知られない。
● 持続する関係は相手と「対等」「交換」（Win-Win 戦略）
この関係が成立するには、自分の元手（得意なこと、自分にしかできないこと）が不可欠。皆さんが地域コーディネーターたらんとするためには、自分の元手を発見し、それを磨き続けることは大切なこと。
● 関係がうまくいくと「交換」の関係が太りだす（雪だるま効果）
● 一つの活動に、いくつもの場が跨っていると、活動は持続しやすい。（あれもこれも戦略）。いわゆるビジネスの成功は「選択と集中」といわれるが、地域活動は「あれもこれも」の方が持続し拡がることが多い。
●　人と人との関係は「地縁」「金縁」「友縁」「公縁」「家縁」などいろいろある。
この関係の質の区別を間違えるとコーディネートは失敗する。
「金縁」お金を払っているのだからそれ相応のものをよこせというような関係。「友縁」今日は僕に払わせてくれよとお互いに損をし合おうというような関係。
「公縁」は、わけへだてをしてはいけない公平な関係、誰にも同様のサービスを提供　受益できるようにというような関係。ここまでは相手を選べる関係。

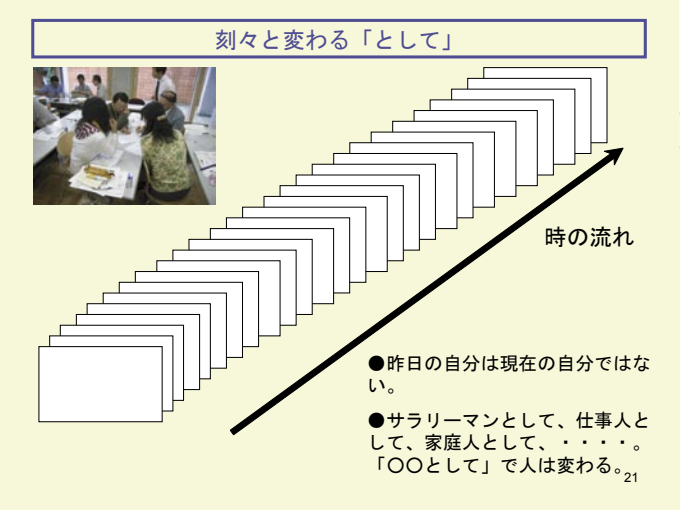
## 第 2 回 「地域コーディネーターとは」

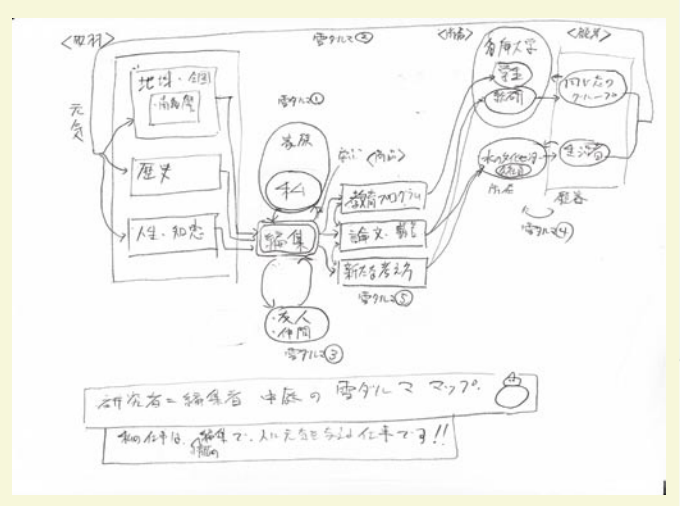
ところが「家縁」は、家を守ることが第一で、相手を変えられない。親は変えられないし、子も変えられない。特に介護などを考える時、この関係のつくり方は深刻です。
また、水道を民営に切り替えたときどうなるか。水道は「公縁」「金縁」の両方があります。それを間違えないようにして欲しい。
例えば、「なかよし」を民間でやるとすると、協力者との関係は変わってくるでしょう。
人間は「～として」という役割で生きています。時間が経てば「～として」も変わります。図解を書くとしても刻々と変わるので　一枚の図解の通りずっと生き続けることはない。おそらく、沢山の異なる図が連続していくものなのでしょう。
自分も変わり続けるということを噛みしめて、″探索者″的になって、地域コーディネーターを務めたいと思っています。
私　中庭光彦はブログを二つ書いています。一つはエヌピーオー・フュージョン研究所長として地域取材し地域を元気にする講座、一つは多摩大学総合研究所のブログです。これらによって。これからも情報提供し続けますのでご利用下さい。

### 質疑応答

質問：探索者でなく調整者ではないか？
質問：地域活動者は軸がぶれないと考えている。そうした補強が必要ではないか？

中庭：「課題ありき」で始まるのが調整です。しかし、今回は、課題が持ち上がる前にどんどん探し歩いているうちに課題を発見するという意味で、探索者としました。話すことはコロコロ変わっても、気持ちはぶれないと私も考えています。



中庭光彦の研究者″として″の図解

Quon net 地域の元気講座

本日の講師　中庭氏

## 第 2 回 「地域コーディネーターとは」

質問：NPO 法人の非営利の意義と、くらし協同館なかよしはどうすり合わせているか。事業として利益が出ないようにしているのか？

中庭：塚越さんは事業を NPO 法人として運営しているので、有償・無償問わず協力しようという人が参加する。ここに民間企業が絡んでくると進んで協力しようという気になるでしょうか？儲けが目的の活動には協力したくない。そこで関係を読み違えると協力関係を築くことはできません。

富永：しかるべき賃金を払うことは NPO 法人上何ら問題ない。営利・非営利の定義を明確に、利益を外に分配するのが営利。学校法人でも利益を学校法人の活動にあてればよい。利益を生むことは持続させる条件だ。
「なかよし」は時給 250 円　これは謝礼金として、賃金ではないと税務署と協議済み。非営利。NPO 事業体＋生協のやることだから納得する。生協はいい生協の大評判を得ているので、生協とも Win-Win 関係になっている。

質問：「なかよし」は利益が出ているか？

中庭：税金払うほどの利益は出ていません。ビジネス、営利事業とはいえないでしょう。

質問：「なかよし」はソーシャルビジネスか、コミュニティビジネスか？

富永:ソーシャルビジネスにもコミュニティビジネスにも該当する。

中庭：ソーシャルビジネスとコミュニティビジネスは同じことを言葉を変えて言っていると、私は考えています。
「利益」と「大事さ」の二軸で考えると、大事だけれども利益が出ないことをソーシャルビジネスと考えています。大事なことをやっているが、利益も出るようやっている事業もあるわけです。

富永：ソーシャルビジネスは、〝利益を出すところにはいかない〟と強い意志を持って実施している事業と考えている。

※このあたりについては、中庭と富永の二人の間でも議論は続く、皆さんが疑問に思うのは極めてまっとう。企業こそが成長の方法と 20 世紀、1955 年体制では考えてきたが、それだけではないと改めて考え始めているのが、21 世紀初頭の今。株式会社からも意志を持ってソーシャルビジネスに参画することもありうる時代。例えば、大企業トヨタでも。

質問：賃金は利益でないのですね。経費ですね。

富永：その通り、働く人に賃金が払われないようでは、持続しない。いずれ、NPO 法人に就職するか、行政法人に就職するかを選ぶ時代になる。「なかよし」はビジネスなみに賃金を払ったら成立はない。お金以外にいろいろの交換提供、対等な関係があるからこそ成立つ。刻々、人も年をとるし、変わり続ける。

質問：ちよだの株主との関係は？

中庭：資料 3 のマネジメントレビューに詳しく書いています。皆が分担しようとして、あえて株式会社にした。その方が金縁が明確になると考えたから実行した。投資金額も大きいし、金縁を明確にしておいた方がよいということです。
地域コーディネーターというよりビジネスコーディネーターではないかと考えます。
ただ、ちよだの場合は、参加者にできるだけ千代田区に住んでほしいという条件も付けていることもあり、地域コーディネーターの面ももっていると考えています。

平成 21 年 9 月 26 日　長池公園自然館にて

# 第 3 回 「ビジネスお助け隊」

講師　前川（まえかわ）　勲（いさお）

## はじめに

OB になったら、思いを持って活動したいと思っていました。その意味からいうと、皆さんとも同志です。
そういう意味でお話しさせていただきます。
創業塾は 5 年目に入りました。アクティブシニア、女性の元気が、社会構造を変えていくだろうと思っています。
私は、1940 年生まれの 69 歳です。電気メーカーに勤め、65 歳定年を 1 年早く飛び立ちました。中小企業はなんとかしなければ、極めて追い込まれているとの思いから、6 年前、ビジネスお助け隊を始めました。
現在 70 名ほどのメンバーがいます。
中小企業の問題は、問題が潜在化しているだけに、多くの企業支援が行き渡っていません。私は、この問題を提起するために、敢えて「見捨てられた中小企業」と、刺激的な言葉を使っています。
中小企業支援のコーディネータの役割は、この潜在化している問題を顕在化することが大きな役目です。
そのためには、スキルよりも人格が優先されます。

## 二つの事例

三年前に NHK が取材してくれた番組の DVD がありますので、それをまず視聴しましょう。
一つは、八王子市の市内 1800 社のうちバイオベンチャーの相談に対して、ビジネスお助け隊の小山勝則、前川勲の二人が訪問し、問題を明らかにしていきました。
もう一つは、創業支援（喫茶店）です。

### プロローグ

・・・中小企業の課題は潜在化いる事が多く、複雑に絡みあっている場合が普通である。

経営者と同じ目線で汗をかいて、課題を顕在化し解決するのがビジネスお助け隊の真髄である。
従って、中小企業の支援はスキルよりも人格が優先する。

・・・コーディネータとしての真価を問われるところでもある

「本気の創業塾は、塾を卒業して起業するまでをマンツーマンで伴走することを特徴としています。番組で取り上げたバイオベンチャーの事例は 5 年間支援をつづけています。

創業支援の事例は、2 年で撤退しました。

**講演に先立ってNHKで放映された映像をごらんください**

内容は

・ビジネスお助け隊の概要紹介
・バイオベンチャーの支援
・本気の創業塾生の起業支援（喫茶店）

### バイオベンチャーの支援

・事実上の債務超過企業
・典型的な研究者タイプの経営者
・人柄と商品の魅力・・しかしスタートを誤った
・この5年間綱渡りのドラマ・・・
　親会社からの独立・・・事業の妨害
　夜の緊急会議
　海外へ技術有償供与
　H19年初めて黒字
　M＆A・・・突然の解消

・・・・ドラマはまだまだつづく・・・・

### 本気の創業塾生の起業支援

社長は元図書館司書

ライブラリーカフェ・・・すごい調査資料

起業家は思いが先行しがち・・・

5万/日　稼ぐのは至難の業・・立地の商売

リスキーな起業・・・撤退の条件を予め設定指導

2年間がんばり撤退

# 第 3 回 「ビジネスお助け隊」

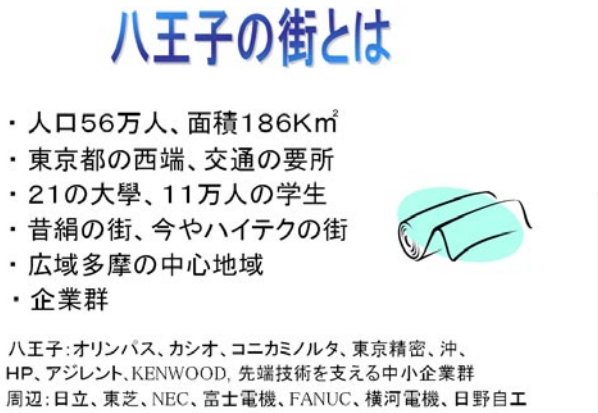
## 自己紹介

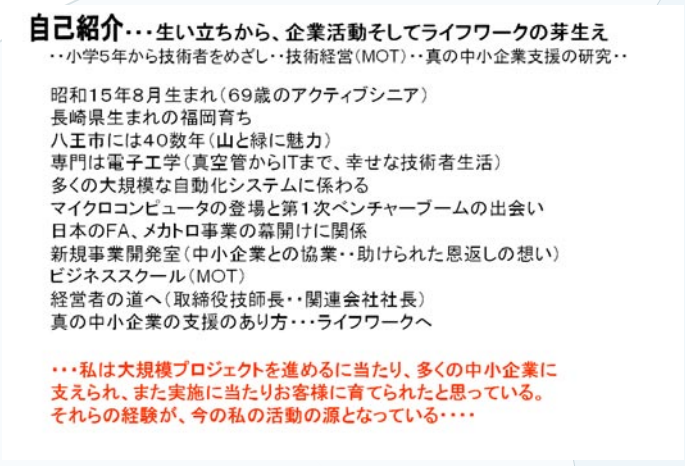
改めて自己紹介。小学5年に電気技術者になろうと決め、それを貫いてきた結果、開拓期の仕事に恵まれました。20 代から大プロジェクトに携わって、日本の FA、メカトロ事業の幕開けに立ち合いました。40 代で新規事業開発室の担当になり、3 年間徹底して学び、人脈広げてきました。特に情報の収集については、業界紙を含めて 6 紙を徹底的にスクラップをして、情報の絞込みを行いました。
この作業は、現在まで 30 年かに渡り継続し、私の事業戦略の大きなノウハウになっています。

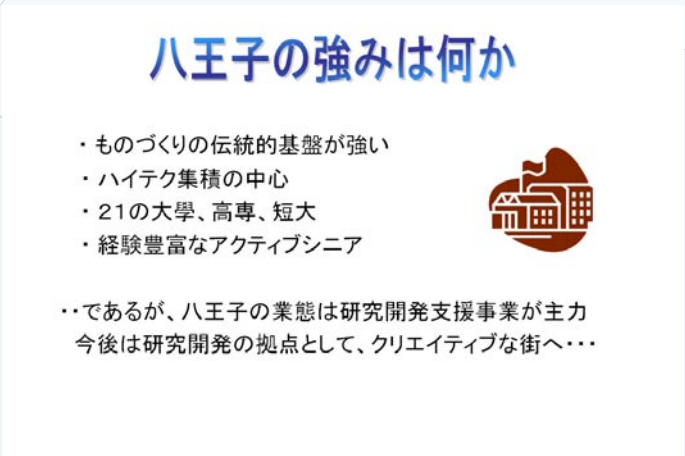
コーディネーターとしてのバックグランドは、人脈のネットワークと実績により、自然に形成されていきました。

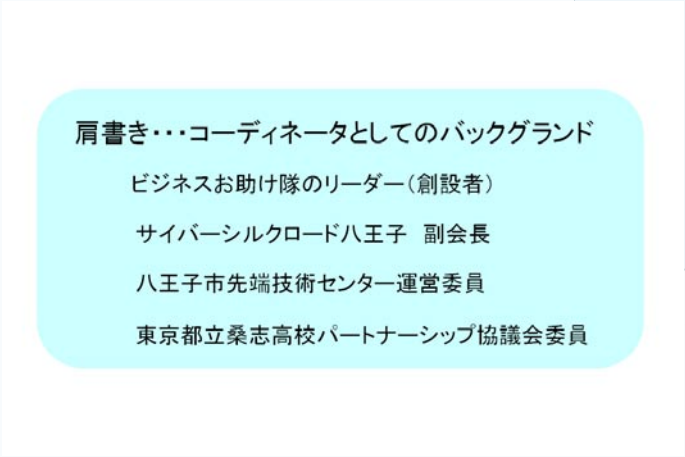
## 仕事の舞台としての八王子市の街

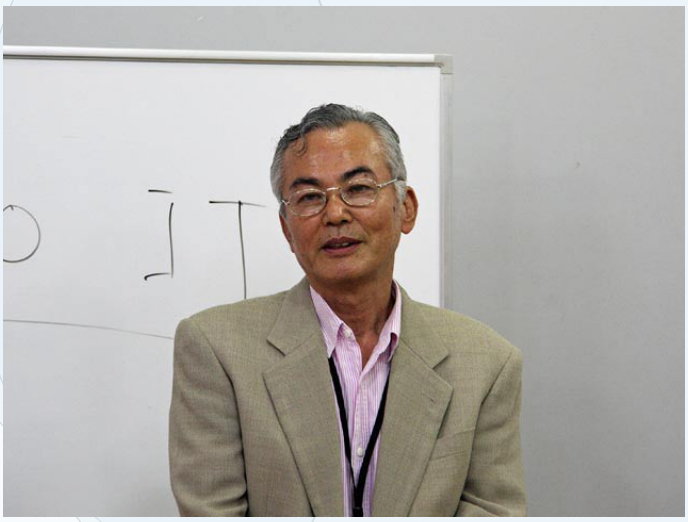
八王子のこれからは、クリエイティブな街になること。
このバックグラウンドは、開発支援事業の企業群と 21 の大學です。織物と桑にこだわらないことです。



講義をする前川氏

# 第 3 回 「ビジネスお助け隊」

## サイバーシルクロード八王子とは

2001 年、黒須市長就任と共に動き出しました。
2001 年 4 月地域産業振興会議の提言を受けて事業が始まります。

組織運営は、事務局と運営委員では活性化しないので、実行部隊である機動隊が必要、ということで、「ビジネスお助け隊」を提案、創設しました。ビジネスお助け隊は、起業で培った知識とネットワークを、社会に還元したいという心意気を、このお助け隊憲章に盛り込んでいます。
従って、細かい運営規則は極力排除して、やりたいことを思いっきりできる仕掛けをつくっています。
だた、八王子市役所、商工会議所の下で活動するので、責任ある活動が求められます。
現在、お助け隊のメンバーは約 70 名で、年間約 100 件の支援案件をこなしています。
最近では、人材育成に重点を置き、「本気の創業塾」「リーダー育成塾」の運営に力を注いでいます。

### サイバーシルクロード八王子とは

正式には「 首都圏情報産業特区・八王子 」構想推進協議会

2001年 黒須市長誕生　八王子を元気な町に

2001年 4月　八王子市地域産業振興会議の提言

- 八王子ローカル・ポータルサイトの立ち上げ
- 求心力のある産業振興拠点の整備
- 創造力のある人材の育成
- 起業家の創出・育成および既存産業の活性化

2001年10月
「 首都圏情報産業特区・八王子 」構想推進協議会設立
（愛称：サイバーシルクロード八王子）

### では「ビジネスお助け隊」とは・・・

- 2003年4月20名で発足、今では64名
- サイバー個人会員を中心に思いを持った人が終結
  公認会計士、税理士、弁護士をはじめ企業OB
- 目的はサイバーシルクロードの機動部隊（実動部隊）として提案
- 当初はWebからスタート・・・現在はFACE to FACE が中心

### 「ビジネスお助け隊」憲章

- **ボランティア精神**
  支援は原則的にボランティアで行う
  専門的な活動なる場合は、ボランティア精神に留意して契約
- **目線を合わせた支援活動**
  支援活動は、利用者に目線を合わせた支援を行うこと
- **八王子市、八王子商工会議所との共同事業**
  （ 公の組織 ）として責任を自覚して、両者と連携を図りながら活を推進すること
- **自主運営組織**
  「 ビジネスお助け隊 」は、各々のアドバイザーによる自主運営組織
  運営であり、組織の維持向上のために積極的に参加すること

## イノベーションのジレンマ

### ついでにイノベーションのジレンマ

ハーバード大・・・クレイトン・クリステンセン論文（2000年）

- 大企業は市場で高収益、高品質の分野へ会社を導く事ができるが
  下位市場へ導く事は出来ない。新規事業は 容赦なく下位市場から攻めてくる
- 大企業は市場の最上層まで上がり詰め行き場をなくしている・・
- 大企業に代わり小企業の台頭とダイナミックな循環特性

この現象が新規企業による新規産業を興し、米国経済の力強さになっている・・・既にEVの分野で・・新産業の担い手は新企業（小企業）であるさて日本では？・・・

## 八王子の広域拠点化に向けて役者・組織は揃っている

### ものづくりナンバーワンを目指して、企業支援 八王子が広域交流拠点を目指す

東京都創造的都市型産業集積創出事業 →

- 社団法人首都圏産業活性化（TAMA）協会
- 八王子市先端技術センター
- サイバーシルクロード八王子（商工会議所）
- 都立産業技術センター（八王子市⇒昭島市）
- 東京都中小企業振興公社（立川 ）
- 首都大學東京産学公連携センター（日野）

- 国費、都費を活用した中小企業の助成金、補助金獲得が主流
- 産学が主流

# 第 3 回 「ビジネスお助け隊」

### 最近の大きなプロジェクト活動

**八王子市緊急雇用対策ビジネスお助け隊との連携事業**

**1. 雇用制度の活用支援事業（助成金申請サポート事業）**
中小企業緊急雇用安定助成金等の雇用維持、確保のための国の各種助成金の説明会を実施し、複雑な申請業務をビジネスお助け隊の協力で負担を軽減し、より多くの事業主へ受給の機会を提供する
実績50社

**2. 離職者創業支援制度（スピンオフを対象にした創業支援事業）**
サイバー、会議所と連携して実施している起業家育成、育成事業、を活用し、勤務先解雇され、新たな収入源として、非雇用でなく自ら起業、創業を目指す人を対象に各種支援を行い、新産業の創出につなげる
実績14人

**3. 雇用維持奨励金制度**
景気の変動等の経済上の理由により企業収益の悪化から事業活動の縮小を余儀なくされた事業主が、従業員の解雇を避けるための自助努力を行っている場合、市が独自に算定した額を奨励金として支給する
40名以下の企業、1人5万円、100万限度、お助け隊の伴走支援が条件
実績（第1次）5000万　申請94社決定85社
（第2次）2500万　申請58社決定58社
合計申請152社決定143社

### ビジネスお助け隊の成果

**「ビジネスお助け隊」の成果（個人と地域）**

- 予定通り機動隊の役目を果たしている（緊急雇用プロジェクト）
- 自分の知識とネットワークが生かせて楽しい
  中小企業支援・・感謝と喜び
  創業塾、リーダ塾、・・・人材育成のやりがい
- 定例会、懇親会・・・ネットワークの拡大
- 八王子市、商工会議所、サイバーシルクロードの3身一体の中小企業支援活動は日本でも珍しい存在
- 総務大臣表彰

**「ビジネスお助け隊」が6年に渡り活動を発展できたのは・・・**

**その仕掛け**

- 民間主導の自主運営
- 企画運営は手を挙げた人（分科会・カフェ運営）
- 市より専任の事務局員2人が派遣された事
- 市・商工会議所との親密な連携
- 交通至便な場所に事務所の提供を受けた事
- 何よりもメンバーの意気、思いが高かった事

コーディネーターの資質は、21 世紀の企業人に求められる資質でもあります。今、コミュニティビジネスとして、福祉、環境、医療、農業、林業等が、急増しています。これらは、将来の日本の内需拡大と雇用の創出に大きく貢献する可能性を秘めています。これからのコーディネータは、これらを真の事業に育てる大きな役目が出てくるものと思います。結論として、いいと思ったらやることが肝心です。JUST DO IT ！

### 質疑応答

質問：PP 2 コマ目に関して

1、中小企業の課題の顕在化に人格必要とは？
2、伴走支援も人格あってこそと思うが

前川：もう少し具体的に中小企業の社主は素直に言えないものです。技には自信があるが、それを語ることができません。金の話としても背景には人、組織の課題も含まれています。それらを一つ一つ明らかにすることから始まります。どれから、どこから専門家を入れたらよいかを判断してからです。支援も押し付けになってはいけません。議論をして、一段落したからといって、それで終わりではなく、1 カ月 1 回でも 2 カ月に 2 回でも情報交換する必要があります。顔色見ながら、押し付けにならぬようにするのが大事です。

質問：無償から始まるとして、どこから有償に切り替えるのか

前川：事業は責任・権限を伴います。これと、ボランティア精神とは矛盾する面もあり、悩みましたが、現在はではある程度までは無償、ノウハウ提供の場面から有償契約にするケースが増えています。有償といっても、相手の予算に合わせて、というのが基本です。予算がない場合、全て無償の場合もあります。

質問：パラダイムシフトを言われたが、これは大きなうねりといえ、端緒になったばかり。コミュニティビジネスの例は何か？

前川：福祉の用具開発、野菜の生産販売、NPO 法人組織で実行する事業、子育て支援、児童・生徒の学習支援、森業、海業も考えられます。
商売として、どの程度やるのか　従来の製品づくりも大いに変わってきています。
趣味のものをつなぎ、指導して事業に変えていくのも、コーディネーターの役割です。
意識的にやる　意識的に金・人を投じることが大切です。

## 第 3 回 「ビジネスお助け隊」

質問：産学というが決定的なものが出てくるのか。
サイバーで何ができるのか、人材育成はどのようにしていくのか？

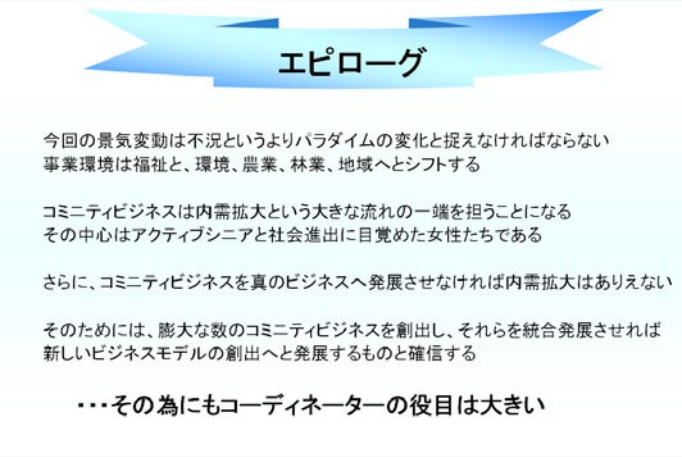
前川：産学は、ある程度の技術が中小企業に求められることと、何よりも、開発よりも販売が難しいので、あまり私は課題な期待はしていない。
それよりも、中小起業の最大の問題は、人材育成と考えている。産業の活性化は、既存の企業の活性化と、新しい企業の創出を考えている。そのために、「本気の創業塾」「リーダー塾」「はちおうじ未来塾（後継者育成塾）」に力を入れている。

質問：創業事例、撤退したというが、こうすればうまくいくという支援はないのか？

前川：これは特例です。
起業される方は何年も夢を抱いて、思いがいっぱいです。これが起業の邪魔をするのです。このケースは、すでに店の契約を済ませた後での支援依頼でした。店の立地も悪く、とても採算がとれそうもないのに、なかなかアドバイスを聞き入れてくれませんでした。そこで、営業戦略と同時に、撤退戦略もアドバイスすることにしたのです。まだ、若い経営者なので、再起できることもあり、「このようになったら撤退する」という条件を家族と相談して決めなさい、とアドバイスをしてスタートしたものです。

富永：暮らしを実感しながらやる仕事。前川さんの話のように事業はまず好きなことから始まるといえるでしょう。そのうち、NPO 法人、個人事業、株式会社など、地域からも離れ、事業が展開することもあるでしょう。新しいジャンルの仕事と考えないほうがよいと思います。
サイバーシルクロードはほぼ 100%、人材育成の仕事をやっているといえます。叩き上げの社長と付き合うお助け隊のメンバーも、異との出会いで成長しているといえるでしょう。

前川：中小企業主は、借金も個人で背負ってやっています。その部分の厳しさは、サラリーマン社長とは格段に違います。

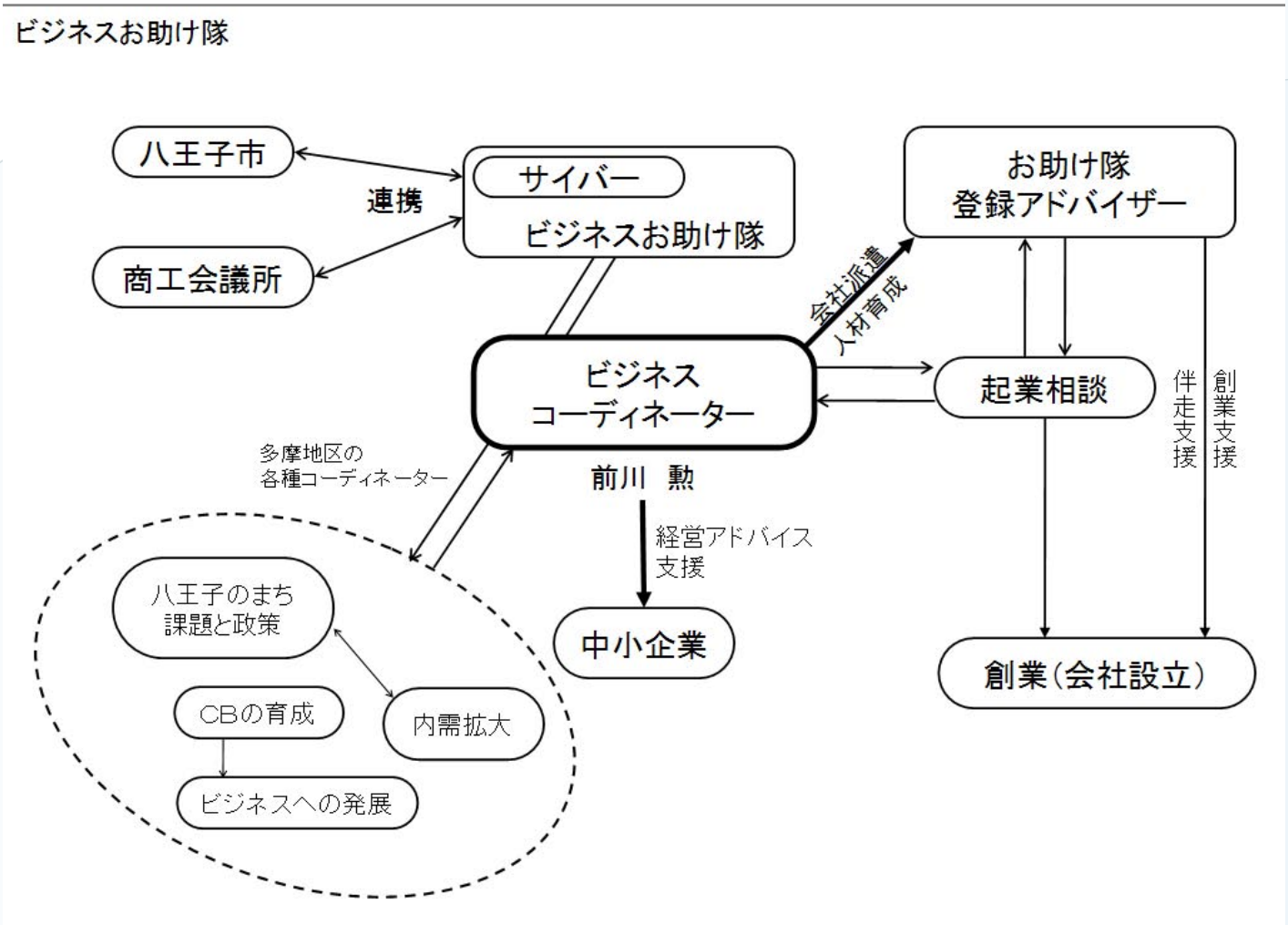


## 第 3 回 「ビジネスお助け隊」

**図解提出の為、参考までにいくつか質問をさせていただきました。**

富永：サイバーへは毎日出勤されていますか？
前川：週三回出ています。妻も仕事をしていて週三回出るのでバランスを取っています。
富永：サイバーの事務局に 4 人いらっしゃいますが、相談は事務局に来るのですか？
前川：相談は原則として事務局で受け付けます。まず一本化します。そこから、ビジネスお助け隊のリーダー、サブリーダーに依頼が来ます。そこで、支援者（アドバイザー）を決めます。1 件、原則 2 名で担当します。

平成 21 年 10 月 3 日　長池公園自然館にて




受講生 U 氏による「ビジネスお助け隊」における前川勲氏のコーディネーターとしての役割の図解

# 第４回「NPO 法人多摩草むらの会」

講師　風間（かざま）　美代子（みよこ）

## はじめに

今日は次の三つについてお話します。
1．NPO 法人多摩草むらの会について（以下「草むらの会」と略します）
2．私・風間美代子について
3．地域コーディネーターについて

## NPO 法人多摩草むらの会について

12 年前（平成 9 年）精神障害者の人を主に、センターの卒業生と親とで立ち上げました。会の名前の由来は、神戸大学名誉教授（精神医学）の中井久夫先生が、力の強い野うさぎが、人参畑へ行って人参を手に入れるには、途中で出会う外敵から身を隠せる”草むら”が必要なのです、という文章から、私たちの手で草むらをつくろうということになり、”草むらの会”と名づけられました。今、日本では 300 万人いるといわれる精神障害者（八王子市だけでも 33,000 人）、そのうち 50 万人が引き込もっているといわれ、彼らの行き場所がまったくない状況です。以前は、障害によって行政の担当部門も違い、精神は厚生省ではなく衛生局担当になり、何か事件が起きるとすぐ問題視されるのです。むしろ、他害より自傷の方が多いのが精神障害者です。自分が生きることの意味を考えてしまい、家族に迷惑をかけると思う気持ちが強く、どうしても家族にサービスをしてしまい、本心が言えません。ある方は、お母さんに「あなたの笑顔が一番好き」と言われ、にこっと笑って外に出て行き、そのまま亡くなってしまいました。

## そんな中で私達に何が出来るか

私たちがやっていることは、ケアホーム・グループホーム・相談センター、精神障害への偏見を減らす普及活動、また、活動資金を得るためにも、市行政、社会福祉協議会、大学等の行事に参加して、物を売っています。その他、自立支援の事業を 4 つ「かんてん茶房 遊夢」「夢畑」「パソコン教室」「弁当づくり」等があり、訓練生が 150 人ほどおります。

地元とのコミュニケーションも不可欠で、「夢畑」の近隣や「遊夢」のある商店街との連携もしております。精神障害者の苦手とすることはコミュニケーションです。そのために私とスタッフは積極的に彼らたちとコミュニケーションをとるように努めています。
また、新たに、おしゃれな雑貨屋さん「夢兎」を 2010 年 1 月に開店します。どの事業所にも「夢」がついていますが、なぜかと言いますと、昔、統合失調症のことを”夢の中の人”と呼ばれていた時がありましたので、その「夢」を名前にしました。
ケアホームは、今 20 人定員。まだまだ足りない状況です。まず、身近な方々に判っていただくことが大事です。例えば、近くの中学校の方々がボランティア研修として入ることがあります。そうすると、精神障害者は優しい人が多い･･･、と少しずつ理解が拡がっています。
知的、発達障害の人との交流やお年寄りとの交流も図っています。また、お弁当販売を主に外に出て行くことにも努めています。障害者をみてもらい、一般の人々と触れ合うことで元気になってもらうのが狙いです。
家族間というのは難しいものです。家族会をやるのは、自分の親以外の人とコミュニケーションをとるためです。
精神障害者をケアすることは大変なことでもあります。例えば事業所のことを考えると、いつ突然休まれるか判らない。事業所としては、いつも人数に余裕を持って、シフトを考えなければいけないので、人件費が大変です。
私は、精神障害の理解を深めてもらいたい、事業所で作っているお弁当を買ってもらいたい、支援ボランティアしてほしいと、多方面に相談や依頼に行きます。

本日の講師　風間氏

## 第 4 回 「NPO 法人多摩草むらの会」

常に、この課題をどうするか、誰に協力してもらったらいいか･･･を考えつづけています。そんな動きの中で、私は素晴らしい考えを持たれた社長さんに出会うことができました。″弱い人達にこそ、儲けてもらいたい″、こういう考えをする人が全国に何人いるでしょう。そういう人たちと手をつなぐことができるのは、まさに外部の情報からです。そういう情報を下さる方々とのコミュニケーションをとることが、私の大きな仕事だと思っております。訓練費を徴収せず、スタッフが多いのが草むらの会の特色です。

40 歳代 50 歳代の子供が発症した時、親はもっと大変になります。どうしたらいいのでしょう。親同士は責任の擦り合い、本人の病気のことだけ考えればよいわけにはいかなくなります。この病気は、家族全部を巻き込むことになるのです。
なるべく色んなところとのコーディネートはやらねばならないと思っていますが、ある程度のところで限界にぶつかることもあります。草むらの会の事業所の周囲には女子大が多く存在します。例えば女子大とのコーディネートをもっと深くやろうとすると、草むらの会のメンバーの調子の良し悪しで問題が出てきます。声をかけてもらった時、知的障害の人を支援する団体を前面にして、草むらの会として弁当を売る、など、特定目的に限定して行なおうとしています。
事業所のスタッフの中には、年輩の方々がいらっしゃいますが、こうした支援をしたいと若い時から考えてきたが、賃金が低いので第 2 の人生に入ってからやることにした人も多くいらっしゃいます。そういう方々は人生経験が豊かなので、精神障害の人たちが相談しやすいのです。落ち着いた雰囲気があると精神障害のある方は安心できます。精神障害の方は気持ちが優しいので、この人は判らない人だと思うと口をきかないで離れて行きます。彼らは、体力もあり、同じ話を何度でも丁寧に聴くので、高齢者のお世話にも向いています。
こうして、少しずつ理解が拡がっていますが、次は、若い人達や、子育て世代に伝えていきたいと思っています。子育て期にわかっていたら、こうはならなかったと、精神障害者の親達は言っています。
「草夢（そうむ）お掃除部隊」もこれから動き出す予定です。何とか普通の人達の場で仕事をしたいと思っています。精神保健福祉士を目指す若い人たちが増えてきていますが、地方のその親御さんたちには、精神障害はもちろん NPO 法人も判らない人が多いのが実態です。危ないところではないのか。包丁も使っているところで大丈夫かとさえ言われたことがあります。それを乗り越えて資格をとり、草むらの会の事業に参加してくる若い人たちには、本当に感謝します。自分の足元を深く掘って、外に広く目を向けて、そしてコーディネーターを務めるということが、私にとって大きな課題でもあります。

かんてん茶房　遊夢

**ファシリテーターとの対話**

富永：情報発信がまだ少ないように感じます。むしろ隠しているのではないですか？

風間：親が隠しているのではないでしょうか、本人が隠れたいという気持ちは判りますが。

富永：隠した悲劇の事例、認知症も進行しますよね。
自然館を始めて 1 年以後から、障害者団体の希望を施設の容量一杯になるまで受け入れて、物販のお手伝いをしてきました。慣れれば当たり前になることは、隠さないことから始まると実感しています。
自然館の屋内の掃除は、毎日（週 6 回）、毎月 1 回の定期清掃、毎年 1 回の特別清掃をしているのですが、そのうち毎月 1 回の分を専門会社から草夢に委託することにしました。訓練生の働く場がなくて困るという話を聞いてから、自然館から提案していこうと思ったのです。

富永：草むらの会で物事を決める時は、どのようにしているのですか？
風間：風間からスタッフに相談しています。スタッフは 52 人いますが、3 ヶ月に 1 回、所長クラス 7 人と相談す

## 第４回「NPO 法人多摩草むらの会」

るのです。日常的にはそのうちの３人と相談して決めています。NPO 法人の理事会は年４回（主に事後報告）あります。理事は６人いますが、風間以外は日常業務にかかわらない立場の人です。

富永：自然館清掃のこれからについてですが、2009 年７月～９月の３ヶ月の実施していただいた実績に基づき、屋内の掃除総てと屋外（毎週２日）の仕事を追加することにしました。話の発端は草むらの会のお困りごとを聞いて、富永は何とかしたいと考えて始めてみました。これもコーディネーターの仕事です。
さらに、テレビで偶々コーティング技術の開発者の映像を見て、早速風間さんに電話をしましたら、すぐ、これは面白そうと乗ってきて下さった。コーディネーター向きの人と不向きの人では、会話はまったく異なります。それは私の専門ではないと切るコーディネーター不向きの人、一方、いいわね！ちょっと考えてみるわとコーディネーター向きの人は受けて下さいます。

風間：話を聞いたら、まず自分の夢をもっともっとふくらましていきたいのです。相談相手の３人のモチベーションの違いは、一人ひとり得意技が違う、そういうチームにまず話をしてみます。

富永：富永は風間さん向きに、情報を判りやすく届けます。草むらの会のスタッフ１人とメンバー６人が清掃に来た時、矢上さんの指導を受けました。コーティング技術を導入する時も矢上さんの指導を受けて進めることにしました。

風間：年間１億５～６千万円の事業規模なので、とりあえず出資も考えて、企画を進行させることにしました。事業経営と家族会は別です。

風間：「草夢」は「夢兎」に次いで草むらの会の７番目の事業単位です。何か始めようかという時、信頼できる人を見極めて、その人の話はまず大事にすることです。事業単位を増やすのは、所長（事業単位の長）なら所長を信頼しているからできることです。
富永：楽観的にものごとを考えることが大切です。特に新しいことをやるときはポジティブな夢を見ることです。人間、信頼しきれる人はせいぜい片手の指、５人程度です。人からの話しはどうしてと問わず、自己責任で受けることです。そして、自立しているから人のせいにしないのです。しかし、一人だけでは孤立するので、つながることを考える。それが地域コーディネーターの一つの典型です。

風間：何でもその時その時、現時点から先に方向を見定めています。
富永：自分にはできない夢をこの人にまかせる。これが富永型コーディネートです。コーディネーターには各種あります。館長７人はそれぞれ限定的コーディネーター、風間さんは世界を拡げるコーディネーターですね。

**質疑応答**

質問：機器の分解を仕事としてやったことありますか？

風間：それはありません。パソコンの入力は仕事として受けたことがありますが。
富永：障害者団体には得意技がいろいろあります。

質問：障害者支援に関して、隠したい気分はまだ多いと思う。障害者の程度に大差があるが、草むらの会は通所か？

風間：通所の部分と宿泊訓練の部分があります。障害の重さも知的障害と精神障害で違います。障害の程度に関し、級のランク付けというのがあります。精神障害の人は、能力はあるが、疲れとか意欲とかによって変化が激しいです。YES というが NO とは言えなくなるとか、心の中のことは見えないので難しいです。支援のスタッフは、資格より感性が大事になります。彼らは感性が強いので、相手をすぐ見抜いてしまいます。

2009 年 10 月 10 日　長池公園自然館にて

## 第 4 回 「NPO 法人多摩草むらの会」

富永：自然館で障害のある人と接し始めたとき、どうしたらいいか判りませんでした。知的障害の人には身振り全体で好意を表現して下さいと言われました。それ以上はスタッフにおまかせしています。自然館側もスタッフに限定して接するようにしていて、それも支援の一つだと思っています。精神障害の人は、言葉一つでも傷つきます。

風間：応援するという雰囲気も大切です。それで安心して働けるのです。働く人の時給は200～800円の幅です。

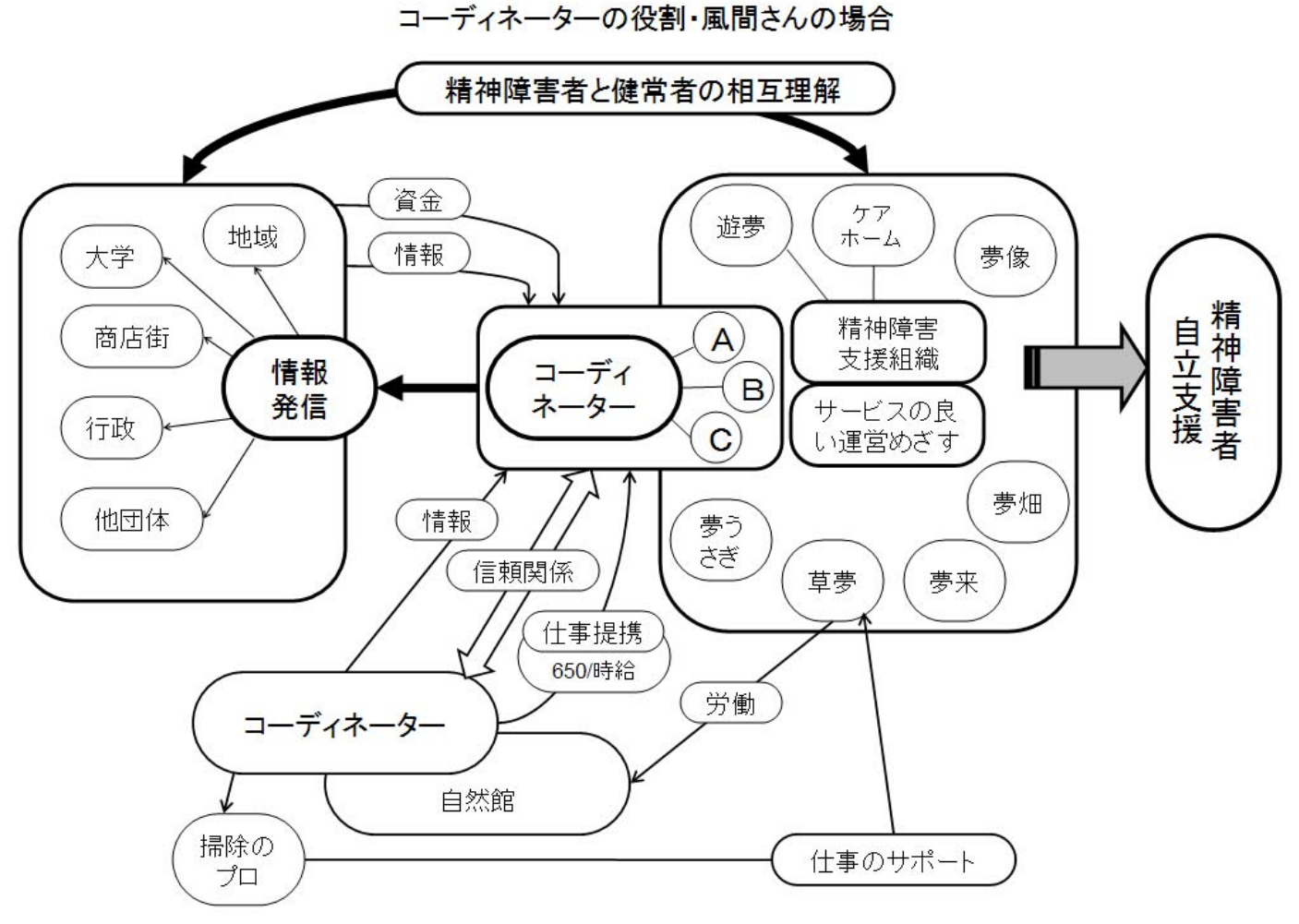
富永：初めて時給を聞いたときは驚きました。

風間：内職型の事業をやめたのは、賃金の安さのためです。この構造には問題があります。

富永：一方で、家賃＋光熱費を公費負担にしているなど、いわゆるビジネスとは大きな違いがありますね。そういう土台で実施できる「「遊夢」」のような、人にやさしいレストランという福祉事業は、地域の財産だと言えますね。

質問：コミュニケーションが大事と言われますが、自然館で掃除をする時どう考えるか？

風間：まず、仕事をやり切ることが大事です。受け入れられているという空気を感じるだけで大きなコミュニケーションが生まれます。病状が出ていない時は話しかけても大丈夫です。多くの場合、上からの威圧的な話し方は苦手です。ですから、受け入れる気持ちのある方を、障害のある人は敏感に感じとれています。優しい気持ちの人が多いのです。それでも、精神障害の人は行き場所がないので、引きこもる人が多いのです。「遊夢」はスタッフとメンバー、誰が誰か判らないように運営しています。ですから、かえって来店者も自然に振舞ってくれて、障害のある人も安心して働いているのです。




受講生 T 氏による「NPO 法人多摩草むらの会」における風間美代子氏のコーディネーターとしての役割の図解

# 第５回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」

講師　桑田（くわた）　俊夫（としお）

## はじめに

農業生産法人名は（株）グリーンピア相模原〝モナの丘〟は農園名です。

話をできることが嬉しいし、やっていることを知っていただくのが必要なことと感じております。
農業生産法人として、ただ農業をやっているだけでは、将来悔いを残しますので、常に夢を持って新しいことにトライするように努めています。

私たちの組織は、23 歳の若者も含め従業員数 17 人です。　扱い品は、果実としてはこれからイチジクをやる予定です。地域の農家を巻き込み、協力していただき、販売はこちらで一括して請負っていきたいと考えています。

## バーベキュー

モナの丘にはバーベキューの施設がありますが、そちらには、大勢の方に来ていただいています。お客様は 70 人 / 日くらいいらっしゃいます。食材もこちらが提供するだけでなく、近くに住む農家から、お客様が調達してもらうことも考えています。

## 養蜂

養蜂もしておりましたが、ミツバチは、臭いを消した農薬のために全滅してしまい、方向感覚を失って、どこかへ行って戻らなくなりました。
死蜂は行方不明です。18 箱絶滅しましたが、2009 年から 5 箱トライしています。東京都内のど真ん中でやっている養蜂のミツバチは元気です。それは農薬を使っていないからです。

## 野菜の販売

直売所や市場に出してもいいのですが、農場で売ることで、食に対する関心を高めたいという思いから、お客様と対面し、お話をしながら売っています。4 年目からは、ようやくいい品が出せるようになり、日に日にお客様が増えています。旬すら知らない人たちに、旬のものこそおいしいと話してきました。喜ばれているのですが、話のみで、ものを買わないで帰る人も出てきてしまいました。

モナの丘　バーベキュー施設

モナの丘　野菜売り場

# 第５回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」

### 農業レストラン

食材を料理の形で味わっていただきたいという思いで始めました。北里大学との連携でカレーを出しています。本来のインドカレーは辛いし、スープカレーなので日本人の口に合わない。ネパール出身（男）のコックさんが工夫をして、ナンとカレーを日本向きにしてくれました。バジルナン、ニンニクナンなどが好評です。カレーは、玉ねぎを煮込み続け、より美味しくしています。有機玉ねぎは美味しいと好評です。
価格は900円水準で、肉や魚料理も出しています。新聞、雑誌が取材をしてくれるお陰もあり、いつもお客様で一杯です。何故来てくださったのですか？と聞くと〝美味しいから〟と言ってくださいます。枝豆、玉ねぎ、おいもなどサラダ仕立てで出して、１皿50円、こちらも安くて美味しいと好評です。座間キャンプにも伝わって、そちらからもお客様が来てくださるようになり、兵隊さんも増えてきました。皆さんよくしゃべるし、いつも店内は賑やかです。味合って、食材を買って、料理して下さい、と言い続けています。そういう話をしながら、レジ脇に立って元気をもらっています。

### 循環型農業

循環型農業、これが当初からのねらいです。近頃は土から取っても、土に戻さないから土が枯れてしまって、足らないと化学肥料を多用してしまいます。野菜も、形はできるが、中味がないという状態です。

相模女子大学の協力を得て、栄養分析をしているところです。液体肥料（壜に入った実物を見せて）食品残渣（準アミノ酸）のゴミを微生物で分解して液化しています。アンモニアを含むので、においは強いのですが、アミノ酸、その他、多様な成分を含み、噴霧器で葉にかけることで同化作用を促進できるようになります。従って植物の力で甘みを増やしていくことができるのです。１月頃の人参は砂糖を食べるように甘い！グリーンピアのネギは一級品とスーパーでも言われています。地球の最後は微生物が支配し、人間ではないと思うのです。

### 堆肥

堆肥も作っています。相模原市内では、鶏糞、豚糞やコーヒーかす、茶がらなど大量に出るので、それをもとに作っています。雨、風にたたかれた堆肥が最上のものです。ところが役所は屋根をかけ、コンクリートを土台にしてやれなどと言います。しかし、雨風に耐えたものこそ強い堆肥ということを、私は北海道で学びました。グリーピアにはお金がなく、とても屋根や床は作れないので土の上でやっています。温度が上がり過ぎると腐敗するので、上がり過ぎないように対策を考え、半年～１年発酵させています。
堆肥だけに播種して育てる実験をして、取れた野菜の成分を分析して（相模女子大学）、確かめてから応用しています。人がなめても害のない肥料を植物にやるのです。堆肥→微生物分解→アミノ酸化→それを植物が吸収します。この過程に対して微生物の生み出した液体肥料は過程を省略できます。自然のものは自然に返すが基本です。

モナの丘レストラン

# 第５回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」

### 産学連携によるモデル

利恵産業（市内、八王子市の給食などの事業者）などと組み、循環型を目指しています。　相模女子大学としては、大学の差別化のため食に関する教育を幼、小、中、高、大に実施し、循環型農業も幼稚部から実施しています。教育に時間をかければよくなることを期待しています。大学側は糖度（これは多いほど美味）と硝酸塩（これは癌のもと）の分析を担当しています。EU では、硝酸塩 3000ppm 以上は販売禁止なのに、植物の成長に必要なものだから、硝酸塩を増やす施肥が必要だが、熟成・出荷が近づいたら、硝酸塩を増やすような施肥はしないようにしなければいけません。今後、教育の中で取り入れていきたい主題の一つは抗酸化野菜（いろもの）です。例えば、人参などをバランスよく食べること。この点はこれから注目されるでしょう。

相模原市内身体障害者団体ともう一つの法人化を進めているところです。国の補助がなくなった為、自前で建設した大きな温室三棟で、障害者の方が働ける環境を作る予定です。2010 年 3 月から商品出荷が可能になります。

農家の現状は、金は持っているが稼げません。とりあえず、土地の切り売りでしのいでいるのが実態です。相模原市内には農業生産法人が 3 ～ 4、認定農家は 54 戸しかありません。それでも農ではメシは食えません。農業育成は絶対必要ですが、市農林課、農業委員会に農業知っている人はいません。どこに専門家はいるのでしょう？市農協にもいなくて、難しい話をすると県へ聞いてくれ！と言われます。農業の現状は寂しく、相模原市では 5%しか食糧自給できていません。

気象異変で、土の中でも虫が元気です。昔は〝てんちかえし〟で土中の虫を表に出して凍死させたのですが、今では出しても冬眠で越冬します。そこから考えないといけないので、苦労が多いです。

消費者教育は、金さえあればいい、売れればいいではまずいのです。金があっても食材が買えない時代が来るかもしれません。今から対応しておかなければなりません。一方、農業では食えないという現状をどうすればいいか、今後の課題です。

### 農業生産法人

農業生産法人グリーンピア相模原、中味はちっとも偉くありません。おそらく年間売り上げ 1 億円になっても利益は出ないでしょう。その課題に取り組んでいこうと思っています。
ブランド化について、ニンジン　長ネギ、その他ハーブ関連で考えているところです。

### ファンづくり

ファンづくり、ファンはとても大切です。ファンが増えてくれたおかげで、口コミで販路が拡がりました。
直売所はまだ小さいので、大きくして地元農家の産品も売れるようにしたいと考えております。
働く人の所得はまだ低い水準です。それに比べると公務員は高給です。
平均年収 800 万円水準。役所の方も、もっともっと考えてほしいと思います。農振地域ではレストラン禁止という条件を、やっと改めさせました。役所、行政との対応は大変です。嫌なことを言わないとよくならないのです。
料理について
カロリーだけの料理でなく五感に訴えて、美味しいな！と感じる料理にしたい。
モナの丘へ来て、花粉症もアレルギーも治まってきている人がいます。年寄りなら何を食べても大丈夫かもしれないが、それはともかく、若い人、子育て期の人、子供達には良いものを食べてほしいと願います。そのように考え、接してやって来ています。評価は〝お客様〟がしてくれるので判りませんが、消費者と共に共存共栄でいく、との思いを理解していただければ嬉しいです。

# 第５回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」

**質疑応答**

質問：もともと農家で、農業生産法人にしたのですか？

富永：前に話された、法人を作るまでのお話をお願いします。
桑田：広島県出身で、1960 年に大学を卒業しました。日本大学経済学部から富士通に就職。7 年ほどして LP ガス子会社創設に出向しましたが、タンク用地の周辺で反対にあい失敗。土地を売り切って処分。その後プロパン会社を経営し、65 歳まで続けました。辞めてから、農家の資格のある人 4 軒に協力してもらい、農地 3.5 ヘクタールを提供してもらい、農業生産法人を設立しました。株式 2,000 万円出資しました。農地には、25,000 円/10 αの地代を払っています。
お客さんが欲しい物を欲しい量作ることで何とかペイしています。病院、レストラン、食材メーカーなど。

質問：営利目的の株式会社ですよね。

富永：株式会社でも配当なし（非営利）もあるのです。
桑田：出荷を増やしても利益は増えません。経費も人件費も増えるので、水田なら増やせば利益を生むのですが、畑では無理です。

質問：いいものを作るが効率がわるいのか？

桑田：化成肥料や農薬を使うとか、家族だけでやれば利益を生むかもしれませんが、有機、無農薬では難しいです。殺菌剤（PH2.1）をかけるとあるいは効果出るかとやってみようと考えているところです。
しかし、これは害虫には効きません。

質問：モナの丘のもうける方策は？

桑田：二次産品を作ることです。レストラン＋バーベキュー場を増やすこともそうです。逆にそういうものがあるから農のマイナスを埋めているといえます。日常生活圏で売れるので、いずれ１億円を目指したいと思っています。今は、よく売れても 6,000 万円 / 年の野菜の売上げです。

質問：都市型農業の食育可能性に期待をするが、54 認定農家や 4 法人がその方向で活動することはあるか。桑田さんのような考え方は拡がるのか？

桑田：今、私のような考え方の農家はいません。体験することは、日常的に受け入れています。
有機は大変だからと敬遠されます。農薬だ化学肥料だと、そちらに流れてしまいます。そこで、この考え方を地域に拡げるように、産・学・農・官連携の苦労の多い途に協力しているのです。

富永：大学との協働は日常的に大仕事ですね。
桑田：これを解決するのは教育です。情報発信にこそ期待しています。
富永：社長がしゃべると、ホームページもパンフレットも、できる人が協力してくれるのですね。その〝人〟をみつけることもコーディネーターの仕事ですね。
桑田：事業に魅力があるからか、能力のある若い人が集ってきて、不思議だが辞めないで続けてくれています。
富永：そういう若い人が育ってきてくれると世の中がよくなると思いませんか！
桑田：そうですね。
富永：リーダーシップの型はいろいろ違います。先頭に立つのではなく、羊飼いのように全体を後ろや廻りから進む方向を示すリーダーシップもあります。

質問：もうけることでなく、社会をよくすることが目的ですか？

桑田：ことを起こすために農業生産法人にしました。役所がいいというから株式会社にしただけです。今、話しても信じてもらえないが、私はもうけることなんか考えていないのです。

質問：従業員の処遇をどう考えてるのか？

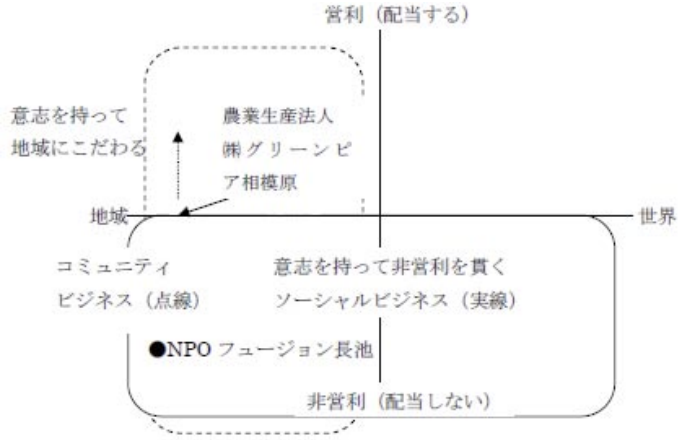
桑田：仕事の夢を持ち、やっていることに誇りを持っていこうと常々言っています。そうするとお金がついてくるものです。これでは、飯食えないからと言って、金を追い始めると無理が生じてきます。社長にぶらさがっている気持ちの人はいらない。一緒に仕事をして途を拓こうと話しています。

## 第５回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」

富永：社長と同じ立場にいる私も、同じ矛盾を感じています。今、フュージョン長池公園の現状は、有給15,000時間、ボランティア33,000時間。行政はそれなら有償を削れと平気で言います。
ボランティアが気分よく活動できる環境を、誰が苦労して作っているかを考えようとしないのです。
戦後日本で、初任給が当たり前に４月に１ヶ月分支給されるようになりました。農耕民族としては、働いて１年、収穫があって山分けが当たり前。
そうした貢献に応じて収入があるという当たり前のことをまず考えてほしいのです。

富永：ここでファシリテーターによる概説をさせていただきます。

コミュニティービジネスとソーシャルビジネスについて図を使ってお話させていただきます。




ビジネススキルを用いた課題解決を行い、法人の形態は方法の選択に過ぎないのです。

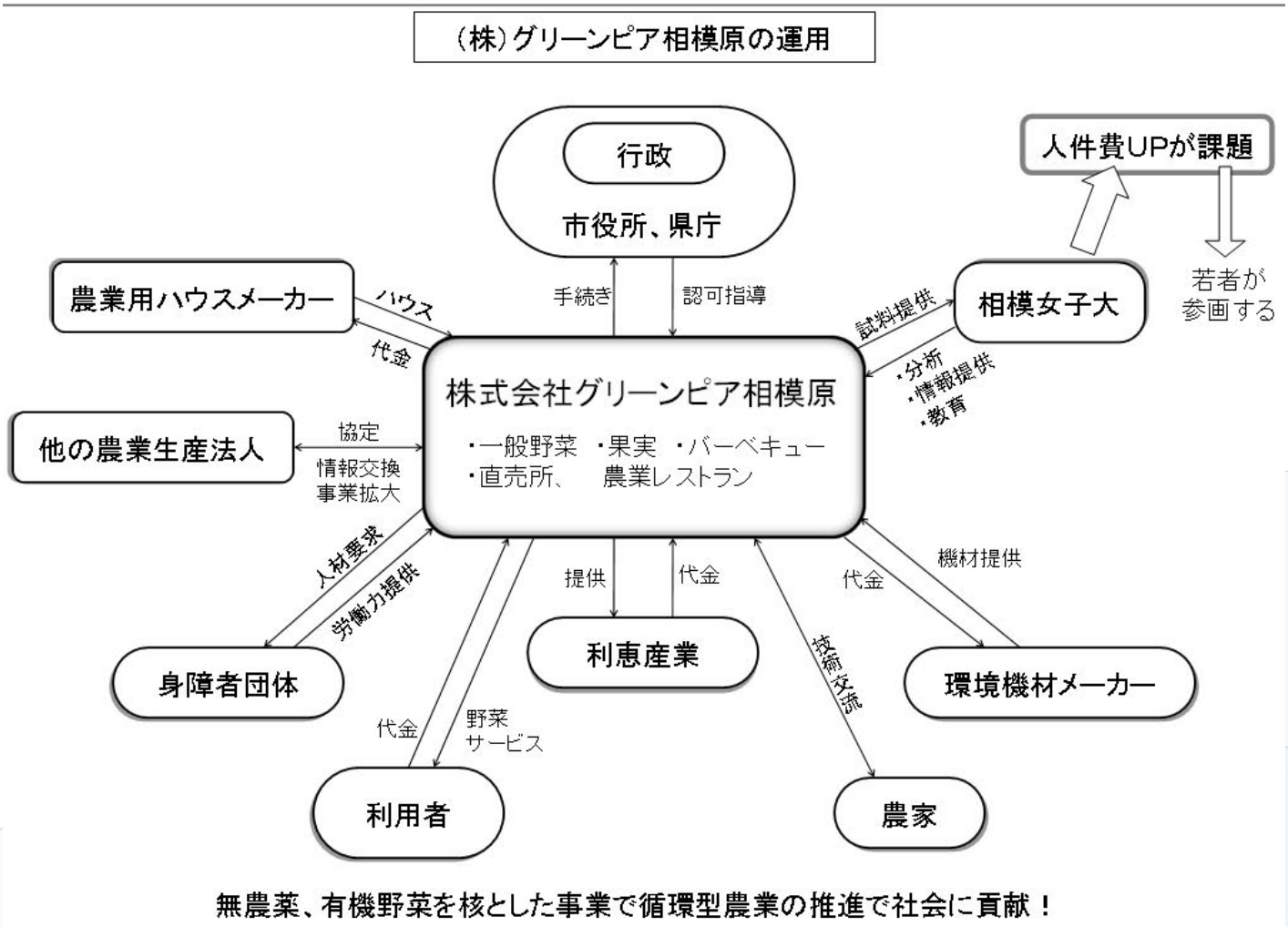
桑田：その通りだと思います。

質問：株式会社なら、高邁な理想をかかげるのもよいが、利益を上げて、もっと賃金も払えるようにするべきではないか。NPO法人ならばボランティアに頼ってもよいが。

富永：有給ボランティアという考え方はやめてほしいと思います。有給は労働基準法を守ることが原則です。ボランティアは、自分の意志で無給で活動することです。このことをきちんと区別し理解して、困ったもんだという話には、自ら解決するように動いてほしいと思います。
国レベルでは、公務員も意識を変えようとしています。これからは、具体的な事実を持って社会課題の解決に挑戦してほしいと思います。いずれ、行政に就職するかNPO法人に就職するか選択する時代になります、そうした社会にしないと、世の中はよくならないと国家公務員も言い始めています。そのためにも具体の一つ一つを積み上げ、視えるようにしなければなりません。
非営利事業を豊かにしたいのでかせぎたい。労働基準法にも抵触しないように若い人の賃金も上げたいといっても、行政はかせぐことまかりならん、といい続けるでしょう。
まもなく、はちおうじ志民塾は国の認定プロジェクトになり、この講座の記録も志民塾の発信材料になります。是非、皆さんも自らの発信と行動を起こしてください。

ファシリテーターの富永氏と本日の講師　桑田氏
10月17日　長池公園自然館にて

## 第５回「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」




受講生Ｓ氏による「農業生産法人グリーンピア相模原（モナの丘）」における桑田俊夫氏のコーディネーターとしての役割の図解

# 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

講師　田中（たなか）　純（じゅん）

## はじめに

講師なんていうと偉そうですが、「毎年こんなことをやっていますよ」ということをお話しさせていただきます。
何なりと質問してください。
本日の進め方としては、自己紹介の後、多摩テレビが取材した 2009 年の長池ぽんぽこ祭りの様子を 5 分ほど視聴していただき、その後、資料をもとにお話しさせていただきます。

## 自己紹介

私・田中純は、1956 年 6 月 26 日生まれ　53 歳　蟹座　O 型博愛型の人間です。
小平市へ通勤する会社員。最近は IC の設計の仕事から輸出管理に移行してきました。技術者 2 ～ 3,000 人の仕事を国の条件に照らしてチェックしています。コンプライアンスの仕事です。
趣味は、ジョギング、マラソン大会に参加することで、スキーは 18 歳から始め、27 歳で 1 級を取得しました。
SL も大好きで、今でも追っかけをやっています。1997 年 8 月から長池地区に住み、富永さんと知り合って、NPO フュージョン長池の理事にもなり、今日まで活動を共にしています。

## DVD 視聴　その内容から

長池ぽんぽこ祭りは見附ヶ丘連絡協議会主催　NPO 法人後援で催されています。
夕暮れのフラダンス。巨大カメと遊ぶコーナー（2009 年初めて参加）などの映像の後に、お祭り事務局のインタビュー　が収録されています。
そもそも地域のコミュニケーションを図ろうと、知らない人同士が集って、交流のきっかけづくりから始まりました。長池ぽんぽこ祭りが地域にとけこみ新しい人の参加も増えてきました。
ぽんぽこかわら版 No.64 は、1,2 頁に祭り特集を掲載。この写真に写っている位の人数が集まってきているのです。

八王子市長池公園　ながいけ　2009. 10 No.64
ぽんぽこかわら版
http://www.pompoco.or.jp/nagaike/
第14回長池ぽんぽこ祭り
2年ぶりの賑わい
Cortona
http://www.cortona.jp　Tel 042-670-8668

## 長池ぽんぽこ祭りの歴史

せせらぎ北団地（私の住んでいる団地の隣）で行われた「平成たぬき合戦ぽんぽこ」上映会がきっかけになり、その団地の当時の理事長富永一夫さんの主唱で、各団地の楽しみ方で見附ヶ丘フェスティバルを開催しましょうということで、1997 年、長池公園姿池周辺に各団地がテントを出して、見附ヶ丘フェスティバルを実施しました。
1998 年、私の入居した団地も初参加したのですが、台風禍の為、せいがの森保育園の屋内や各団地集会所で実施しました。
1999 年からは、名称も現在の長池ぽんぽこ祭りに改称され、最初は富永さんと田中が中心となる態勢だったのですが、富永が NPO フュージョン長池の活動へ主軸を移した為、お祭りのほうは田中事務局長の体制となりました。2000 年まで日中の 15 時終了で行なってきましたが、2001 年からは、電源配置作業も主導可能になったので、本格的なお祭りらしく、時間帯を夕方に移行しました。その後は年々参加者も増加してきました。

# 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

**長池ぽんぽこ祭りの歴史**

1995年：せせらぎ北団地で「平成狸合戦ぽんぽこ」の上映会実施
1996年：第1回 長池ぽんぽこ祭り(当時は見附ヶ丘フェスティバルという名称)実施
夏休み最後の日曜日、各団地で、それぞれの楽しみ方で実施(日時の統一ができた)
1997年：第2回 長池ぽんぽこ祭り実施
長池公園・姿池周辺に各団地模擬店出店(日時、場所の統一ができた)
1998年：第3回 長池ぽんぽこ祭り←私、初参加
ただし、台風直撃のため規模を縮小し、一部屋内で実施
1999年
～2009年：第4回～第14回 長池ぽんぽこ祭り実施
(2001年から夕方の開催となった)

## 長池ぽんぽこ祭り開催に向けてのコーディネーターの役割

お祭りの準備は、メールの交換と月 1 回の対面会議で情報の受発信を実施しました。情報共有の核をコーディーター（田中）が務めています。毎年、多くの団地・管理組合では、5,6 月に役員交代をするので、申し送りが行われ、新役員さんが引継ぎを終えて会議に出席してくださいます。
準備については各団地流のやり方にまかせ、ペースを見ながら全体の調整を図っています。7 月頃から各団体の提案の重複調整などに入ります。広報が重要なので、例えばポスターを製作し、近隣の店舗などにお知らせの協力を得ています。かわら版 7 月刊では、お祭りの予告をし、地域全戸に見ていただけるよう、ボランティアの方が配布協力をしてくださっています。官公署への届けをし、全体の流れを見ながら、当日の役割を各団地等へ割当てています。事務局の役割は、当日は黒子に徹して巡回し、9 月の反省会で総括し、来年に備えるのです。2009 年のお祭りも事故などなくほっとしているところです。
本腰を入れるのは例年 6 月からです。行動の割当や強制はなく、各団地等の進行準備の調整と、会場全体とそのインフラの取り仕切りが重要な仕事になります。

## お祭りの経営の条件

何故今日まで続けてくることができたのかを、お祭りの経営条件からみてみましょう。
人：これは地域の人。
その集まる場の取り仕切りをします。
物：長池公園のあることが大きい。そこに各団地等からテントなどを持ち寄ります。
金：会場全体、照明のための工事が必要です。その費用は用意しなければならないので、9 団地で分担捻出しています。その他費用のかかるのは、ポスター製作、オーディオ機材の手配などです。模擬店の売上で負担金も捻出し、各団地等は持ち出しが無い程度の単価設定で、±0 になるようにしています。一言でいうと、自己負担の地域大宴会と言えます。地域で楽しみ、その費用も皆で分担持ち寄り、究極の受益者負担です。家族総出で楽しむ光景も増えてきました。
情報：共同のポスターや、ぽんぽこかわら版で広報活動をします。運営の情報はほとんどがメールのやりとりです。それができない人は月 1 回の会議に出席して情報を入手するようにしています。
時間：各自、楽しみに応じて無償で時間を持ち寄っています。

**長池ぽんぽこ祭り開催へ向けてのコーディネーターの役割**

4月：各団地自治会役員への呼びかけ
（今年もやりますよ～）
5月：各団地自治会の準備状況確認
（お祭り準備開始をフォロー）
6月：各団地自治会の準備状況確認
（参加希望者の募集、調整）
7月：各団地自治会の準備状況確認
（模擬店、演奏内容の調整、広報活動）
8月：各団地自治会の準備状況確認
（警察、消防への届出、パトロール人員の確保）
8月末土曜日：長池ぽんぽこ祭り本番
（お祭り運営と参加者の安全の確保）
9月：反省会実施→来年への引継

☆メールと月1回の会議で進捗や情報の横通しを実施

**お祭りの経営の条件**

人　：地域人
物　：長池公園、各団地のテント等
金　：会費制（受益者負担）　±0のお祭　り
情報：ポスター等を各団地に出す
時間：ボランティア時間を提供

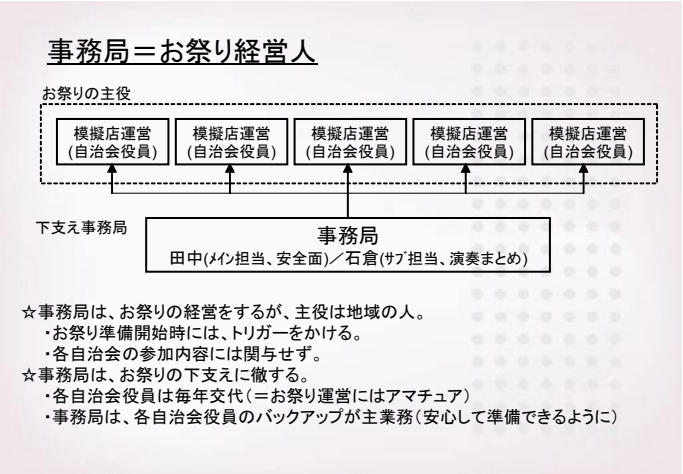
# 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

## 協働とその組織

協働とその組織は、何よりも地域人が支えています。教育人に関しては、地域に立地している保育園、小学校にはテント貸し出しなどの協力を得て行なっています。企業人に関しては、日本タスクスの電気工事の協力やコルトーナ多摩とはプログラム調整が必須になります。コルトーナ多摩の場合、当日、結婚式がなければ参加もあるのですが、毎年結婚式が入るようです。指定管理者としてフュージョン長池公園が、長池公園の管理を八王子市から受託していること、これが空間利用の便を支えています。もちろん、八王子市の使用許可協力が基本の土台であります。そうした重層的な役割分担によって、お祭りは実現しているといえますし、プロジェクト型の組織で祭りを運営しているのです。その日だけの集中的な仕事から 6 ヶ月に渡る緩やかな準備まで、これらをコーディネートしているのが私、事務局人、地域コーディネーターの役割です。

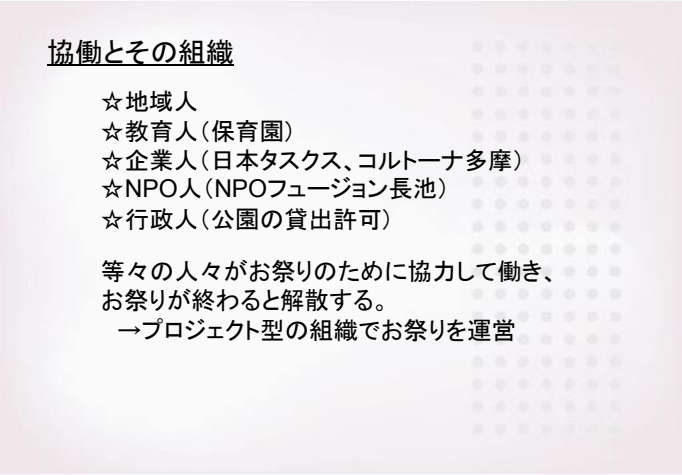
## 事務局＝お祭り経営人

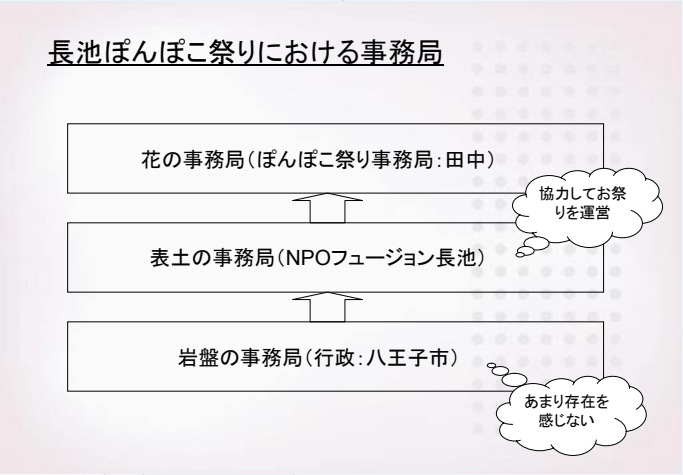
大ざっぱに「こんなイメージのお祭りをやりましょう」と声をあげるのが事務局（田中＋石倉）。これは下支えで、皆が主役、地域の人がやりたいことをやりやすくなるように調整することが大事です。初めて参加のタップダンス、フラダンスについては、例えばエレクトーン天幕の準備とコルトーナ多摩とも音を出す時間などを調整する必要がありました。まだ 14 回です。誰かが〝やりましょう〟と声を上げないと始まらないのです。




その声出しが私（事務局）です。
主役は地域人です。地域の自治会・管理組合とその構成員の市民です。一方、主役側の多くは、毎年役員を交替して、お祭りも初めての人が多いので、問い合わせ、質問などがあれば、事務局が丁寧に毎年の経験で答え、説明してきました。
それも、あくまで下支えです。
「コーシナサイ、アーシナサイ」とは決して言いません。

公園がなければできないし、あればできるというものでもありません。そこに表土となる事務局担当の NPO 法人指定管理者がいて、お祭りそのものを花開かせるのです。花を咲かせるお祭り事務局と公園所有者である岩盤事務局の八王子市を表土事務局が繋いでいるというわけです。



## 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

こちらはお祭りの準備状況写真です。
模擬店のため、焼きそば訓練をやる自治会テントもあります。電気工事や駐車対策は充分に安全を期して実施しています。
10 年間で、約 10 倍の人が参加するようになり、事務局やコーディネートはやめるにやめられないともいえます。

富永：講師のお話が一段落しましたが、あと 5 分あるので、事務局長 1 代目から 2 代目にどう移行したかを細く説明いたしましょう。

富永は 1994 年から在住し、田中さんは 1997 年から在住されています。
急に仲良くなれるわけないと思い、まず管理組合理事を務めました。
そして、翌年 1995 年、阪神淡路大震災が起こりました。勤務先の工場が関西神戸にあり、従業員多数が被災したのです。地域の知人がいる人は助けられたことを衝撃的に学び、何かやらねばと思い始めました。そこで「平成狸合戦ぽんぽんこ」上映会の開催から始め、地域力は忍耐力と思い定めて、近隣の 5 団地に声をかけ、各団地でのお祭りの同日開催にこぎつけたのです。しかし、やってみるとこれでは面白くないので、次には各団地テント一張持ち寄れば 6 帳集まるので、6 倍楽しめると、一箇所にまとめてみました。

しかし、1998 年 NPO 法人を設立し、富永は退職して NPO 法人を始めました。お祭りでは食えないので、事務局の主役を、会社勤めの田中さんに譲って、NPO 法人活動に主軸を移したのです。
カメラ担当の川端さんの発言：
私も毎年祭を楽しんでいるので、実感しているこのお祭の特色を二つ補足させていただきます。
近所の商店に寄付を求めることは一切ありません。21 時終了後、祭りのあとには、ゴミ一つなくなります。この点が他のお祭りとの大きな違いです。

富永：お祭りを始めると、やっているうちに、先輩や年配の人から、ご近所から寄付を集めてこい、それは事務局の役割だと意見が出るのです。そこで、先輩や年配の人に反発してはいけないと、やってみたのですが出来ませんでしたとあきらめてもらいました。
また、お祭りには盆踊り、ヤグラと提灯をといわれたのですが、それも設置できるようなお金はないということで、あきらめてもらいました。
2001 年からは、長池公園自然館の受託者として電源配置作業も主導可能となり、やっと夜間にやれるようになったのです。

## 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

**質疑応答**

質問　事務局で動かすお金は？

田中：今年 2009 年は約 40 万円。電気工事 22 万円 エレクトーン関係 5 万円　保険・ポスター 2 万円などで、初めて余剰金が 11 万円ほど出ました。2008 年、電気工事に 32 万円かかったので、用意したのですが、2009 年は工事を一日に合理化し、22 万円に下がりました。こうした余剰が出たのは初めてです。
ということで、事務局を通して動くお金は 30 ～ 40 万円。各団地が 1 店あたり 5 ～ 15 万円 動かすとすれば、全体で 100 万円といえるかと思います。

富永：私の住むせせらぎ北団地の場合、まず自治会から運転資金 10 万円を借り出し、焼そば 300 円 / 食× 500 食の売上を目指します。その売上から電気工事分担金も出し、借り出しはそのまま戻ってくる計算です。各団地とも± 0 に近づいていることでしょう。

田中：電気工事分担金などは、模擬店を出す団体は 3,5 万円で、個人は 0,3 万円を分担して拠出しています。各店、各人が± 0 になるよう工夫しています。

質問：計画する力はどこにあるのか。私の団地は、祭りは段々縮小してしまう。何故ぽんぽこ祭りは規模が大きくなるのか、その理由は？ゴミの対応と経費は不思議だ。

田中：例えば、私が参加している近所の人とのゴルフのサークル、これが続いているのは幹事固定だからです。年 4 回、きちんとコンペを実施しています。ぽんぽこ祭りも「やりますよ」と声を出す人が大事なのです。次に楽しいお祭りのイメージを共有することです。「みんなが何かやっているのに、うちの自治会のテントはない」と言って参加したいという声を出してきたところもありましたので、どうぞと歓迎しました。来る人拒まずです。（もちろん居住者に限るという条件で）来やすい雰囲気や子供さんが楽しみにしているので、疲れたと言いつつもニコニコやっていますし、また来年につながっているのです。これからも少しずつ拡がる方向にあります。声がかかればイヤイヤかもしれませんが、「楽しかったね」で終るのです。ゴミについては、参加者単位に対応してもらっています。出店の前に箱を置き、自分たちで持ち帰って下さいと呼びかけを徹底しています。事務局には処理能力なしに徹して、決して背負いこむことはしません。翌朝見て廻るといささかはあるものの、皆さんに報告をするほどではない程度です。2009 年はボーイスカウトの協力もありました。とにかく原則どおりに撤収時に各団体が責任をもってやってくださっています。

富永：この指とまれ方式です。私が事務局をやりますという人が定点で動かないことが肝心です。やらない気分の人が事務局になると、この気分が拡がって縮小していくのです。事務局は一人ではできませんが、二人しかいないということを強みにしています。商売人を一切入れないことも、皆でやろうという気になる要因です。今作る人が、今食べる人にと同じ人が立場を変えていくことが共感につながるのです。ネーミングも大切です。「ぽんぽこ祭り」平仮名でやわらかく丸く丸く・・・と勝手に物語をつけることが大切です。ゴミ問題も最初からのしつけが大切です。一番最初はマイクを使って、ゴミ片付けを怒鳴ったこともあります。
会合月 1 回の原則は大事で、毎週会合などでは辛くなって、役員はもう今年限りの気分になってしまいます。会合は最小限が肝心です。事務局は一つでなく、重層なのも重要です、八王子市に安心してもらっていることが大事です。そして、背後からの支援を指定管理者が行ない、事務局と自治会を支えるのです。行政が祭りの事務局をやるのは愚策です。
カラーコーンの移動も車が使えるようになって、あっさり出来るようになりました。NPO 法人の車を、NPO 法人理事でもある田中さんが借り出してすぐできます。お祭りの増巾にはこのような地域の歴史的な積み上げがあるのです。

## 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

質問：お祭りに各団地の役割は決めているのか？

田中：それぞれ団地がやりたいことを決め、必要なら調整しています。押付や割当はしません。

富永：多くの事例は、事務局が押付け分担をしがちですが、長池ぽんぽこ祭りは押付ません。任意参加の団地あり、パスをする団地あり、我が団地は焼きそばに徹する、など、それぞれでよく、それぞれがよいのです。

質問：何が祭りのメイン行事とかはないのですね？

田中：皆で楽しもう。地域の大宴会。雨だったら止めて来年にしましょう。たまたま・・・したい、いいでしょう。それぞれがやることを楽しんでいるのです。テーマを決めようというの意見も出ましたが、誰がどのようになってしまい、やりたいものから離れていってしまうのです。

富永：このまちは口うるさい人が多い所です。目的は、リスクヘッジは、お金は･･･と全て議論になり、それならやめようという話にもなるのですが、一方自立できる人たちなのです。ある程度、人なりに合わせた、それぞれで自立できるように自由にやれるようにの、お祭りです。ワンパターンも 10 集まれば 10 パターン、一つの団地だけでいつも焼きそばでは面白くないが、主題を決めて、人を当てはめようとはしなかったのです。それでも、いささか繋がっていることも楽しんでいる。スタンドアローンのパソコンをサーバーでつなぐように、絶妙のバランスなのです。

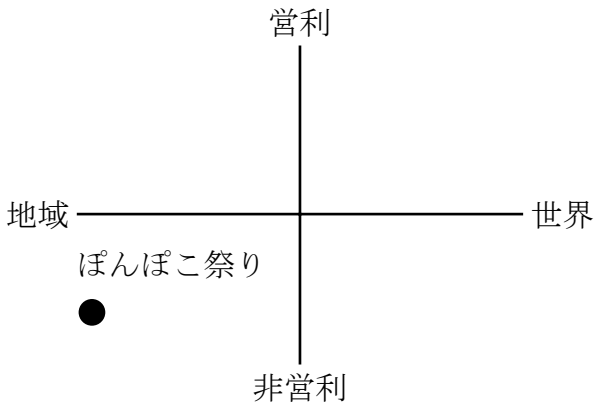
田中：ゴミについてですが、事務局としてはやはり気になるので、次の日見に来ています。

富永：今は、指定管理者が定例・定期の清掃をしているので、目くじらを立てるほどの状況にはなりません。こうした土台があるからやれるのです。今は、指定管理者として公園の使用許可も出せるようになりました。従って、高賃金の市職員が仕事をする必要がないのです。地域人がやっているという面白さは、事務局の二人がビールを飲んで、焼きそばを食べても誰も当然と思っているところです。

質問：市民活動団体も祭りに参加するのか？

富永：長池ぽんぽこ祭りは 6 団地の地縁型でやっています。コミュニティで積極的にはやりたくないけれど、皆がやるなら、やるかという水準で揃うのです。一方フラダンスやカメはテーマ型のコミュニティをつくって、自由に参加していただいており、たてよこ織り込みになるのです。それらを、タテヨコにつなぐ、地域のはた織人が事務局人といえるでしょう。

人・物・金・時間の関係性を明らかにして、持続可能にするのがコーディネーターです。
一方、マーケティングの目から見ると、このまちはうるさい人が多いのです。その人達が喜ぶ祭りは何かを発見発明して、結果として持続する祭を選ぶことが出来ました。祭りはかくあるべしで始めたら、今頃は途絶えているでしょう。



任意事務局でお金がなくても持続していく

## 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」

質問：救急体制は？

田中：特に用意してはいないのですが、近所のお医者さんにいざという時の協力を要請しています。長池公園自然館常備の簡易ベットで休むことも可能です。お医者さんも地域人の方です。どうしてもという時は救急車を呼ぶようにしています。

富永：ちょっとの事故でも大騒ぎするのが肝心です。対応が悪いといわれないようにおおごととして対応するのです。このノウハウは保育園に教えてもいらいました。このようなプロフェッショナルの得意技協力のバックアップも必要で、こうした専門人の融合・フュージョンも不可欠です。

質問：何かやらせてくれと言ってきたら受けるというが、事務局から今風のものやその団体に働きかけることがあるのか？

田中：原則は申し出を受けるということで、働きかけることはしていません。そして、やらせてというものが重複しすぎることがなければ受けるようにしています。

富永：お祭りにいたる前の最初、2ヶ月に1回団地紹介のために各団地を廻り、それでほぼ1年かかりました。やや知り合いになったところで、次に挨拶だけではということで、お祭りをしようと提案したのですが、各団地毎にしかなりませんでした。お祭りの一番最初は0を1にするため、営業して呼び込む努力もしてきました。今はこの地域ではビックネームになって、呼び込みの必要もなくなり、先方から申し込んでくれるようになったのです。
長池公園自然館の職員は、お祭り当日はお祭りには入らず仕事に徹しています。いざとなれば救急車も呼ばねばならない役回りなのです。

質問：祭の当日、売り買いに現金以外は使っているのか？

田中：祭全体の共通券はありません。団地毎に無料券を渡しているところもあるようです。それは、その団地のテントにしか使えません。そういう違いもそれぞれが認めるようになっています。
富永：地域では、統制する・共通にすることの方に無理があります。せめて毎年1回、同じ場所に集まりましょうと約束し、内実はそれぞれバラバラといってもいいでしょう。

質問：お祭りはパッチワークですね。

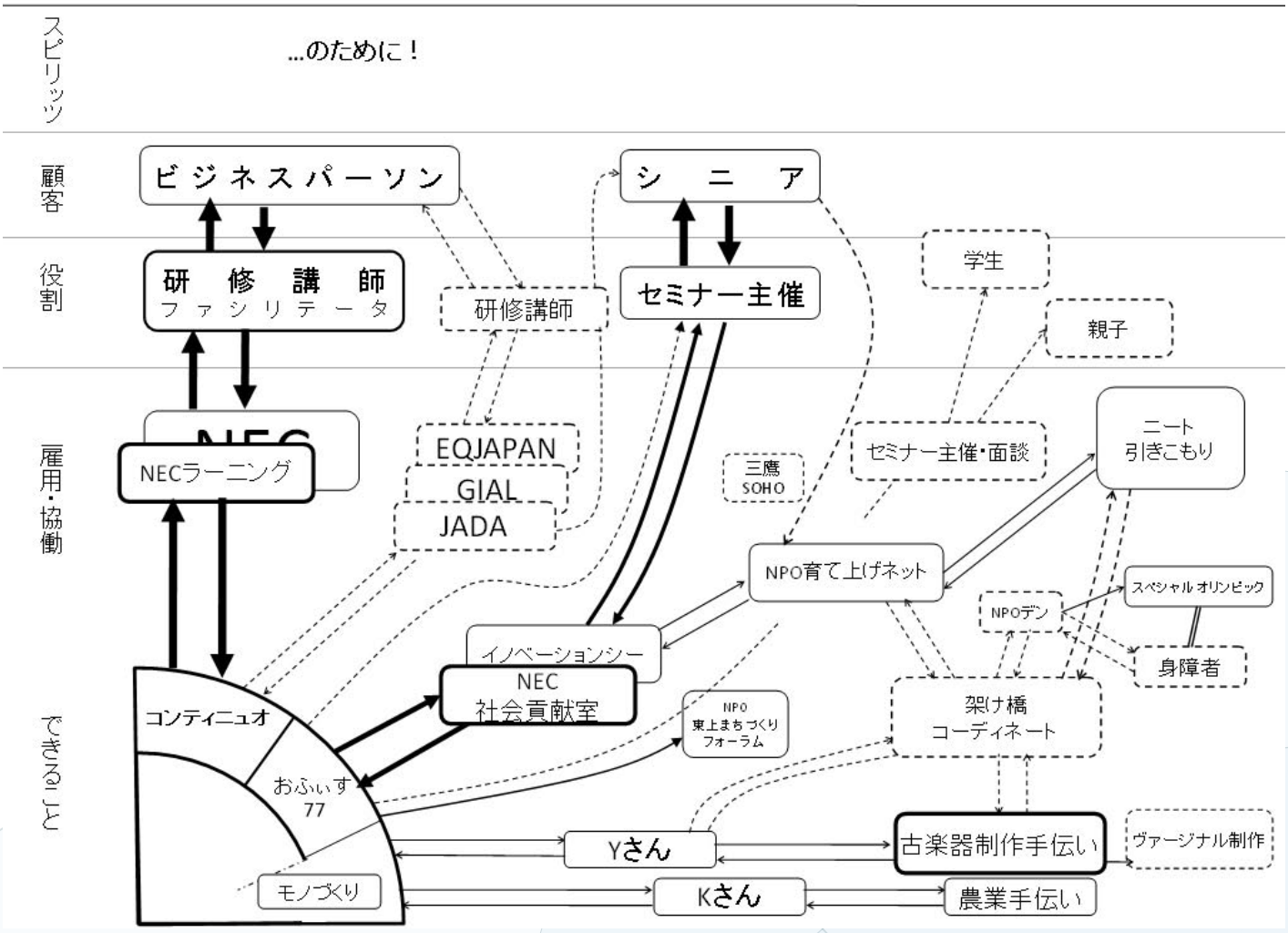
富永：もめごとなしにするのも方法があり、無理せず、自由に泳げる範囲を用意して、否定形は用いないことが肝心です。

田中：隣同士では話も始まるし、テントも並べ方にも工夫し、毎年変えています。

富永：挨拶できることが地域人のあかしです。大抵の方はどう挨拶するかに悩んでいるのです。通りすがりでも挨拶しない大人が多いです。皆でお祭りを一緒にやれば、自然に挨拶や会話も生まれるでしょう。そこでテーマ毎に好き同士が集まってもよいではないかと、一つ一つ悩んでノウハウを積み上げてきたのです。

本日の講師 田中氏と富永氏
平成 21 年 10 月 24 日　長池公園自然館にて

## 第 6 回 「長池ぽんぽこ祭り」




受講生Ｈ氏による「長池ぽんぽこ祭り」における田中純氏のコーディネーターとしての役割の図解

# 第 7 回「長池里山クラブ」

講師　赤羽（あかばね）　誠（まこと）

## はじめに

長池里山クラブの事務局を担当しております。30 年間電機メーカーに勤め、時流にのってこの平成 21 年 4 月末に、早期退職いたしました。里山の活動は、私も勉強したいテーマだったので、勤務しながら 10 年以上やってきました。運営面に関しては、パワーポイントに加え、お話を主にして説明させていただきます。

## 講義内容

・八王子市長池公園の概要
・里山とは
・長池里山クラブとは
・雑木林の更新
・炭焼き
・活動助成金
・地域コミュニティ
・里山活動のキーワード
・クラブの運営体制

## 里山（さとやま）とは何か

里山（里山）

薪・炭などの燃料や、落葉・腐植など農業用の有機肥料源として人為的に形成され維持管理されてきた人里周辺の林地

里山の現状

1955 ～ 1960 年ごろから石油・ガスなどの化石燃料の普及、農業における化学肥料の一般化により、里山は管理されず、放置されるようになった。その結果、林床に低木類が密生、自然遷移の進行で常緑広葉樹種の繁茂して、好陽性の草本植物や落葉性の低木類の衰退しつつある。（「現代雑木林事典」から）

炭を焼かず、若葉は腐葉土にして使わず、さらにニュータウンの開発も進行して、里山や雑木林が放置されてしまい、アズマネザサが茂り、落葉広葉樹は大きくなりすぎてしまいました。それに手を入れようという一つの活動が長池里山クラブの活動です。

## 里山の効用と機能について

里山の効用と機能

1. 環境保全
   大気浄化、酸素供給、CO2 固定、土砂崩壊防止・土壌保全、洪水調整、都市気温の調節など
2. 生活資源の供給機能
   水源涵養、木材、パルプ材、エネルギー資源、山菜、きのこなど
3. 生物環境の保全機能
   森林性および原野生動植物の種多様性保全
4. アメニティ・教育・文化機能
   林間利用による心身の健康回復、四季の景観・自然とのふれあいによる自然認識の増進、伝統文化や地域社会に対する理解と共感（「現代雑木林事典」から）

長池里山クラブ（以下「クラブ」と略す）の活動は、遊びから入りましたが、結果として里山の本質的保全になっています。それを 10 年間やってきました。

## 長池里山クラブ会則

長池里山クラブ会則　前文

・このクラブは，長池公園の里山ゾーンを主な活動場所として、
①良好な自然環境の保全
②住民コミュニティの形成
③市民の手による里山文化の育成・継承
の三つを活動の柱として、稲作・畑作活動、樹林地や水辺の保全・活用活動、公園内の自然観察などの活動を通じて、多くの地域住民が身近な里山の自然環境にふれることで、里山のすばらしさや育てることの楽しみを体験して、里山の保全と利用のバランスを学ぶものである。
・これらを多くの市民の、自らの責任と行動により、永続的なものとするために「長池里山クラブ会則」を定めるものである。
・なお、会の運営上必要となる取り決め事項については、別途定める細則によるものとする。なお、本会則の改定にあたってはスタッフ会議の場で協議し、スタッフ会員の過半数の賛成を受けて改定を行うこととする

# 第 7 回 「長池里山クラブ」

**長池里山クラブ会則　目的**

**長池里山クラブは、八王子市長池公園（以下、長池公園という。）に残された自然環境と、新たに整備された水田や炭焼き窯などを有効に活用して、里山の環境を保全するとともに、里山と自然のしくみを学び、地域の里山文化、残された自然環境を後世に受け継いでいくことを目的とする。**

長池里山クラブ会則は、これからまちや長池公園（以下「公園」と略す）がつくられていく段階で、開発者である住宅都市整備公団（以下「公団」と略す）が基本を作成しました。ハードもソフトの基盤も、公団の公園作りの中で用意されてきたものです。

**活動内容**

**長池里山クラブの活動内容**

- **春から秋にかけての田んぼと畑を中心とした活動**
- **冬の雑木林の手入れ**
- **年間を通して継続的に活動**
- **かつての里山と住民が培ってきた里山文化の継承**
- **残された自然の保全の活動**

**米作り、野菜作り、炭焼き、木工細工、**
**自然観察、収穫祭、里山保全**
**地元の行事「どんど焼き」など**

活動内容は、10 年間同じテーマで続けてきています。開発前からの地元居住者には農作業のやり方などについて聞いたりしましたが、その人達がクラブにの企画・運営に携わることはありませんでした。農作業、雑木林の手入れに加え、年末収穫祭を行ったり、保全活動として、湿地にサワギキョウを復活させたりもしてきました。

**クラブの歴史**

**長池里山クラブの歴史**

**1998 年 5 月　都市基盤整備公団の試行的な活動として長池里山活動開始**
**1999 年 5 月　会員募集開始**
**1999 年 6 月　長池里山クラブ発足（会員 418 名）**
**　都市基盤整備公団の運営**
**2000 年 5 月　代表等の役員選出、会則制定**
**2000 年 6 月　住民主体の組織として、長池里山クラブ立上げ（会員 483 名）**
**　都市基盤整備公団がバックアップ**
**2000 年 12 月　長池公園の一部（体験ゾーンを含む）公開**
**2001 年 4 月　八王子市の公園として長池公園公開**
**2001 年 5 月　地域住民の組織として長池里山クラブ活動開始**
**2001 年 7 月から 14 年 3 月　八王子市から里山活動推進業務を受託**
**2001 年 7 月　長池ネイチャーセンターオープン**
**2002 年 2 月　長池ネイチャーセンターで里山展を実施**
**2002 年 3 月　東京都公園協会「緑のなかま」活動助成**
**2002 年 4 月から 15 年 3 月　都市緑化基金「みんなの森づくり活動助成」**
**2002 年 6 月　平成 14 年度の活動開始**
**2003 年 3 月　東京都公園協会「緑のなかま」活動助成**
**2003 年 6 月　平成 15 年度の活動開始（会員 210 名）**
**2004 年 6 月　平成 16 年度の活動開始（会員 186 名）**
**2005 年 6 月　平成 17 年度の活動開始（会員 197 名）**
**2006 年 4 月　平成 18 年度の活動開始（会員 182 名）**
**2007 年 4 月　平成 19 年度の活動開始（会員 205 名）**
**2008 年 4 月　平成 20 年度の活動開始（会員 295 名）**

公園の工事中の時期からクラブの会員になれば田んぼに入れるというフレーズで会員を募集しました。
1999 年、公団による会員募集で 418 名が入会しました。最初、会員はどちらかというとお客様扱いだったのですが、その後役員も決め、2000 年からは市民も企画・運営に加わり（当時の会員数 483 人）ました。2001 年、公園が八王子市に引き継がれ、公団は手を引き、住民主体となりました。その後、徐々に会員数は減り、約 200 人水準で毎年更新されている状態です。家族連れ（大人と小学生、幼児）が多いです。

# 第 7 回「長池里山クラブ」

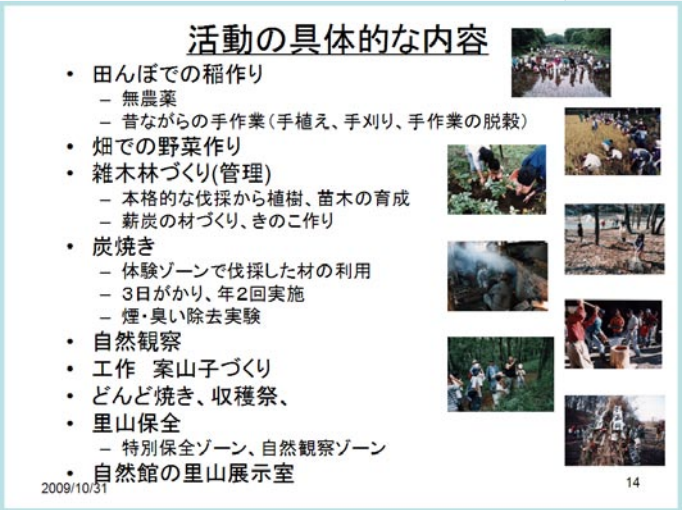
### クラブの特徴

**長池里山クラブの特徴**

- 地域住民を中心に、誰でも参加できる
  - 多摩ニュータウンを中心に
  - 小さな子供のいる家族
  - 働き盛りの 40 代 50 代の男性
  - 時間的余裕のある 60 代
- 会員として活動に参加
- 長池公園里山体験ゾーンを中心に活動
- スタッフ会員を中心とした、会員自身による運営
- 会員の専門性と個性を生かした活動
- 月 1 回の定例活動とそれ以外の自主活動
- 多摩地域（別所、堀之内、南大沢）の里山の経験知識
- 行政や地域との連携
- 旧都市基盤整備公団による基本施設の整備
  - 作業小屋、田畑、炭焼き小屋、水車小屋、道具類
  - 活動運営ノウハウ
- 住民中心の活動にスムーズに移行、自立

働き盛りの男性を中核として始まって、この数年は 60 歳代の人も増えてきています。会員はスタッフ会員と一般会員に分かれ、スタッフ会員が運営を担当しています。月 1 回、第 2 土曜日を定例活動日としており、当日は 100 ～ 150 人が集まります。当初から、公園の設備、基盤が整備されていたので、活動の立ち上げが順調で、当初のプログラムを踏襲することができたのです。公園管理の市への移行、クラブ運営の自立後も順調に進んできました。

### 活動の具体的な内容

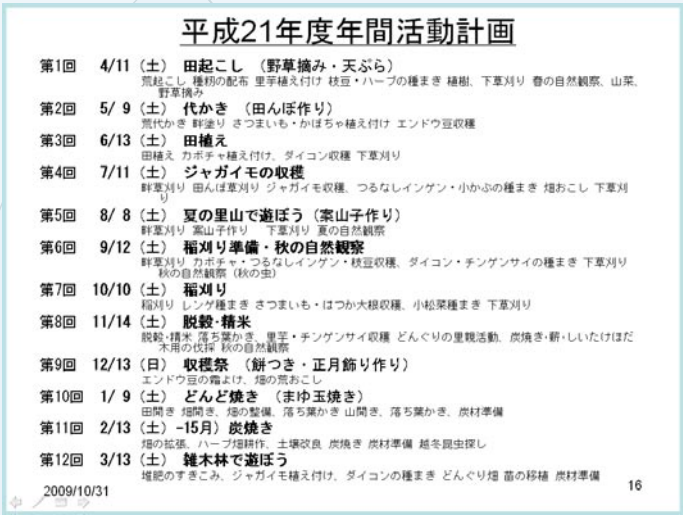



具体的な活動内容は、田・畑の作業に加え、雑木林の更新と炭焼き、椎茸・なめこ作りなどがあります。炭焼きは 3 日がかりで年 2 回やっています。炭焼きの煙と臭いの周辺地域に与える影響が気になり始めたので、その除去を実験中です。

### 会員募集について

会員募集は年度の単位を 4 月～ 3 月にして毎年行っております。会費は大人 1,000 円 / 人　子供 500 円 / 人（高校生以下）、未就学児は無料にしています。

### 活動計画



**平成21年度年間活動計画**

| | | |
|---|---|---|
| 第1回 | 4/11（土） | **田起こし**（野草摘み・天ぷら）<br>荒起こし 種籾の配布 里芋植え付け 枝豆・ハーブの種まき 植樹、下草刈り 春の自然観察、山菜、野草摘み |
| 第2回 | 5/ 9（土） | **代かき**（田んぼ作り）<br>荒代かき 畔塗り さつまいも・かぼちゃ植え付け エンドウ豆収穫 |
| 第3回 | 6/13（土） | **田植え**<br>田植え カボチャ植え付け、ダイコン収穫 下草刈り |
| 第4回 | 7/11（土） | **ジャガイモの収穫**<br>畔草刈り 田んぼ草刈り ジャガイモ収穫、つるなしインゲン・小かぶの種まき 畑おこし 下草刈り |
| 第5回 | 8/ 8（土） | **夏の里山で遊ぼう**（案山子作り）<br>畔草刈り 案山子作り　下草刈り 夏の自然観察 |
| 第6回 | 9/12（土） | **稲刈り準備・秋の自然観察**<br>畔草刈り カボチャ・つるなしインゲン・秋豆収穫、ダイコン・チンゲンサイの種まき 下草刈り 秋の自然観察（秋の虫） |
| 第7回 | 10/10（土） | **稲刈り**<br>稲刈り レンゲ種まき さつまいも・はつか大根収穫、小松菜種まき 下草刈り |
| 第8回 | 11/14（土） | **脱穀・精米**<br>脱穀・精米 落ち葉かき、里芋・チンゲンサイ収穫 どんぐりの里親活動、炭焼き・薪・しいたけほだ木用の伐採 秋の自然観察 |
| 第9回 | 12/13（日） | **収穫祭**（餅つき・正月飾り作り）<br>エンドウ豆の霜よけ、畑の荒おこし |
| 第10回 | 1/ 9（土） | **どんど焼き**（まゆ玉焼き）<br>田開き 畑開き、畑の整備、落ち葉かき 山開き、落ち葉かき、炭材準備 |
| 第11回 | 2/13（土）-15月） | **炭焼き**<br>畑の拡張、ハーブ畑耕作、土壌改良 炭焼き 炭材準備 越冬害虫探し |
| 第12回 | 3/13（土） | **雑木林で遊ぼう**<br>堆肥のすきこみ、ジャガイモ植え付け、ダイコンの種まき どんぐり畑 苗の移植 炭材準備 |

2009/10/31　16

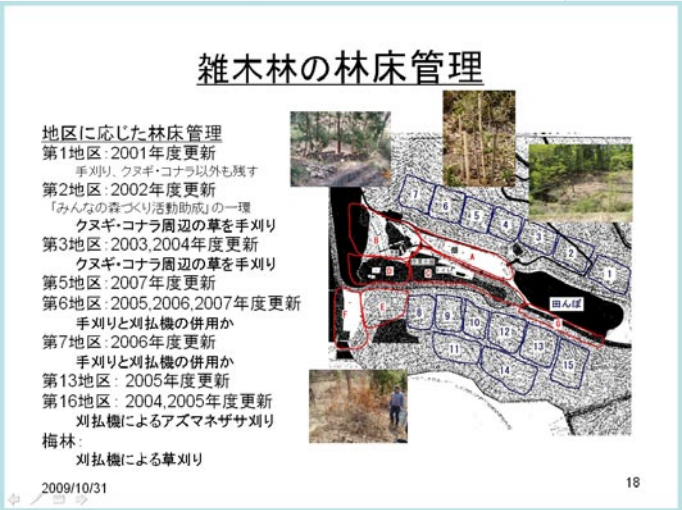
平成 21 年度活動計画も、10 年間ほぼ変わらない年間活動内容で進行中です。今年は、10 月 24 日に稲刈りを実施しました。

# 第 7 回「長池里山クラブ」

### 里山の循環

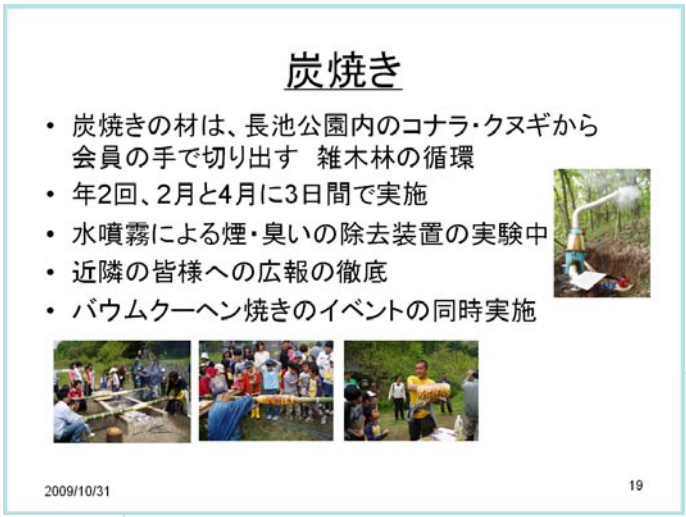
楽しく活動しているうちに、里山の循環を体験することができます。
現在、50 年生ほどの落葉広葉樹を伐採することになりました。炭焼きを毎年していた時期には 15 年～ 20 年で伐採していたのですが、開発で放置し、炭焼きをしなくなったので 50 年生ほどの太さになっています。コナラ、クヌギなど落葉広葉樹は、切った幹から萌芽更新できるのです。この 300 年ほどは炭焼き材に使うため 15 年～ 20 年で伐採、萌芽更新していたのが常態でしたが、何もしないで放置すると、100 年～ 200 年で、極相材として、シラカシなどの常緑広葉樹林にになる可能性もあります。やり方は色々ありますが、クラブとしては炭焼き時代のように更新をやっています。毎年少しずつ作業してきて、1 年～ 9 年の樹林になり、多様な生物種も復活し始めています。

### 雑木林の林床管理



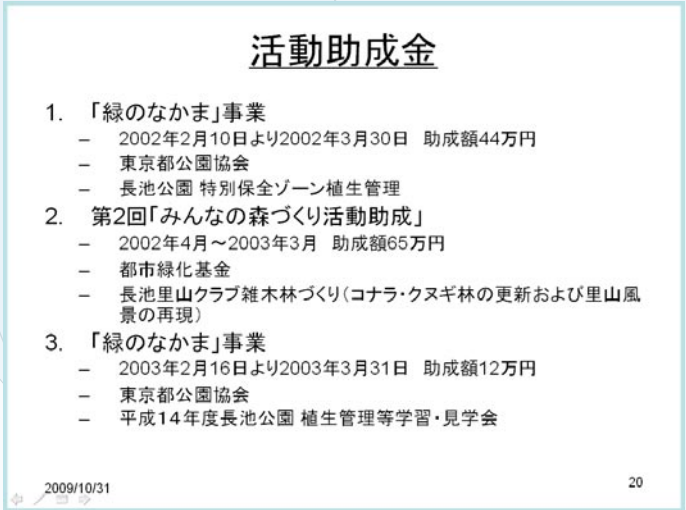

2001 年から順次更新を開始し、背後に 50 年生の幹の太い雑木林のある二段景観になっています。

### 炭焼き




自分達で伐採した樹を使って 2 月、4 月に各 3 日間 2 回炭焼きをしています。最初は、炭焼きというとバーベキューと誤解されるほど認識されていませんでした。
炭焼きを周辺の方に PR を徹底せずに行い、公園周囲の人から、警察、消防に連絡され、心配をおかけするという体験をしたこともあります。
現在は、実施される 1 ヶ月前から地元へお知らせを開始し、ご迷惑をおかけしないようにしています。広報は手を抜けない分、手間と時間がかかる活動ですので、自然館スタッフの方にも協力をいただいています。炭焼きの時には、バームクーヘン焼きも催しとして実施しています。

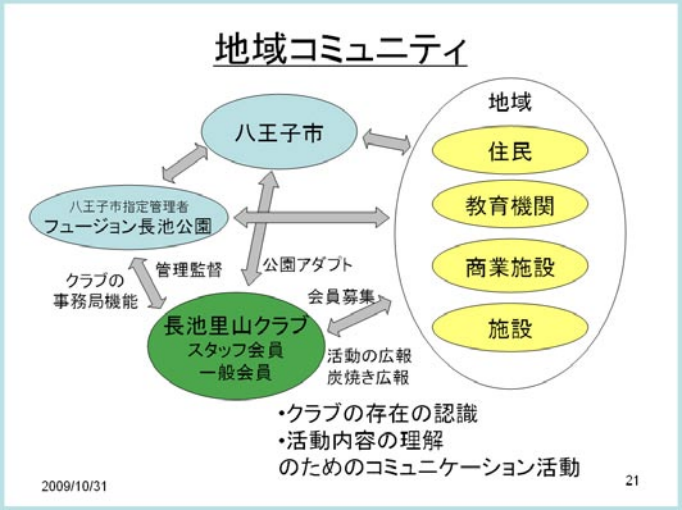
### 活動助成金



# 第 7 回「長池里山クラブ」

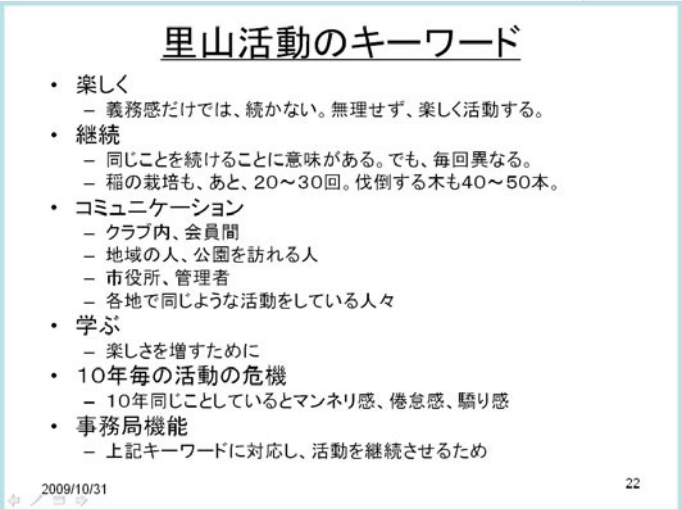
これまで、いくつかの活動助成金に応募し、取得して活用してきました。雑木林更新も助成金をきっかけに始めることができました。

**地域コミュニティ**

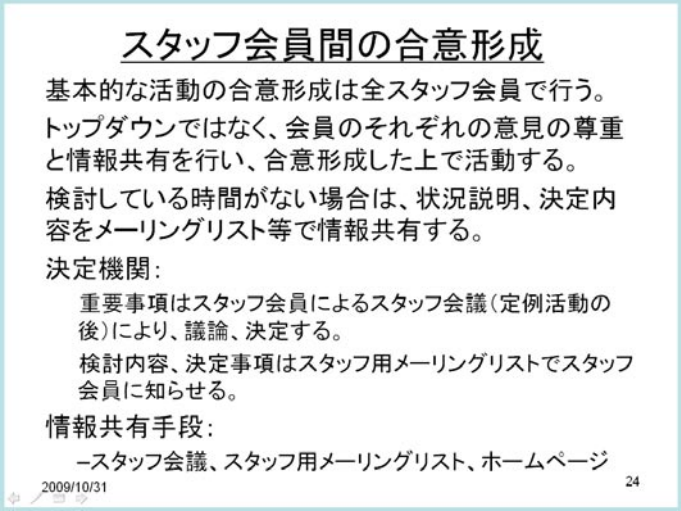



市所有の公園であるので、市・指定管理者との関係を明確にして、地域の居住者、企業、団体との関係を育てています。まず、クラブの存在を知ってもらうことで、内容を理解していただき、活動の基盤とするよう、継続的にコミュニケーションをとっています。

**里山活動のキーワード**



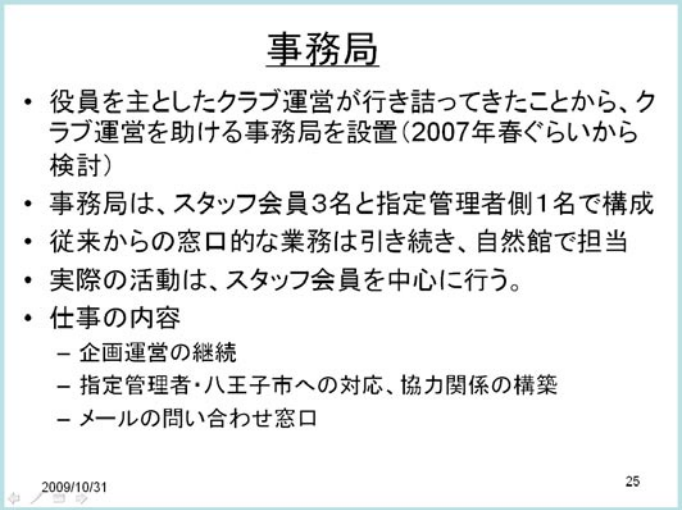

学びを重ねるうちに、いつのまにか事務局担当になってしまいました。このキーワードは、10 年間の活動を通じて、個人として感じているところです。
まず、楽しさが持続の鍵です。無理は避けるようにしています。ただ、土日はほとんどこの活動に参加して自宅の庭の手入れに手がまわらないほどになっていることが問題かもしれません。同じことを続けることに意味があります。せいぜい私はあと 20 回の稲作、伐採 4 ～ 50 本しかできないので、活動の内容を変えるまでもないと思っています。会員間のコミュニケーションも難しいし、お相手は地域人、公園人、行政人、同好人・・、いろいろの楽しさは学ぶことで増してきます。これから 10 年の壁は乗り越えたいと思っています。支える事務局機能があって、初めてまわっていくといえるのでしょうが、参加者が総て事務局の重要さを理解しているとは限りません。スタッフ会員、役員間で、主題ごとに活動スタッフを配しているのですが、それをやる人は重複している場合もあります。田や畑の収穫物、炭などの産品を配布して活動支援金にあてていいます。月 1 回の定例活動日、活動のあとスタッフ会議を行っていますが、会議には 5 ～ 6 人しか集まらないこともあります。そのため、スタッフ会議の情報をメーリングリストにのせることにしました。それがないと知らないということが起きてしまいます。執行体制として役員とは別に事務局が必要になっているのです。




合意形成は原則全員合意でトップダウンにならないよう注意しています。情報共有には、スタッフ会議、スタッフ用メーリングリスト、ホームページ（会員共有）をあてています。

# 第 7 回「長池里山クラブ」

### 事務局

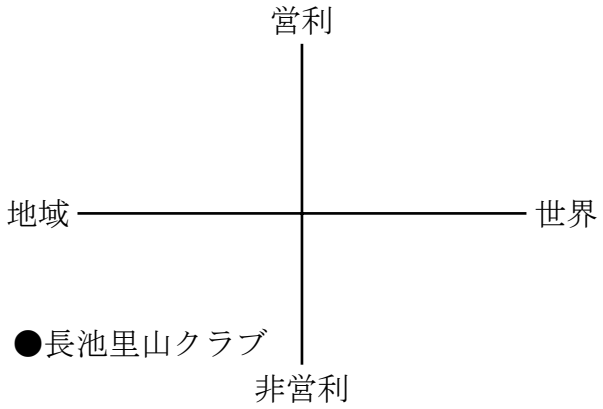



任意加入のクラブなので、当然やめる人も出てくるし、やめることは可能です。
でも、そういわないで来て下さいよと、役員がコミュニケーションをとっています。経験、反省を持って、そのあたりを注意しようとしていますし、広く外に開かれたクラブなので、落ちこぼれさせないようにと配慮をしています。

### 富永より補足

私は 1994 年に、南大沢から別所に移住した時、長池公園のことは全然知りませんでした。当時、長池公園は工事中で、金網柵に囲まれていました。
そこで、開発者・公団（現 UR）の永山駅前の事務所へ行って要望を出しました。
″月 1 回公園の見学日を決めて見せてほしい！そうすれば、勝手にもぐりこむ人もなくなるだろう″公団もそれを認めて、公園見学をする″長池おっちゃんクラブ″がまずできたのです。
そして、私は 1999 年 12 月 7 日 NPO 法人エヌピーオー・フュージョン長池を設立しましたが、同じ人がリーダーを続けると 10 年後このクラブは続かなくなる危険を直観しました。長池里山クラブは長池公園の基盤の上に咲く花の一つ、それを枯らしたくない。
そこで私は長池里山クラブの農耕や、それに類する活動は全く嫌いでやらないのですが、いろいろ口出しをしてきました。すると、活動をやらないなら仲間ではないとも言われてきました。赤羽さんは一人二役で、NPO フュージョン長池理事であり、長池里山クラブ事務局長でもあります。しかし常勤のサラリーマン赤羽さんには、市と連絡をとったり、話をしたりする時間がとれないので、その接点を富永が代わってやっていました。

赤羽さんに、ボランティアと言ったら否定されました。誰もやらないので必要を感じた赤羽さんがやっているだけなのです。コーディネーターという意識もしていません。ここがポイントです。




### 質疑応答

質問：こうした活動は市内に多くあり、若い人がほとんどいないときいているが

赤羽：長池里山クラブの場合は、30 歳台、40 歳台が多いです。ただ、スタッフ会員に女性は少ないです。

質問：田、畑だから女性が少ないのか？他の団体との連携は？

赤羽：個人的には関係を持っています。隣の多摩市での雑木林講座に協力しています。

富永：このまちの成り立ちによって、その違いが出たと言えます。多摩ニュータウンは 30 歳～ 40 歳台で移住してきたサラリーマン世帯が主なので、土日中心の活動であり、男性が多くなったのです。

赤羽：今も 30 歳～ 40 歳台の参加者は多いのですが、スタッフにはなりません。

## 第 7 回「長池里山クラブ」

富永：自然館が休みの火曜にクラブ員に出てもらい、自然館のスタッフ代りをやってもらっています。公団は公園の里山（田・畑）にクラブというソフトを付けて、市へ移管することを意図していました。公団にも、ハード＋ソフトを考えた人がいたことは表に出てきていません。徐々に市民や活動団体に移行してきているのですが、これは市民にもほとんど意識されていないことです。

質問：これからの展望は？ NPO フュージョン長池があるから続くのか？赤羽さんがいるから続くのか？

赤羽：それはわかりません。私に代わる人が出て来て欲しいとも考えています。

質問：今の収入は会費のみか？

赤羽:会費＋炭の売り上げなどで合計 3 ～ 40 万円あります。

質問：チェーンソーの資格は？

赤羽：個人が使うのは問題ないが注意はしている。

質問:今後、値上げか人数増かどうするのか？近くの「みなみ野自然塾」も同じ悩みを持っているようだが？

赤羽：助成金も組織として申請し、獲得するのはなかなか難しいことです。

質問：身近な公園をアドプトしている（自治会）、伐採する時は、公園の許可がいるのか？

富永：みなみ野自然塾は長池のちょっと後を追っているようです。立ち上げも公団です。長池里山クラブは赤羽さんに先頭を走ってもらっています。公園に来る人をみると、毎日公園に散歩してくるのが全体の 3 割。年代、目的は多様だが、利用の裾野を拡げてあれば、後を継ぐ人が必ず出てきます。富永は NPO フュージョン長池で指定管理者として PR し、利用者増につとめてきました。炭を売ってよいかということについてですが、まずは倒れて落ちている幹・枝を拾った、それは不用物なので、炭に焼いた。それを一人占めにしないで、不特定多数の皆に供給する形をとろう。とりあえずこのように考えても、これは未解決の主題です。これからの地域の善意に守られていくのか。いい形でのわかりやすいしくみを創るようにしたいと思っています。
指定管理者がいささかは支援することも大事です。しかし、過保護にならないように支えていこうとしています。緊急時には、スタッフが引き受けられるようには備えているのですが、あまり前に出ないようにしています。

質問:年会員にならずに、その日だけの参加はできるのか？

赤羽：一日会員になってもらっています。200 円 / 日で受け入れています。
富永：会員として一括し安全に対処しています。2009 年からは、総合保険を指定管理者がかけています。

質問：アドプトでも保険に入っていますね？

富永：その保険は対象が限定的なので、指定管理者として場所を問わず、NPO 法人活動なら何でもを対象にした保険をかけています。

質問：クラブに総会はあるのか？

赤羽:スタッフ全員会議はありますが、会員総会はありません。

富永：まかす、まかされるという関係が会員に認められているのです。会議は好まない、打ち合わせを好まない人も多いです。田・畑いじりをしたい人達で、会合にも会員にも興味はないのです。

赤羽:知らなかったという人も居るので、情報は公開しています。

富永：言った言わないを避けるためにメーリングリストを使っているのです。ホームページ、メーリングリストで動く。ここまでになるのに大変でした。市民活動の難しさです。ルーズ、堅苦しさの間で泳いでいると言えます。

赤羽：それぞれが活動したときに、何をやったという報告もほしいのですが、ようやく自然館の休日に何をしたのか、火曜の活動報告が出るようになったのは成功の一つと考えています。

## 第 7 回「長池里山クラブ」

富永：クラブの活動は、放し飼いですが広い柵があります、羊飼い状態と考えるとわかりやすいと思います。指定管理者は公認会計士も入ってきちんとやっているし、メリハリを付けてやっています。総てを組織的にキチンとやろうとすると疲れて辛くなって終わってしまいます。このバランスの調整がノウハウなのです。長池里山クラブと指定管理者が上手に連携することでここまで続いてきました。
ある段階で会員が減り始めましたが、広報は面倒、新人も増えると面倒というクラブ側に、半分、指定管理者が手伝って広報を再開したら人が増え始めました。赤羽さんに〝お世話しないと悪評が立つ〟と注意して、やらざるを得なくしているところもあります。

質問：コーディネーターを意識しないでやっているとはどういうことか？

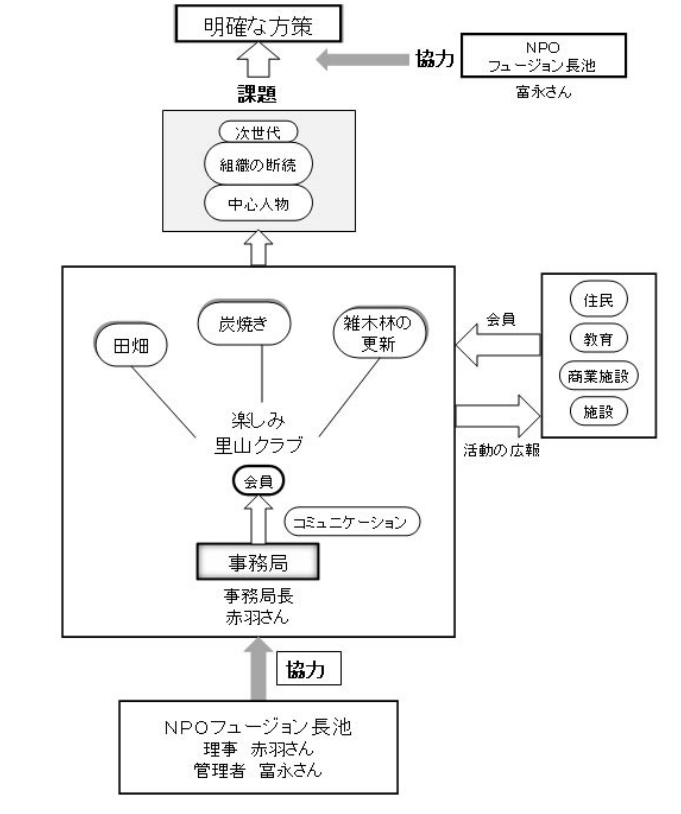
富永：気づかない人にはコーディネーターはできません。気づく人はやらざるを得なくなります。かつての〝名主〟も何ができるという以上に、皆に評価されて成り立っていました。

中庭：少し補足します。活動が好きというはその通りですが、赤羽さんは、里山活動の楽しさを徐々に発見して続けてきました。これがコーディネーターの能力の一つです。
生き甲斐について、神谷美恵子さん＊は〝自分が出来ることと義務感が一致しているとき、生き甲斐を感じる〟と書いておられる。義務感は廻りから徐々に教えられることでわかっていくもので、自分一人で決められる訳ではないのです。
赤羽さんは里山活動が好きになってしまい、自分が求められることがわかってしまった。判って放置は出来ない人は、それを楽しみつつ動き始めてしまう。それが地域コーディネートの本質です。自分が好きと人が求めていることが、一致していけるのがコーディネーターです。

＊神谷恵美子　1914 ～ 1979　精神科医、著述家、著作集全 10 巻、別巻、補巻ほか多数の著作『生きがいについて』は多くの人に読まれている
富永：赤羽さんは里山活動が好きになってきて、人が幸せになることも好きになったのです。人は誰かに鏡のように映してみないとわからないのです。
ヘルプデスクを用意すると今日の始めに話したのは、自立した発意で、市民活動をやろうというとき、ヘルプデスクが鏡の役目を果たそうという意図もあります。〝ボランティア〟という言葉の本意は〝発意で進んで〟の意です。これからいよいよ自立した活動に取り組むのを期待しています。

質問：自然館のロビーでいろいろ見たが、公園の物語はあるのですか？

富永：1 冊 1000 円で売っています。長池伝説の概説をした上で（省略）長池の話をいつの日か世に出したいと考えて実現しました。多摩ニュータウンにも歴史があることを知っていただきたいのです。




受講生 S 氏による「長池里山クラブ」における
赤羽誠氏のコーディネーターとしての役割の図解

平成 21 年 10 月 31 日　長池公園自然館にて

# 第 8 回「多摩 NPO センター」

講師　御船（みふね）　哲（さとし）

## はじめに

今回は、2009 年 3 月末まで 4 年間、NPO フュージョンが管理運営業務を受託していた多摩 NPO センターで、どのようにコーディネートが行われていたかを、その間にセンター長を務められた御船哲さんにお話いただきます。

## 多摩 NPO センターの仕事

多摩 NPO センターでは、各メンバーや、場所そのものがコーディネーターだと言えます。
NPO フュージョン自体もコーディネーターでした。いわば、多層なコーディネーターが一つの仕事をしているわけです。
基本の仕事は、市民活動に対するお手伝いや相談に乗ることです。
「何かをやりたい」「何をやりたいか分からない」「こんないいことを考えているのだが、市役所では相談にのってもらえない」といった課題を抱えている個人、既にボランティア活動や NPO 法人活動をしている団体など、株式会社であるが、非営利の活動をしたいと思っているなど、法人化しているか否かに関わらず、それぞれの相談にのってきました。

## 情報受発信

また、情報受発信も仕事の大きな一つです。配布資料の P.21 の 5 行目に、「1）基盤構築のために、情報の生産・収集と受発信の相乗効果を図る」と書かれています。これは、この資料を執筆された今井邦人さんがまとめとして書かれた文章です。まず、全国から多摩 NPO センターに寄せられる情報を大事にしたい、共有したいと考え、寄せられたチラシは、掲示をする、立てておくなど、目に触れるようにしておきました。メールで寄せられた情報は、これは役に立ちそうと判断したものは毎日転送メールで送信しました。「多摩 NPO センター便り」を週一回作り送信してきました。
これは、内容を添付ファイルではなく、本文に記載し、文章量は A4 版でプリントアウトすると、5 ～ 6 ページ程度でした。

本日の配布資料
（ソーシャルビジネス研究会ケースレポートNo. 6）
註：NPO フュージョンのホームページ「ソーシャルビジネス研究会」からアクセスすると、このテキスト全文が読める。

2006 年 1 月から 3 ヶ月に 1 回は、季報を編集し配送していましたが、2009 年 3 月 15 日の第 14 号が最終号となりました。チラシなど紙情報を送る「情報宅配便」は、福祉とかスポーツ・文化等の種類別、助成金か催し情報かなど目的別に、求める情報種類の希望を把握した上で、月に 2 回、内容に応じてご希望の方のみにメール便で送付していました。希望の受付はホームページで簡単に登録できる仕組みにしていました。多摩 NPO センターのホームページ自体も、毎週更新していました。

# 第 8 回 「多摩 NPO センター」

### 視える化

特色の一つに、「視える化」があります。これは、インターネットのライブカメラを用いて、ホームページ上で多摩 NPO センターのオープンスペースを「視えるようにする」という試みです。オープンスペースには、テーブルと椅子 6 脚が 3 セット設置してあり、誰でも予約無しでいつでも使うことができるのですが、1 セットだけがカメラの死角においてあり、映りたくない方にはそこの利用をお勧めしました。視察に来訪された際には、職場へ電話をして、多摩 NPO センターのホームページのライブカメラを確認してもらうように手配、カメラに向かって手を振り、「確かな出張の証拠となる」等と利用されることもありました。
この試みは、2005 年に、八王子市内の情報通信機器会社「エイビット」の支援・協力で、ここ長池公園自然館にならって、カメラ、モニター、コンピューター一式をお借りし、同社のサーバーを利用させていただくことによって、「視える化」が実現しました。
このように、「情報発信」を「視える」ようにしたわけです。

### オープンな入口

また、オープンスペースと事務スペースへの廊下からの出入口は、寒暖に関わらず常に開けておくようにしました。これも「視える化」の一環です。顔を合わせた人に、受付の女性スタッフが挨拶し、中が見えるので、気分よく自然に入っていただくようにしたのです。

オープンスペース

オープンスペース全景

## 第 8 回 「多摩 NPO センター」

配布資料の P.7 ～ P.8 に、多摩 NPO センターの 2005 年 4 月から 4 年間の経緯が表記されています。

多摩ＮＰＯセンター・４年間の主な活動の流れ①（平成１７～１８年度）

| ステージ／年度 | 年月 | 重要な活動・出来事（日）（凡例）◇ＴＮＣ運営 □相談業務 ○施設活用 ◆つなぐ活動 ■情報発信 ●イベント | 季報（号） | 団体訪問［累計］ | 来館者数（人）月別［年計］ | 来館者数（人）累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| センターの活動基盤を整備する・センターの認知度を高める H17 | 17. 4 | 1◇NPOフュージョンが管理運営業務を開始<br>13◇多摩NPOセンター(TNC)事務局定例会議(以後、原則水曜日午前)<br>19◇多摩市とTNCの定例打ち合わせ(以後、原則として毎週) | | 17. 3. 24 [1] | 174 | 174 |
| | 5 | 21□「暮らしの相談コーナー」開始(6月から本格化) | | | 177 | 351 |
| | 6 | 3■TNCホームページを再開<br>29○第1・第2パソコンルームの整備 | | | 257 | 608 |
| | 7 | 2■「多摩NPOセンター便り」をメルマガ方式で配信(毎週土曜)<br>25■他団体からのeメール情報をメルマガ方式で転送開始<br>30◇第1回利用者懇談会を開催 | | | 356 | 964 |
| | 8 | 18◇17年度・第1回運営諮問委員会を開催<br>25■TNCパンフレット・使用開始　26●「鉄道模型で遊ぼう」を開催(～27) | | 1 [2] | 362 | 1, 326 |
| | 9 | 30◆中央大インターンシップ(～9.10)→■成果「多摩便利帳」(以後、毎年)<br>28■オープンスペースに「インターネットライブカメラ」を設置・実験開始 | | 2 [4] | 358 | 1, 684 |
| | 10 | 6●コーヒーハウス(第1回)開催。毎週木曜・全19回(～19.3.16)<br>12●多摩市との共催で「市民協働研修」フォーラムを実施 | | | 396 | 2, 080 |
| | 11 | 25■「市民協働研修」(10.12)の講演録を刊行　連続開催 | | | 247 | 2, 327 |
| | 12 | 地域のお財布づくり研究 | | | 226 | 2, 553 |
| | 18. 1 | 31■「季報・多摩NPOセンター」創刊 | 1 | 2 [6] | 270 | 2, 823 |
| | 2 | 4◇第2回利用者懇談会を開催　〔季報2号(18.3)～8号(19.10)に連載〕 | | 3 [9] | 345 | 3, 168 |
| | 3 | 4◇17年度・第2回運営諮問委員会→意見書提出に代える<br>8■コミュニティセンター(7館)、「のーま」にパンフレット陳列依頼<br>10■老人福祉館(4館)にパンフレット陳列依頼。以後、毎月差替え | | 2 [11] | 518 [3, 686] | 3, 686 |
| 積極的に市民活動の現場を訪ね、触媒力・創発力を高める H18 | 4 | ■「情報宅配便」開始(NPO等へ希望するチラシ類を月2回送付) | 2 | 3 [14] | 674 | 4, 360 |
| | 5 | | | 4 [18] | 657 | 5, 017 |
| | 6 | 20◇18年度・第1回運営諮問委員会を開催 | | 4 [22] | 721 | 5, 738 |
| | 7 | 28●夏休みイベント「のりもの好き あつまれ2006」を開催(～29日) | 3 | 3 [25] | 766 | 6, 504 |
| | 8 | 10●夏休みイベント「ペットボトルロケット」追加開催 | | 3 [28] | 727 | 7, 231 |
| | 9 | | | 6 [34] | 774 | 8, 005 |
| | 10 | | 4 | 3 [37] | 747 | 8, 752 |
| | 11 | 11◇第3回利用者懇談会を開催 | | 4 [41] | 780 | 9, 532 |
| | 12 | 27■「地域デビュー手引書」の企画編集開始(～19.2.20)。以後,毎年作成<br>(多摩市市民活動情報センター、多摩ボランティアセンターとの協働) | | 2 [43] | 571 | 10, 103 |
| | 19. 1 | 27◆ネットワーク多摩・インターンシップ→■成果「多摩便利帳」(19年も)<br>31◇18年度・第2回運営諮問委員会を開催 | 5 | 4 [47] | 674 | 10, 777 |
| | 2 | | | 3 [50] | 818 | 11, 595 |
| | 3 | 3■「地域デビュー手引書」を“地域ふれあいフォーラムTAMA”で配付(～4日) | | 5 [55] | 889 [8, 798] | 12, 484 |

2005 年 4 月時点の利用者は、月に 174 人、これは開館日換算で 8 人です。これが 2 年目には 674 人、3 ～ 4 年目には 1,000 人超と、約 6 倍に増加しています。次には、その間にどういったことに取り組んだかをお話します。

## 第 8 回 「多摩 NPO センター」

多摩ＮＰＯセンター・４年間の主な活動の流れ②（平成１９～２０年度）

| ステージ／年度 | 年月 | 重要な活動・出来事（〈凡例〉◇ＴＮＣ運営　□相談業務　○施設活用　◆つなぐ活動　■情報発信　●イベント） | 季報（号） | 団体訪問［累計］ | 来館者数（人）月別［年計］ | 来館者数（人）累計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 創発的コーディネートの成果を具体的な形にする H19 | 19. 4 | 3○パソコン講座（シニアネットクラブ）を2コマ/日（週9）→3コマ/日（週13）に<br>13◆「多摩草むらの会」を「アート多摩」と共に訪問し、情報交換<br>19◆「わこうど」に「アート多摩」を紹介。共同イベントの相談 | 6 | 4［59］ | 1,040 | 13,524 |
| | 5 | 11◆「プレイルームゆづり葉の家」に「アート多摩」を紹介。情報交換<br>23●第1回「みんなのかんたん芸術講座」を開催（共催イベント） | | 3［62］ | 1,145 | 14,669 |
| | 6 | 23●第2回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | | 3［65］ | 1,275 | 15,944 |
| | 7 | 14◇第4回利用者懇談会を開催<br>18●多摩市と共催で「市民協働研修シンポジウム」を開催<br>25◇19年度・第1回運営諮問委員会を開催 | 7 | 1［66］ | 1,135 | 17,079 |
| | 8 | 10●夏休みイベント「のりもの好き あつまれ2007」を開催（～11日）<br>22●第3回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | | 1［67］ | 1,088 | 18,167 |
| | 9 | 9●第4回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>12●第5回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>15■「市民協働研修シンポジウム」講演録を刊行 | | 4［71］ | 1,102 | 19,269 |
| | 10 | 25◆第1回「市民活動語りすと」を開催<br>31●第6回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | 8 | 4［75］ | 1,249 | 20,518 |
| | 11 | 10●第7回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>14●第8回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>15◆地元陶芸家と企業を訪問、胡蝶蘭の鉢(多摩焼)の打合せ | | 3［78］ | 1,102 | 21,620 |
| | 12 | 22◆第2回「市民活動語りすと」を開催<br>24●第1回「ライブカメラによる新しい日常生活」研究・研修講座を開催 | | 1［79］ | 885 | 22,505 |
| | 20. 1 | 19●第2回「ライブカメラによる新しい日常生活」研究・研修講座を開催<br>24◆第3回「市民活動語りすと」を開催<br>30◇19年度・第2回運営諮問委員会を開催 | 9 | 1［80］ | 948 | 23,453 |
| | 2 | 2◇第5回利用者懇談会を開催<br>9●第9回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>21◆第4回「市民活動語りすと」を開催 | | 3［83］ | 1,063 | 24,516 |
| | 3 | 5●第10回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>24●「TNC協働講座～加藤哲夫氏を囲んで～」を開催<br>26●第11回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | | 1［84］ | 1,132［13,164］ | 25,648 |
| 創発的コーディネートの成果を連鎖的に高めつつ持続する H20 | 4 | 23●第12回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>24◆第5回「市民活動語りすと」を開催<br>26●第13回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | 10 | 2［86］ | 1,004 | 26,652 |
| | 5 | 22◆第6回「市民活動語りすと」を開催 | | 2［88］ | 1,154 | 27,806 |
| | 6 | 6■「TNC協働講座」(3.24)の講演録を刊行<br>25●第14回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | | 2［90］ | 1,124 | 28,930 |
| | 7 | 2●第15回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>12●第16回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>23◇20年度・第1回運営諮問委員会を開催 | 11 | 2［92］ | 1,322 | 30,252 |
| | 8 | 24◆第7回「市民活動語りすと」を開催<br>22●夏休みイベント「のりもの好き あつまれ2008」を開催（～23日）<br>28◆第8回「市民活動語りすと」を開催 | | | 1,034 | 31,286 |
| | 9 | 13●第17回「みんなのかんたん芸術講座」を開催 | | 3［95］ | 1,284 | 32,570 |
| | 10 | 4◇第6回利用者懇談会を開催<br>23◆第9回「市民活動語りすと」を開催 | 12 | 2［97］ | 1,613 | 34,183 |
| | 11 | 8●第18回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>24●「TNC協働講座～早瀬昇さんを囲んで～」を開催 | | 2［99］ | 1,397 | 35,580 |
| | 12 | | | 1［100］ | 970 | 36,550 |
| | 21. 1 | 22◆第10回「市民活動語りすと」を開催<br>28◇20年度・第2回運営諮問委員会を開催 | 13 | 1［101］ | 1,039 | 37,589 |
| | 2 | 14●第19回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>20■「TNC協働講座」(11.24)の講演録を刊行<br>25●第20回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>26◆第11回「市民活動語りすと」を開催 | | | 1,064 | 38,653 |
| | 3 | 4●第21回「みんなのかんたん芸術講座」を開催<br>31◇NPOフュージョンによる管理運営業務が終了 | 14 | | 1,043［14,048］ | 39,696 |

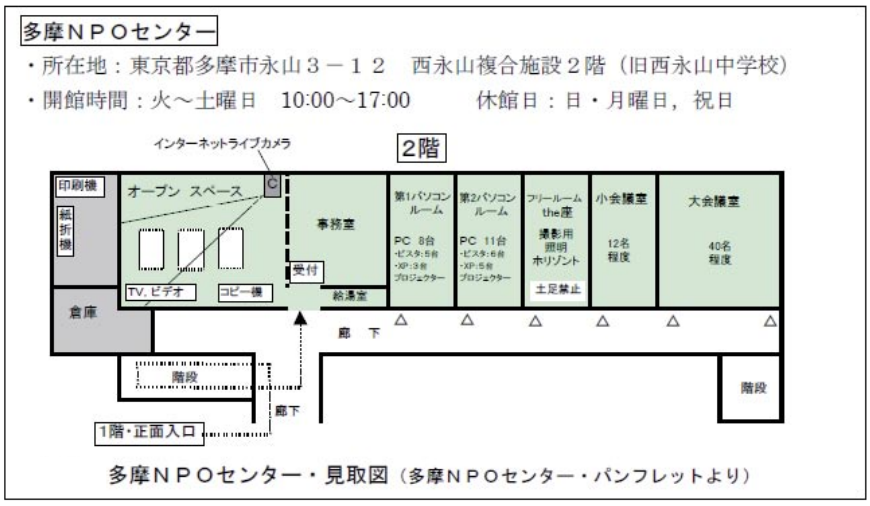
# 第 8 回 「多摩 NPO センター」

### はじめの課題

2005 年 4 月、業務委託開始時の課題は、多摩 NPO センターの存在が知られていないこと、その使われ方が理解されていないことでした。最初の年は、「知っていただく」「使っていただく」ことが目標となりました。まず、地域の情報誌に費用を出して 2 回掲載を試みましたが、その手ごたえはたったの 2 人でした。これでは、費用対効果がありませんので、別の方法を考えなくてはなりません。そこで、当時利用して下さっていた 200 人から 300 人の方々と一言二言お話をするよう努め、スタッフの顔と名前を知っていただくようにしたのです。

### パソコン教室

見取図に、第 1 パソコンルーム（PC8 台）、第 2 パソコンルーム（PC11 台）が示されています。



第1パソコンルーム

この NPO 法人は、10 人以下の生徒に 2 人の講師がつき、3 ヶ月単位のカリキュラムを用意していました。最初のコースは、パソコンの立ち上げといった基本中の基本の操作から教えます。3 ヶ月のカリキュラムを終えると、さらに 3 ヶ月習いたい、教えたいの希望が出、さらに次へと、カリキュラムが次第に増え、生徒数も増えていきました。また、パソコンを習うだけではなく、友人ができ、その日の教室終了後には昼食を共にするなど、生徒同士が交流を深めていきました。いわば、仲間をつくるという効果も上げていたのです。これが、市民活動の第一歩ともなったわけです。

当初は 1 室に 16 台のパソコンが詰め込まれて、委託者の多摩市としては、パソコン機器の更新予定はなく、このまま置いておく方針でした。

2005 年当時、他所でシニアにパソコンを教えていた NPO 法人と任意団体から、この部屋を使いたいという強い要望が直接、また市役所の担当課に対してありました。積極的に利用したいとの要望に応えて、3 ヶ月後の 7 月から、パソコン機器を故障しなければ利用できるよう、日常のパソコン維持管理費用の約 20 数万円を追加契約に踏み切り、その業務も追加受託することになりました。1 室では利用に窮屈だし、部屋の温度も上昇してしまうので、利用開始にあたって利用団体にも相談し、図の通り、2 室に分けることにしました。これによりパソコン室の貸出が可能になり、これが来館者増加のきっかけとなりました。

この団体の教室では、「これは前回教えたことじゃないですか」は、講師の禁句でした。これは活動継続の知恵として、私たちも学んだことの一つです。しかし、このような方法に対し、講師方の中には「教え方が性に合わない」と辞められる方もおられました。（生徒は辞めないのですが。）

こうして、口コミで利用者が増加し、多摩 NPO センターの利用者の第一段階の急増につながりました。

# 第 8 回 「多摩 NPO センター」

### 団体訪問

2 年目からは、団体訪問を始め、3 年間で 101 の団体や施設・機関を訪問しました。また、多摩 NPO センターの案内チラシを多摩市内の要所（コミュニティセンター・老人福祉館など 14 箇所）に置き、毎月交換し、先方の担当者と対話するようにしました。
団体訪問では、団体の活動現場にスタッフ 2 人で訪ね、目で見、身体で感じることと、団体がどのように生れ、活動をどのように育ててきたか、どのような悩みを抱えているかを聴き理解していったのです。
いわば、団体訪問で多摩 NPO センターが地域の団体等のことを学んだのです。
前川勲さんのお話にもありましたビジネスお助け隊とサイバーシルクロード八王子の活動を見習い、その会長の甲谷勝人さんからも助言いただきました。サイバーシルクロード八王子では、八王子市内の企業を回って直接話をし、実態把握をすることによって、サイバーシルクロード八王子と企業との連携を生み出したと伺いました。
これに教えられ励まされて、訪問先では「何をしに来たの？」と聞かれることもたびたびでしたが、その都度、現場と活動を教えてくださいとお願いし、結果として、多摩 NPO センターとその担当者を知ってもいただけたのでした。
このように、一対一での話を積み重ねることによって、2006 年度末には、50 団体をこえる団体と関わりを持てるようになりました。
このような積み重ねの中で、「この団体に、あの団体を紹介したらいいのではないか」というような、コーディネートの基礎情報をも身につけていきました。

### NPO 法人アート多摩との関わり

配布資料の P.20 に、多摩 NPO センターと NPO 法人アート多摩（以下「アート多摩」）との関わりの経緯が示されています。まず、2006 年 11 月 22 日に、多摩 NPO センターがアート多摩を訪問し、その一ヵ月後にアート多摩が「情報宅配便」の希望登録をしました。その後、アート多摩が活動のための助成金を申請したいということで多摩 NPO センターに相談があり、結果として助成金が獲得できたのです。つまり、団体訪問と情報宅配便によって、「お手伝い」「サポート」という仕事が具体化したわけです。
また、アート多摩の代表者が、国分寺市内で実施している活動を、NPO 法人として登記している多摩市内でも同様の活動をしたいと相談を受けて、「NPO 法人わこうど」、「NPO 法人多摩草むらの会」、「NPO 法人プレイルームゆづり葉の家」等との引き合わせを行いました。今、共同の事業はそれぞれが行っていますが、多摩 NPO センターが、これらの仲人、即ちコーディネートを行ったわけです。多摩 NPO センターの会議室を活用し、アート多摩と多摩草むらの会・わこうどによる共同事業が「みんなのかんたん芸術講座」として始まり、プレイルームゆづり葉の家との共同事業も始まりました。これらは今でも続けられ、多摩 NPO センターの場所を生かしたコーディネートが可視化されてきたのです。

みんなのかんたん芸術講座

# 第 8 回 「多摩 NPO センター」

### 市民活動語りすと

もう一つのコーディネート事例を説明しましょう。「市民活動語りすと」で、出された表が示すように、色々なテーマがその場で話し合われます。これは、議題を設けず、参加者が話題を持ち寄り、また、実践していることや考えていることを話す、という形式で、ファシリテーターが上手に導く月 1 回 2 時間の集まりだから実現したこと。
この「語りすと」という名称は、「語る」と「カタリスト」即ち「触媒」を懸けて名づけました。

### まとめ

配布資料の P.21 に「2) 基礎体力としての「触媒力」「創発力」を高める」と書かれています。これは、人と人をつなぐ力だと思います。思いがけないことやきっかけを見逃さないこと、気付く力を高めること。結果として、求め合う引力を持つ者同士をつなぎ合う。多摩 NPO センターのメンバーは、そのようにしてコーディネートを行ってきました。これは資格ではなく、その力を持ち続け、高める意識の問題です。

**「市民活動語りすと」で出された話題（第１１回の資料を元に加筆）**

・フットサル場づくり（道路予定地の暫定利用）　・フィルムコミッションの開設
・市民が描く市の将来（多摩自由大学の活動や総合計画策定への参画）　・多摩の市民活動は多彩で元気
・障がい者の就労支援と文化環境づくりの試み、食をめぐる新規事業の可能性
・ＩＣＴを利用する新規実験講座　・ライブカメラに期待するアイディア
・ＩＣＴの可能性とＴＮＣの開かれた特性を生かして新しい「視える」関係づくりの実験を
・市民の「人・物・金・情報・時間そして志」などの持ち寄り方　・ＮＰＯ（広義）の組織と管理
・胡蝶蘭の販売を通じた企業と地域の関係深化　・多摩焼きは徐々に売れている～陶芸家との連携を～
・地域の陶芸クラフト作家製作の鉢と地域の胡蝶蘭栽培を組み合わせ多摩ブランドの起業を目指す
・市民製作映画「多摩ニュータウン　わたしの街」をめぐり、千里と多摩・吹田市との交流の可能性
・障がい者とアート創作をつなぐ常設スペースへの夢　・里山アートを目指して金曜工房の実験開始
・アートを暮らしに生かす試みを積み重ねて新しいアート空間を多摩に育む
・座・TAMAの芝居づくり　・ビオトープと水車小屋の活用
・人はどのように行動するか　・誰が責任主体として運営するのか等の悩みを語り合う。
・家作りの夢を持ち寄りコーポラティブハウスを事業化する
・生活習慣病対策を通じて新薬の開発に力を貸すＮＰＯ法人を設立
・ＴＮＣの４年間を追跡してこれからの市民活動に生かす報告書をまとめる。
・ＴＮＣにあるサーバは、恐らく世界初の安全性の高いシステム。ぜひ地域で活用してほしい
・来年度からＴＮＣの管理業務を受託する。この場で言ってみたことが次々に実現してしまった
・八王子で子育て支援の活動をしている。「まるごと八王子の使い方」というまちのガイドブックを作成
・銀行で国や自治体に関する業務をしている　・市内の企業。障がい者とランの栽培をしている。
・胡蝶蘭と鉢の組み合わせ、価格の問題が難しい　・ＴＮＣの役割と自治基本条例の理念の整合を
・学生の社会調査実習でＴＮＣには世話になった　・公的福祉サービスから外れる人を民間で支えたい
・高齢化した町田市の団地の食事会をずっと手伝っている
・市民が協力しやすい協働の形を市には考えて欲しい
・今回で最後の語りすとになるが、ここでなければ体験できなかったことは多いと思う

## 第 8 回 「多摩 NPO センター」

市民活動語りすとで、お互いの活動や考えを知ることによって、お手伝いできることの認識、思いがけない情報の獲得などの点から「出席してよかった」と言ってくださる参加者が多くおられました。この集まりのファシリテーターは、ここにおられる富永一夫さん（当時、多摩 NPO センター代表・非常勤）が務め、多摩市の市民活動事業担当の課長・飯高のゆりさんも参加し、市の担当課長が常に必ず同席というのも特色でした。コーディネートのきっかけとして重要である「話を引き出す場」を実際に実現することが出来たのです。ここでご紹介した事例は、その結果として生まれた活動であると言えます。また、「4）多種多様な人・団体・活動が出会い、つながるための場をつくる」、これは「市民活動語りすと」という「場」をつくり、さらには、「参加してよかった」という実感をもってもらえたことが、代表事例といえます。例えば、6 人しか参加していなければ少なくて、19 人だったら多い、と思われるかもしれませんが、これを、「6 人しか」と思うか、「6 人も」と思うかによって見方は随分変わります。せっかく来てくださった 6 人の方々にいかにして楽しんでいただくか、が重要なのです。よく「人が集まらない」という相談を受けましたが、その都度「あなた方が楽しそうに活動していれば、おのずと誘いになります」とお答えしておりました。「集まらないのはけしからん」という雰囲気の漂う場所に来たいと思う人がいるでしょうか。
会社のようなある種の拘束力をもったところとは違います。そこに面白さも難しさもありますが、それは言ってみれば市民活動や地域にとって当たり前のことです。この「当たり前のこと」を学び、話してきたとも言えます。
また、姿勢として、サービス「する側」「される側」という意識ではなく、「共に学ぶ」という意識が求められます。人と人が顔を合わせるときには、お互いに何かを学べるということを信じてやってきました。

市民活動語りすと

「6）関わる人々とコーディネーターの意思・姿勢の重要性」、これはシステムだけでは語りつくせない、
ということを示していますが、この課題はこのコース 6 回の講義の中でもいろいろと語られてきましたので、印象的なご発言を少し挙げさせていただきます。
第 4 回の NPO 法人多摩草むらの会の風間美代子さんは、「資格より意識」「信頼できる人の言はまず全面的に受け入れること」と仰っておられました。
第 3 回のビジネスお助け隊の前川勲さんは、「スキルより人格」「目線を徹底的に合わせる」と仰っておられましたが、これができる人はなかなか少ないようです。
第 5 回の農業生産法人株式会社グリーンピア相模原の桑田俊夫さんは、「レジの脇でも入口でも語りつづける」と仰っておられました。講義の始めには、このような機会に話をすることのできることがとても有難いともいわれました。そこでの話をいかにして生かすか、という共に学ぶ姿勢が求められているのだと思います。

**講義の最後に**

約一時間お話してきましたが、地域コーディネーター養成コースにご参加くださっていることに感謝いたします。私たちも嬉しく思っております。

多摩大学の久恒先生は、『図で考える人は仕事ができる』を出され、その本で人生の刻み 15 年、20 年と書いていられます。それに倣い、自己紹介の補足を簡単に図示します。また、長田弘さん（詩人・著述家）は、「20 世紀は 15 年刻みで大きく変わる、ただし、1960 年から 1970 年は特殊で 10 年刻み」と本に書いておられ、その刻みが自分にあって気に入って使っています。
私は、30 年と 45 年の真ん中 1937 年に生まれ、刻み目の 1960 年に就職、1985 年に多摩に転勤し、2001 年に富永さんに出会いました。富永さんはその前の 20 世紀の末 1999 年 12 月に NPO フュージョン長池を設立されていました。60 年と 70 年の 10 年間には、1964 年に結婚、1966 年と 1968 年には子供が生まれるなど、個人的にも

## 第 8 回「多摩 NPO センター」

大きな出来事がありました。
21 世紀に入って 2003 年 1 月に NPO フュージョンの創設に参加しました。そして、2005 年 1 月、多摩 NPO センターの管理運営業務受託団体公募が公表されました。委託費が安価なものですから、NPO フュージョンの仲間で議論しても、応募するかどうか決まりません。そこで、私はわりにせっかちなものですから、自ら手を挙げたという次第です。

富永：御船さんは、1960 年に当時の住宅公団に入社され、愛知の高蔵寺ニュータウンの開発に担当者として長く携わっておられました。その後、1985 年に多摩ニュータウンに転勤され、南多摩の開発局長を勤められた後、筑波に転勤され、リタイアされた後は関連の財団に勤めておられました。私が御船さんにお会いしたのは、ちょうどその頃です。当時、御船さんは、「70 歳までは、多摩ニュータウンの行く末を見守るために、実態的に関与したい」と仰っておられました。そんな時に、多摩 NPO センターの管理運営業務受託の話があったのですが、多摩市は「NPO 価格」と称して労基法ギリギリの費用を提示してきたのです。そこに御船さんが手を挙げて下さったわけです。「戸締り、電話の取次ぎ、ゴミ出し、洗い物、コピーといったことをご自分でなさらなくてはならなくなりますが」とお伝えしましたが、御船さんは、「人間として当然のことです。家庭人に帰れば普段していることです。組織人だからといってできない方がおかしい」と仰っておられました。

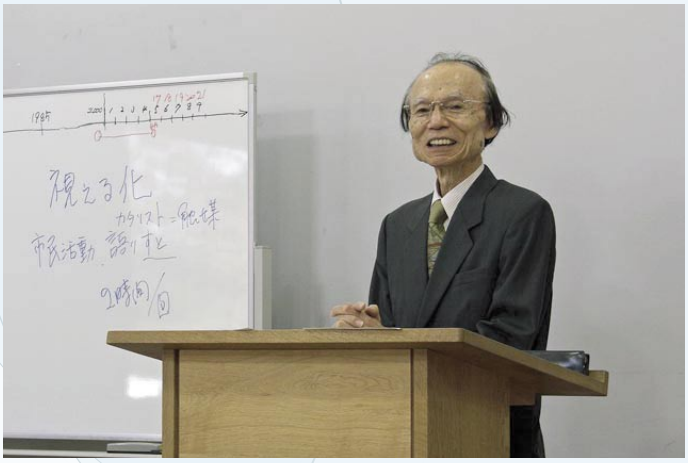
多摩 NPO センター設立に際しては、1999 年の 1 年間、準備会として市民会議が開かれました。しかし、「つくろう」という人は多く集まったのですが、実務を誰もやろうとしなかったのです。とはいえ、そんな中でも頑張っている人はおられました。ですが、次第にそういった人たちの間には「やってあげている」という意識が芽生えてきたのです。そういう方たちに対して市役所は弱く、結果として迎合してしまい、そうすると、一定の人しか集まらない「胡散臭い」組織と化してしまいました。そういった状況の中で、2000 年来の運営協議会方式が、2005 年からコンペ方式になり、NPO フュージョンが管理運営業務を受託することになりました。
最初の仕事は掃除でした。とても埃っぽい空間になってしまっていたからです。正確に言うと、掃除機がきちんと動かなかったので、掃除機の掃除から始めましたが。そして、常に「ウェルカム」の空間づくりをしました。そうすると、空気が変わり、全く違う価値観を持つ人たちが集まるようになりました。また、八王子市内外問わず、いろいろなところから見学者が訪れるようになりました。

御船さんは、ご自身の履歴を A3 一枚にまとめておられますが、私にとっても、2001 年の御船さんとの出会いは、価値あるものだったと思っております。私の講演会で最初にお会いしたときに、お互い 30 分早く到着していて、名刺交換などをした折に「以前からお会いしたいと思っておりました」とお伝えしたら、御船さんは「富永さんとは必然の出会いとしてお会いできることを感じておりました」と仰ってくださいました。

御船さんはご覧の通り、スーツにネクタイというスタイル、直立不動でお話になるような方ですが、私はスーツとネクタイが滅法苦手で、あちこちに動き回りながら話しをする、といった按配です。しかし、このようにまるで違う二人が心を通わすことができているのです。これこそが、コーディネートだと言えるのではないでしょうか。

### 質疑応答

質問 1：将来コーディネートをしたいと思っておりますが、個人個人のつながりを、次へどう展開したらいいのでしょうか。いくら「私は資格はないけどいい人なんです」と訴えても無理があると思います。どのように努力したらいいのでしょうか。




本日の講師　御船氏

## 第 8 回 「多摩 NPO センター」

回答（御舩）：私自身の経験からお話します。1983 年に、高蔵寺で「500 会」という組織をつくりました。これは、25 年つづけて、2008 年にめでたく（？）絶滅いたしました。責任者の交代ができなかったのです。この会は、高蔵寺という 5 万人が居住するニュータウンのセンター地区に、500 席のホールが 1983 年につくられたことがきっかけとなっています。このホールはちょうど南大沢のホールと同規模です。
周辺には、友人や知り合いがおり、それぞれ、生協、テニス、囲碁などのつながりがありました。中には学生時代からの友人もおり、学生時代ラグビーをしていた折の仲間、今はゴルフに変わりその仲間等。そんないろいろなつながりから知らない人知っている人が集まりました。相談して、このホールで、音楽会を開催しよう、それも、おさらい会ではなく、一流の演奏者を呼ぼう、ということになったのです。まず会員を募り（初年度には 1000 人 2 回公演分の人数になりました）、前年の 12 月に、年間 3 回分の 6,000 円の前払いを受け、費用にあて赤字が出ないようにしました。
実行にあたっては、音楽事務所に助言も求めましたが、「面白い取り組みだ」と興味を持ってくれましたし、演奏者の方々からも「聴衆全員が本気で聴く気になって聴いており、素晴らしい」という評価をいただいておりました。25 年間に 1 億 400 万円という資金が動き、累計で 4 万 2 千人が聴衆となりました。
運営に当たっての人件費はゼロですが、年間約 2000 時間の労力が費やされました。役割分担も様々です。ホールを押さえるためには半年前の 1 日に予約をしなくてはならないのですが、そのために一日かけて並ぶ、という役割を担ってくれる人もいました。それぞれができることをしていました。

そこで、人のつながりをどう展開したか、ということですが、まずは、それまでに縁のある人々に声をかけていき、次々に友人にとつなぎます。それから、この活動の場合はお金は借りない、人の間でお金のやりとりをしない、これだけは守っていました。
事務局は個人の家で、1983 年当時は私の自宅が事務局になっていましたが、1985 年に私が多摩に転勤しましたので、それ以降は別の方になり、25 年で3代でした。
どのような人にも、「家庭人」「地域人」「専門人」としての顔があります。愛知県在住時代は、「コミュニティ研究会」という会に参加しており、その研究会の委員として、各地にでかけてお話しすると、「私は何もできないのですが」という質問がよく出ましたが、誰でも、これら 3 つの顔を持っているので、できることを見つけましょうと話してきました。「何もできない」という前に「何ができるか」を考えなくてはならないと思います。

子供が幼稚園に通い始めると、幼稚園と共に「若妻学級」を開催しましたが、ここでも、勉強はいやだが親の聴講の間保育なら好きだとか、印刷の手伝いならやるとか、それぞれのやれること、やりたいことを組み合わせてできるだけ親たちでやるようにしました。たとえば講師予定の大学の先生などに親たちが事前のお願いにいきましたが、先生にもその後のつながり等も含めて喜ばれました。結局、それぞれの持ち味をどう生かすかが重要なのだと思います。とはいえ事務局も必要ですしコーディネートも必要です。

私は、専門人の顔として「住みよい地域生活を考える会」という会を運営しておりましたが、これは、全く新しい「ニュータウン」という空間の中で、いかにして住みよい地域生活を送るか、が課題となっていたからです。ニュータウンでは、住民が大量に移住してくるため、その中から誰が事務局をやるか、というと、これが決まりにくいものです。

これは、サルの世界でも同じようです。大分の高崎山のサル山はサルにとって住み心地がよかったらしく、サル人口が増えてしまい、愛知県の犬山に一群を移すことになりました。しかし、大分のボスザルが移住後の犬山でもボスザルになれたかというと、猿でもそうはいかなかったようです。人間ならなおさらだというように、猿がご専門でもある河合雅雄先生は、住みよい地域生活を考える会で、言われていました。また、ニュータウンは、一定の施設が整っているため、生活を変えなくても暮らしていけますし、住民がまとまらなくてはならない、という切羽詰った状況になることもありません。

そこで、小学校の校長先生と協働して、こんどは「婦人学級」を 3 年間やりました。ここでは、座学と活動を組み合わせたのです。例えば、座学の主題が「子どもたちの町」だと、前述の河合先生の〝父親とは人類が発

## 第 8 回 「多摩 NPO センター」

明したもの。男は父親技術を養わなければ子供の父親にはなれない〞といったお話、つづいて活動として子ども会づくりを話し合い実現するといった具合。このように様々な活動組織の設立を通じて地域生活の基礎をつくりました。結局、地域の小学校の校長先生を仮のリーダーとし、「婦人学級」などを開催し活動組織やリーダー作りのきっかけにしたのです。この校長先生は、例えば、何かの会のメンバーを募りたいときには、「あの人なら」といった情報を把握していて教えてくださったのです。こういった情報の出所を見定めることもコーディネートの重要な点であると思います。
今後は、前回に富永さんが話されたヘルプデスクが出来れば、こういった役割を果たすのではないかと思います。

回答（富永）：これは「Just do it」に尽きると思います。しかし、誰が何をどれくらいできるのか、その範囲を見定めた上で動くことが大事です。私の場合、サラリーマン時代は、週 5 日は動けませんでしたが、週のうちの 2 日は、地域のための活動の時間に充てようと考えていました。また、例えば、ソフトボールのサークルをつくりたいといった場合、私自身はソフトボールをしませんが、呼びかけることはできます。
それぞれの人に持ち味があって、「0」から「1」までを立ち上げることを得意とする人、「1」あるものを生かしてアレンジすることが得意な人、「1」から「100」に育てることが得意な人、様々です。それぞれをいかにして生かすがが重要なポイントとなります。

コメント：辻村さんの質問への回答が、御船さんの実体験に基づいているので、非常に参考になりました。

富永：御船さんは、名古屋に住まわれていた 25 年間は、「家庭人」と「専門人」が同居した生活を送られていたようです。しかし、農耕民族は、それが当たり前でした。狩猟民族は、狩に出るので「家庭人」と「専門人」が分離していますが、農耕民族の DNA を持つ私たちにとって、「家庭人」と「専門人」の同居はそんなに無理なことではないかと思います。
御船：地域活動の中でも「専門人」は大事です。「家庭人」「地域人」が「専門人」をどう使うか、どこで「専門人」を使うか、どう「専門人」を生かすか、がコーディネーターの役割となるかと思います。

富永：「母親」は、必然的に「地域人」「家庭人」のプロです。そこに、男性がもつ「組織力」を上手く活用すればいいのだと思います。
ここで、中庭先生にコメントをお願いしたいと思います。

中庭：「くらし共同館なかよし」では、皆があやふやじゃない。それから、代表の塚越さんから伺ったのですが、自分の夢を、損得勘定無しに口に出す、ということが大事とのことでした。「生協をお母さんたちで運営する」という夢は、最初は誰もが「無理だ」と思っているのですが、まずは言わないと実現しない。それが、言いつづけているうちにその気になる、という「予言の自己成就」という状態になるわけです。この「その気になって言う」または、「書く」ということが大事なようです。

富永：熊本の「ひまわり亭」のオーナーである本田節さんは、「失敗しても成功するまで頑張るから成功しかしていない」と仰っておられました。ですが、向き不向きは大事です。それから、周りに責任を取らせない。私は創業タイプですが、自発的責任感をもってやっております。

御船：人のせいにはしないということが肝要です。

質問 2：宣伝効果の一番高いものは何ですか。

回答（御船）：ホームページのクリック数は増えず、むしろ減りました。これから、今はまだ NPO 活動の対象となる人々が必ずしもデジタル世代ではない、ということが言えるかと思います。一方、紙媒体として季報は全ての関係団体と個人に配布していましたが、「季報ありがとう」と言われたことは殆どありません。手ごたえの実積が少ないので、利用者が増えた要因としてどれが有効だったかは分かりませんが、やれることはやった、といった感じです。

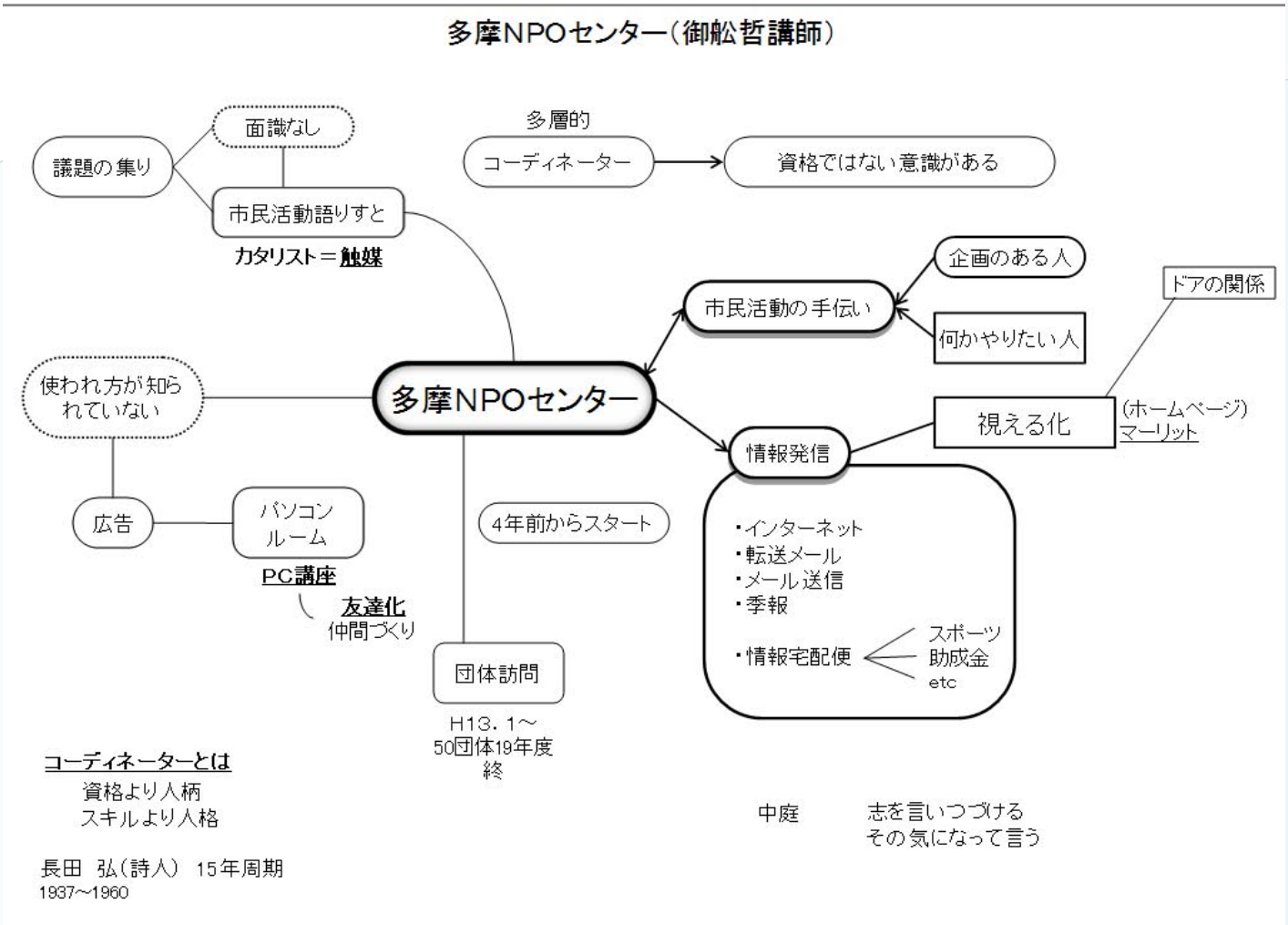
回答（富永）：口コミが一番だと思います。ですが、コンタクトを取ることは必要です。ですので、コンタクトの量を測るために、多摩 NPO センターへの最初の業務に関する私の注文は、来館者の数と目的に始まって、毎日の電話、メール、ファックスのやり取りを全て記録してもらうことでした。そうしたところ、多摩 NPO センターから毎日詳細なデータが届くようになり驚きました。

## 第 8 回 「多摩 NPO センター」

回答（御船）：皆で毎日少しずつやる方が楽でしたし、日々の効果が目に見えるので、励みにもなりました。それらのデータが配布資料の P.7 から P.8 や季報記載の実績記録に生きて反映されています。

回答（富永）：現在自然館で展示されている「いまここ情報」の広報依頼を事務局が忘れてしまい、緊急手段として、路線バスにチラシ 600 枚を吊り下げることにし、「粗品（ジュース）差し上げます」の記載もしました。しかし、結局チラシによる来館者はたったの 1 名でした。ですが、チラシを見た方で、粗品を求めず帰った方もおられるかもしれませんし、たまたま時間がなくて来られなかった方もいるかもしれません。ですから、このチラシの効果はなかなか計りにくいものですが、チラシを見た方々の中でいつか来ようと思っている方が何人かおられればいいのではないかとも思います。

富永氏と御船氏
平成 21 年 11 月 7 日（土）長池公園自然館にて




受講生 Y 氏による「多摩 NPO センター」における御船哲氏のコーディネーターとしての役割の図解

# 第 9 回「夢見隊」

講師　宇野（うの）　健一（けんいち）

## はじめに

皆さん「コーポラティブ住宅」って聞いたことありますか。家を買う時、出来上がったものを見に行き選ぶ、土地を買ってそこに自分で家建てる、大ざっぱに分けるとこの二つの方法です。しかし、気に入らないけど買った、住んだという人も多いと思います。また、せっかくうん千万円の家なのに住んでみたら初めて不具合に気付くということも多いのではないでしょうか。

コーポラティブ住宅（以下「コーポ住宅」と略す）は複数の人で自分たちの家を建てる土地をきめ、そこに一緒に工夫して家を創る。これまでに約 10.000 世帯、数百の例が出きていますが、急に普及はしません。過程が大変なのです。一人ひとり好みが（顔と同様に）違いますから、それを加算し調整合意に至るのは、大変でなかなかやる人は出てきません。取り組むまでや、取り組んでいる時の苦労の話しに先立ち、まずはどういうものか見てください。

1 号ヴィレッジ浄瑠璃 14　全体 14 戸　木造長屋 5 棟 10 戸　RC 造重層長屋1棟 4 戸

現状の姿のスナップ写真
住んでからこつこつと仕上げてきた 外構

## 第 9 回 「夢見隊」

棟と棟のすき間を皆で工夫した成果です。

2 本の樹しかない竣工当初から、手を入れてきた一例

バラ愛好家の住宅周り

相談の過程で考えを模型化して検討。屋根の形や相隣関係で窓とその位置の調整等

段階毎の相談風景、建設組合創設総会、1/10 図上で検討する外構。建設途中に皆で側構造り、ご近所から石ももらって並べて使いました。竣工記念パーティー。共有敷地の中で 2 号プロジェクト参加者を励ます 1 号メンバー

入居者の声

2000冊の本棚をまず第一に… 斉藤登・晴美様ご夫妻

多いときには毎月2回の勉強会に参加。結構大変でしたが、住む前からご近所のみなさんとお友達になれ、住んでからの暮らしがとても安心でした。かけた時間と労力に見合った結果が得られたのでとても満足しています。我が家の場合は、持て余していた2000冊の蔵書と一緒に暮らしたいというのが夢だったんですが、壁一面を本棚とすることでそれがかないました。

台所は風通しがよく夏も快適。リビングは吹き抜けで、とても開放感があります。吹き抜けの屋根裏に架けた梁は、山梨の解体された酒蔵の廃材で、このプロジェクトへの参加者全員で共同購入したものです。自然素材によるナチュラルな住宅を作りたいと思った点が、設計者の方の考えと一致して希望通りの住まいが出来たと思っています。

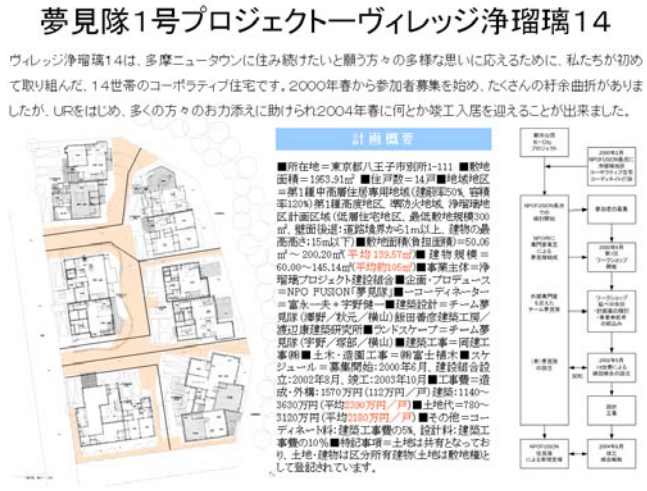
別荘に住んでいる気分です 大沢彬・富代様ご夫妻

プロジェクトに参加した順番に場所を選んでいくというルールの中で、私たちは残った土地から、みなさんの評価があまりよくなかった北東角地を選びました。日照条件はあまりよい場所ではありませんでしたが、その分、設計を工夫、リビングを吹き抜けにして大きくガラスの開口部を取ることによって、とても開放的で明るい家になりました。自由設計ならではの結果だと思っています。

2戸連棟のタウンハウスですが、二重壁になっていますから増改築も自由。全く戸建と同じ感覚でお隣を感じさせません。安心してくつろげるコモンスペースと浄瑠璃緑地を背景に、屋は雲の流れを見て、夜は月見とまるで別荘に住んでいるような気分です。家を建てるときはかねがね暖炉を置きたいと思っていましたから、これにはこだわりました。

入居者のお顔の写真とコーポ住宅にかかわる願い・意見など。本と一緒に暮らせる家を願った人の例。暖炉の夢を実現した人の例。

## 第 9 回 「夢見隊」




1 号ヴィレッジ浄瑠璃 14 の敷地・配置と想定の敷地境界。それぞれの住戸の規模・位置に応じ敷地境界を設定してありますが、現状では境界の姿が分からないようになっています。仮に建て替え時にはこの図上の敷地界を前提に建築を考えることになります。

僕は、大学で建築を学び、有名建築家に憧れもしましたが、街全体と建築単体との差異が気になり、集合体を扱うまちづくり・都市計画の途を学び始めました。大学院より実践と思い定めて、（当時結婚し、子どももいたので）働く途へ転身しました。就職先がニュータウンを主とするまちづくりの計画をするコンサルタント事務所だったので、それに取り組むことになり、その一つの舞台が多摩ニュータウンです。その中の一つが、このコーポ住宅の敷地のある八王子市域 N-City でした。この仕事に就いて 20 年が経とうとしている頃の 2000 年 1 月、富永さんに今の UR 永山事務所で紹介され、夢見隊プロジェクトへ協力することになりました。UR の所有地を買ってコーポ住宅の可能性を探ることから始め、戸建ではないが、2戸で1棟の住宅に関する需要調査をワークショップ方式で実施する作業に入りました。その中から希望者も出て来て、ワークショップでなく実現の方向でやろうという話になってきました。中には 4 年間通してワークショップから竣工までつきあい続けてきた中心人物がいました。UR は調査までで費用打ち切りなので、その後は、成功報酬しか見込めません。コーディネートの仕事をやり、計画の実現を目指すことになりました。
これまで、コンサルタントとしてやってきた仕事は提案までで、発注者が提案を要求して、それができて初めて報酬が出るのですが、その提案が実現するかどうかは関係がありませんでした。まだ見えない入居者を想定した計画を出しても、受け入れられないことも多いのです。一般解を求める発注者である大企業には、ちょっと変わったものは通らないことが多いのです。

N-City は偶々担当者の理解や意向もあって、まだ見えない入居予定者の希望を取り入れるしかけを用意する提案を納品できました。その一つが、小規模集合住宅用地でした。1995 年に提案し、2000 年には区画ができました。しかし、ヒューマンスケールの小規模集合住宅用地は売れ残ってしまっていました。そこで、ニーズがあるかどうかについての調査が、NPO 法人フュージョン長池に委託されたのです。それまで提案止まりだった私も、初めて実施段階に参加することになりました。提案が実現しないのは、とかく提案者のせいと言われてしまうので、意地もありました。
ところが、調査をはじめた 2000 年のワークショップから参加者募集のモヤモヤした期間、私はお手伝い気分で覚悟不足でもありました。

居住予定者 14 世帯がまとまり、建設組合設立を決心した時、土地代金の支払いも決意しなければならないのに、夢見隊は本当に頼りになるのかと不安に思われました。そこで、コーディネーター側も覚悟を迫られることになったのです。お金の絡む事業責任を果たしたことはなかったのですが、初めて最終成果まで責任を持つことになったわけです。

コーディネーターとして、居住予定者の希望をきちんと受け止めることが求められました。2002 年 6 月以降、主な入居は 2003 年秋でしたが、2004 年 6 月全世帯入居までコーディネーターとして課題処理に明け暮れました。それにもかかわらず、やめとけばいいのに隣の土地、2 号プロジェクトにもかかわり始めたのです。

それは 2003 年夏、初めから覚悟してかかわればうまくいくと自信を持ってもいたのですが、16 世帯分の土地に 6 世帯まとまるのに 2006 年末までかかりました。小分けして土地を買いたいといっても土地所有者の UR に相手にされず、やめるか、6 世帯用の土地を他所に探すかも考えましたが、是非この場所に住みたいという希望者の強

## 第 9 回 「夢見隊」

い声もあり、残り 10 世帯分は民間事業者 1 社の分譲住宅を組み合わせることで結果として実現しました。
木造の2戸1棟と、RC 造低層 3 戸1棟の上に木造 2 階をのせる 4 戸 1 棟で実施することになり、関係者の連携をコーディネーターとして務めましたが、民間建売業者との調整は新しい経験でありました。

このところ巨大高層マンションが多く建ちますが、その場合、周辺居住者とトラブルが生じやすいです。その点、低層集合型のコーポ住宅は、周辺とのなじみも生まれ、地域貢献プロジェクトといえます。今また 3 号をねらって、苦難の途を歩むか悩んでいますが、ご関心をお持ちであれば、ワークショップへの参加をお誘いしたいと思います。

富永：(コーディネーターの一人として補足説明)
頑張って説明して下さったのですが、言語明瞭意味不明が多い専門家言葉なので、ちょっとちょっかいを出して補足したいと思います。1999 年 12 月 NPO フュージョン長池設立 その直後、自然館不審火！で当面の仕事が先に延びてしまいました。NPO 設立の夢、は、暮らしの支援全般を目的にしていたので最初は住まい守り隊、自分達で住宅の管理をしたい。次は、あったらいいな、こんな住まいづくりを試みる夢見隊、2000 年 1 月 UR の永山にある事務所（2009 年には、新宿へ統合）に呼ばれて、夢見隊でコーポ住宅をやってはと勧められ、かつ、そこで宇野さんにも引き合わせられたのです。コーポ住宅の可能性を 6 ヶ月調査して下さいと NPO 法人に UR から委託が出された。そこで、可能性だけでなく、実際にやってしまう気持ちで調査してみよう。何故出来合い住宅を買わされるのかに不満もあり、自由設計に魅かれて始めたのです。戸建でなく集合住宅には利点ありといわれたが最初は理解できませんでした。土地を直に公団から卸売を受けられることも利点ではありましたが、自由設計では、難しいこと楽しいことが一緒にくるのです。また誰かが途中で脱落すると全体が瓦解してしまいます。それが最も怖かったのですが、合意が成り立っていれば、住む前から知人友人なので安心して住めます。お金の伴う利害調整は結局コーディネーターが負うことになるのです。

説得力をもつため、コーディネーターとして有限会社を一人 50 万円出資、計 300 万円 6 人で設立、6 人うち富永、宇野等 5 人は NPO フュージョン長池関係者、専門分野は多様です。その中で、富永は裏方として支えてきました。基本は、こうして住みたいという強い希望に応え、覚悟を迫られながらやってきたということにつきます。
ミサワホームのような民間事業者の場合、固定費・高い人件費で採算がとり難いと思います。

**質疑応答**

質問：集合住宅で 20 年住んできたが、”こう住みたい”に憧れがあるし、強い希望はあるが、その調整は難しいと思う、妥協、折衷の結果ではないのか。人間関係が出来てくるとしても住んで以後はさらに 20 年 30 年、うまく続くのか？経験の上の妥協か？

宇野：100％夢の通りでなくとも納得して、受け入れています。住んでから判る問題も出てくるので、それの方が大きいかもしれません。

富永：まだ引越し・転居の事例はありません。

質問:勝手に売れるのか、売る場合に審査が必要か。何故、そこを選んだか、周辺も含め住環境を評価したいと選んだはずなのに。集合型のコーポ住宅は何がメリットか。戸建用地に建てるほうが楽ではないのか。相隣関係をも買っているはず、次の世代に移ったとき どうするのか？

宇野：管理組合規約作成時にいろいろ話が出たが、第三者売却に際しては総会が承認することになっていて、次の入居者の規定は、資産維持の継承のみを文章化してあります。14 戸残ったのは、妥協を納得して残りました。

| 2000. 4～2006. 6 | 2003. 7～2007. 12 |
|---|---|
| 14 世帯（+2 世帯）<br>建設組合→管理組合 | → 6 世帯<br>+購入者 10 世帯 |
| NPO フュージョン（長池）<br>夢見隊プロジェクトチーム | 夢見隊プロジェクトチーム<br>+ミサワホーム |
| （有）夢見隊<br>責任を意志表示 | （有）アトリエ－U<br>+ミサワホーム |

土地所有者・UR

## 第 9 回 「夢見隊」

この敷地に隣接する緑地との関係にも好き嫌いがあるし、位置についても同様の処理、地番に 4,9,13 は絶対いやという人に対応するのに三ヶ月もかかりました。14 世帯で決まって動き出したら、1 世帯欠けても大変なことは皆さん覚悟できていましたが、次の世代に移ったときのことは想定外です。そこで、隣り合う住宅の間は壁 2 枚をあわせた壁の木造にしてある。また、あまりに個性的住宅なので、転売難しい住居になってもいます。

質問：繰り返しになるが、メリットは何か？

宇野：お金に限界がある中で、選ぶ環境と選べる住居、一戸建てに近い雰囲気 150 ㎡ / 戸 × 2 で 2 戸 1 棟が建つが、16 世帯平均で 140 ㎡／戸の土地負担、土地代は家の面積比配分になりますが、一戸建てより土地代負担は安くなります。

富永：金銭の負担減は土地代軽減分が主。住む前から気の合う仲間で住める、人間関係の豊かさを評価して参加されたんだと思います。

質問：つくるまでかなりの労力・時間が必要だが、今後、流行するのか。特殊か。一般的ではないのではないか？

宇野：広告は下手、そのために使える金もないし、現状では広がらないといえます。

質問：時間に余裕がなければ出来ないし、自分で自由にやる方を選ぶのでは？

富永：今の日本社会の意識からすれば、この方法は少数派 ニッチだ。しかし、価値観変わったらどうなるか。集合型住宅の歴史・経験はまだ 50 年しかない。長屋形成には、歴史・経験もあるが、多摩ニュータウンでは 20 世帯集まったのが精一杯と思います。

質問：参加したのは近隣に住まっていた人か？

富永：多くは 土地勘のある人。また、来る人達はコーポ住宅をよく勉強しています。

質問：コーポ住宅には、事業に関連する専門家のコーディネートと入居予定者のコーディネートが必要。そうした組織があってできるのか。できないのか。その都度、組織ができるのか？

宇野：一号は組織がなくても始まりました。

富永：マンション型のコーポ住宅には、内装のみ自由設計という例も多い。それに対してこの場合は土地選びから始める究極のコーポ住宅。仮に 3 号を始めるとすると、関係者主体を募るところから始める、夢見隊型。多くのケースは設計者なり事業者によるあてがいぶち型のコーポ住宅です。

宇野：居住予定者主導の方法もあるはずですが、私の場合は特技専門を地域で生かしたいと思っています。

富永：宇野さんが話したのは、居住予定者による建設組合がまず出来てそれから始まるタイプで、多摩ではそんなことができるかとも思いますが、建設組合の家庭教師役としての専門家のアドバイザーは必要です。

宇野：普及する努力も進んでいます。都市型では、一団体で 9 棟実現の例がありますが、廻すのが精一杯で、推進すると、コーポ住宅の魅力が減って建売に近くなります。それでは、増えないのです。経済成長も終り、ストック活用、ゆっくり相談してやるという時代になってくるかどうかがポイントです。

富永：最低月一回、最盛期月二回打ち合わせ、加えてインターネット、メーリングリスト、ホームページを活用し

本日の講師　宇野氏
平成 21 年 11 月 14 日　長池公園自然館にて

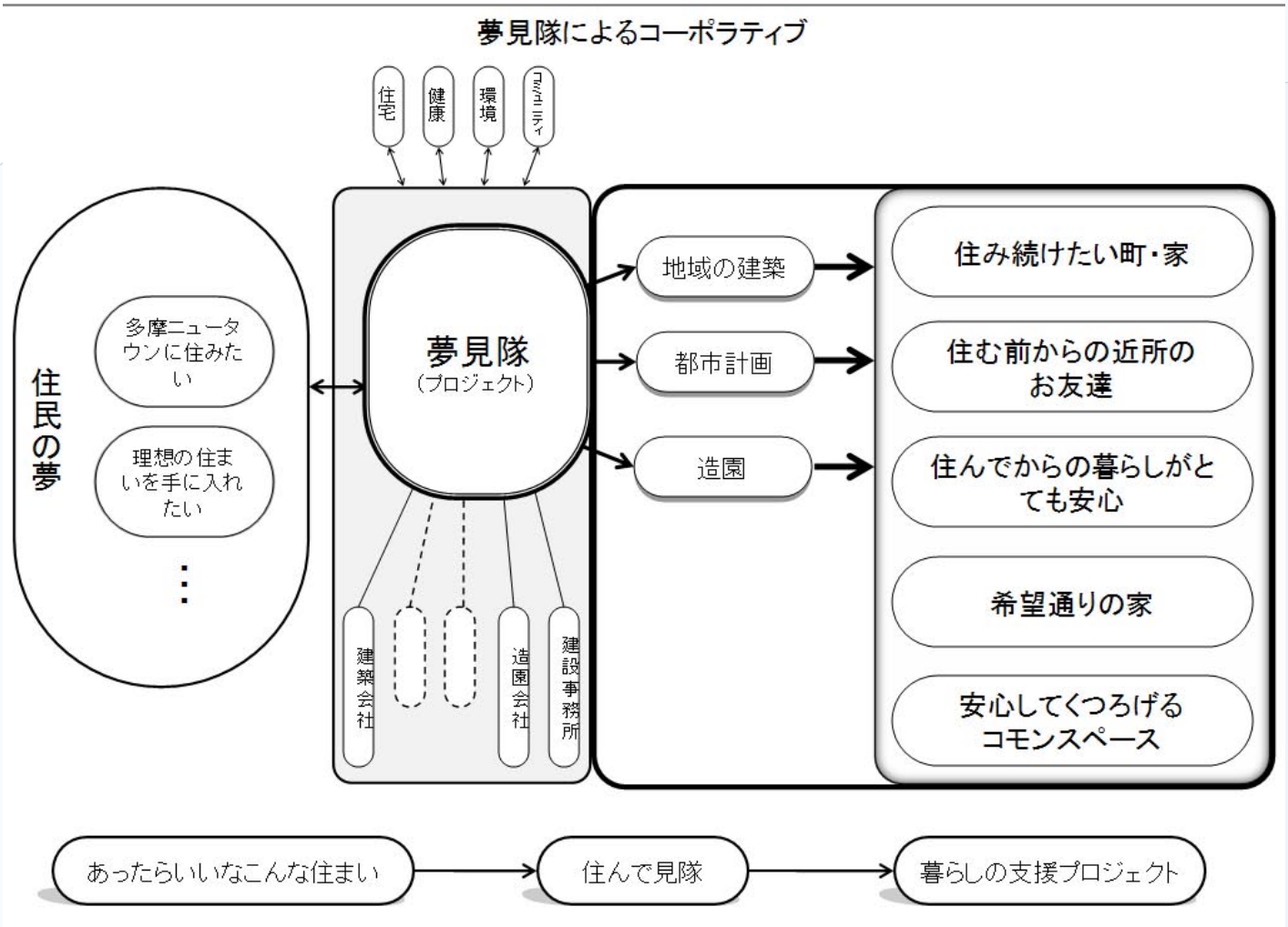
## 第 9 回 「夢見隊」

て情報共有に努めてきています。一方で、売れるのを 4 年待つ土地所有者がいるのでしょうか？かつての〝おらが村で家建てる〟というのは、労働の賃金は稼ぐが、配当を出すわけではなく非営利事業でやってきたはず。また、雨漏り一つでもクレームの対象で、何がでてくるかわからない、地域に居るとその恐ろしさは限りないです。コーディネーターがある日突然不在になったらどうするのかも心配です。コーディネーター、プロジェクトリーダーが上手に継承、交替できるようにならないと持続可能にはならない。

質問：景観法も出来、市全体としてまちづくり、まちの評価をどうするかは重要な課題になっている。住みよい環境づくりの思いの一つとしてコーポ住宅に期待したい。

宇野：私もそう思いながら、コーポ住宅を進めてきた。我がまちに責任持とうという人が少しでも増えるとよい。コーポ住宅の経験も生かして、高層マンションと先住住宅者との調整も仕事としてあるだろう。問題生じないと専門家の出番は出てこない。先走るとおせっかいとも言われる。環境を大切にする人をどうやって増やしていくか、が大切です。

富永：私も NPO 法人をつくったのは、このまちをよくしたいとの思いからです。久恒先生は目の前に長池公園があるからいいと移り住んでこられました。さらに自然館に来れば、人間関係も育てられます。ゆっくり育てられる価値観の転換期に私達は生きているのです。




受講生 S 氏による「夢見隊」における宇野健一氏のコーディネーターとしての役割の図解

# 第 10 回 「図解でまとめ」

講師　久恒（ひさつね）　啓一（けいいち）

## はじめに

最初の講義からもう二ヶ月、早いものですね。皆さんの手書きされた図をパワーポイント化してお渡ししたい。ただ、お話を聴いて終りではもとのもくあみ、そうではなく、今日のまとめが皆さんの実績になります。
進め方は、各コーディネーターについて、お一人代表者として発表してもらいます。そのため自分の図に、他の人の書いたものを読んで、自分の図に補強して書き込みます。そしてその図をプロジェクターで示しつつ、「地域コーディネーターとはこういう人ではないか」ということを、自分の言葉で結論的に語っていただきます。
30 分時間を用意しますので、図にメモを付加しながら、自分の結論としてのメモを用意していただきます。これから発表を担当する地域コーディネーターについて、他の人の書いた図もお渡しします。

## 受講生の 30 分間の作業中に

手書き図からパワーポイント化すると図がもっともらしくなるでしょう。
これが最大の成果です。一枚におさまり、丸の形や大きさ、矢印などの太さも代えてあります。
それをみて、さらに加えたいものを手書きで加えて下さい。図がいっそう命を持つようになるでしょう。

メモを付けて、物語化して発表してもよいし、一つの図でも語り方は自由自在です。聴き手の相手次第に出来ます。文章だけだと読むだけで同じです。一方で、図があると脱線する怖さもなくなります。
担当は比較的よく出来ている図を書いた人を選ばせていただきました。そこに手書きで他の人の書いた図から補強してまとめてみましょう。
作業は 30 分に限定します、長くしたからといって結果はそう変わりませんから。
他の人の図を見ると、人によって受け取り方が違い、いかにいい加減か判るでしょう。
発表は 2 ～ 3 分話して、残りで質疑、計 5 分でやりましょう。
他の人の図から追記してまとめておくと質問はほとんどなくなるでしょう。今回は、手書き書き足し、モノクロ図でやりますが、手持ちに色を使い分けて書き込みをしておくといっそう迷わずに物語化して発表ができます。
何から話して、何で終わるかが物語ですからね。そして結論を言うのです。
この図があると、仮にコーディネーターに対してわがままをいろいろ言う人が居ても、コーディネーターは、図のこと位置付けて説明してあげることができますね。

## 発表

※以下の記録　敬称略します

発表：植村　昇
「10 月 3 日　ビジネスお助け隊
　　コーディネーター：前川　勲 」

ビジネスコーディネーターです。サイバーシルクロード八王子（以下「サイバー」）のビジネスお助け隊として経営アドバイスを担当、主に中小企業の支援。中小企業の社長は総てを自分でやるので、悩みも全般にわたる。ロジックより心での支援が大切 、スキルより人格。聴くのも Web より対面が有効です。これからの八王子、発展方向も語られました。コミュニティービジネスの育成（そな内容を補足）、本来のビジネスとして 持続する事業にすることが大切です。
ビジネス支援にはあらゆる専門家が必要だが、その専門家をいかにうまく使うかマッチングがコーディネーターの役目。

久恒：心とか人格、人物の大切さですね。最初に図を描いた時から進歩するのでいっそう見えてきます。

## 第 10 回 「図解でまとめ」

発表：辻村　千代子
「10 月 10 日　NPO 法人多摩草むらの会
　　コーディネーター：風間　美代子 」

多摩草むらの会（以下「草むらの会」と略す）風間さんは、主な 3 人と常に連携をもちながら、7 ヶ所の運営をし、草むらの会の中のみでなく外へのコーディネーターも努める。情報発信で理解・共感の土台をつくり、外から人の支援、情報の支援 を得る。他のコーディネーターとの信頼関係と繋がりも拡がり、事業の場も拡がるような接点をつとめる。
資格より感性。相手の目線に立って、多面の信頼を得ている。柔軟にものごとをとらえることで多方面の橋渡しをしている。足元はしっかりし、かつ将来にも目を向けていること。愛情をそそがれた人は立ち直れるとの信念で続けている。

久恒：やわらかい人という印象は、図にすると目でも思い出しますからね。まるや四角の囲みとその大きさなど形を工夫するともっと明確になるでしょう。

発表：曽田　勉
「10 月 17 日　農業生産法人グリーンピア相模原
　　コーディネーター：桑田　俊夫」

巾広く事業内容を持つ。他との関係は、多様な団体・組織とそれぞれの協力関係を持っている。農家との関係で土地・場を確保し、行政の施策の支援も受け、将来に向けて大学等とも協働し、食育、環境、農の考え方などを育てている。
自分のやりたいテーマで地域貢献、こだわりが必要ではないか。徹底して話しかけることに努めておられて、人柄が大切。

久恒：人材要求、提供という文字を付した矢印はいかがなものでしょうか。その立場の人も読む図ですから、例えば〝人材面で協力を願う、人材で協力する〟等の表現で。農家との関係は矢印だけでもよいのでしょうか。団体・組織が図ではそれぞれがバラバラだが、各団体や組織どうしも繋がっているのではないでしょうか。利用者についても関係を具体的にすると今後に生きると思います。

発表：籏野　貞夫
「10 月 24 日　長池ぽんぽこ祭り
　　コーディネーター：田中　純」

田中さんは、皆で楽しみ、まわりが幸せになると自分も幸せになれるというお人柄の方。
継続はコーディネーターの力。しかし自力のみでなくコラボレーション、強いきずな連帯、共感あってのもの。プロジェクト型の組織運営で自立自主運営の支え役に徹し、1 年で 1 段落。主役は地域人、多様な関心と主題で 2009 年も楽しかった、良かったで終える。それが、2010 年につながる。
松本：時系列に図化したのが面白い。立体的にみせるいい図です。

久恒：1 年の活動の順番は番号でなく矢印で、それがまた来年にまわるように循環させる表現の図にするといっそうよいでしょう。

発表：貞清　ひろみ
「10 月 31 日　長池里山クラブ
　　コーディネーター：赤羽　誠」

長池里山クラブは、住民が楽しんでやっている活動。長池公園は物的に用意されていた。それが活動の舞台。赤羽誠さんは NPO フュージョン長池の理事とクラブの事務局長兼任で連携がうまくいく。10 年続く活動で地域の多年齢層の人が参加しているが、次の主役にどう継くか、それが課題。
同じことをしても常に新しいことを考えられる、次世代につなぐことの出来る人が地域コーディネーターなのではないか。

久恒：同じ人が図のあちこちにあるのでなく一ヶ所にまとめるように表現するとよいでしょう。
人を育てる力のある人がコーディネーターです。〇語に小さい言葉を添えて、鍵言葉を明確に出した方がよいです。

## 第 10 回 「図解でまとめ」

発表：柳下　明
「11 月 7 日　多摩 NPO センター
　　コーディネーター：御船　哲」

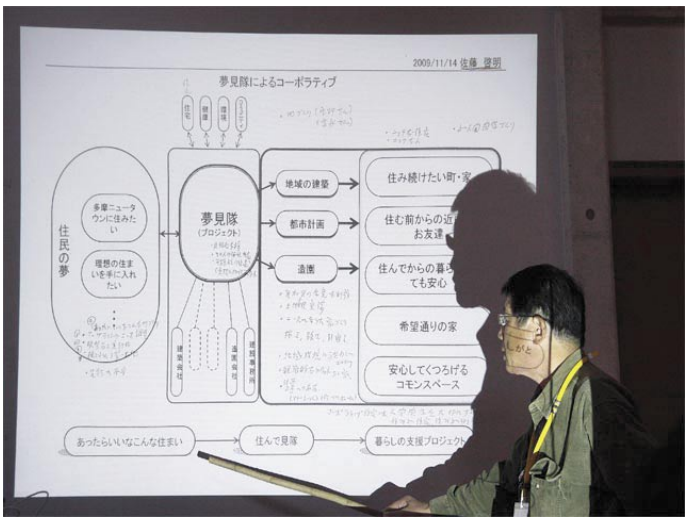
役割は市民活動のお手伝い。社会資源をつなぎ活性化、そのために情報発信を様々に行う。団体訪問と団体同士の仲人。多様な人の集いを〝市民活動語りすと〟と名づけて行う。
コーディネーターとは、資格より人柄、スキルより人柄。中庭光彦講師は、志を言い続ける人だと指摘された。

発表をする橋下氏

久恒：キーワードがいろいろ出されています。〝創発的コーディネート〟〟多層的コーディネート〟〟カタリスト（触媒＝自分は変わらず、接した同士が変わる）〟など。

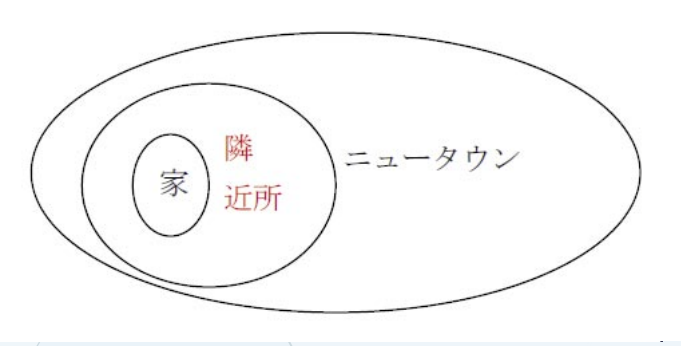
発表：佐藤　啓明
「11 月 14 日　夢見隊
　　コーディネーター：宇野　健一」

「あったらいいなこんな住まい」から、暮らしの支援全般までの概念が繋がっている中での仕事である。住民の夢を具体化し、専門事業者をつないで、実現するのは、住み続けたい町、家、住む前から友人で安心、家も希望通り、共通スペースも生きる。こうしたものができる。
それを実現する難しい条件の調整を、限られた時間内に実現するのがコーディネーター。接着剤だ。とらえ方がそれぞれなのがよく分かる。講座後にこうしたまとめがあるので。




発表をする佐藤氏

久恒：同じ講師の話しを聞いても同じ理解はない、勝手に誤解していることがよくわかりますね。図を書くときに、大きさ・重なり・因果関係（矢印）などの概念を活用するともっと判り易い図になるでしょう。以下に例示したように。



# 第 10 回 「図解でまとめ」

**まとめ**

久恒：7 人終わりました。どんな話があったか大体判りました。
地域コーディネーターの特質を総括すると人柄、人格が大事。柔らかい人、志のある人（自分のみでなく皆を幸せにする）、まわりをまき込む人、単発でなく育てていく人。人と人をつなぐ触媒的機能、〝接着剤〟と比喩できる機能を持つ等。例えば富永さんを考えてみて下さい。全部かどうかはともかく殆どが合いそうです。
人物は後からは中々よくならないので人柄をみて、その人に技・能を付加していく方がいいか。このやり方は日本の伝統に則しているのでしょうか。
志民塾の地域コーディネーター像が描けてきましたね。この専門課程をまとまめると第一級の資料になるでしょう。これを応用展開していきましょう。

**質疑応答**

質問：図の中で、大きさをどう工夫したらよいでしょう。そのコツは？

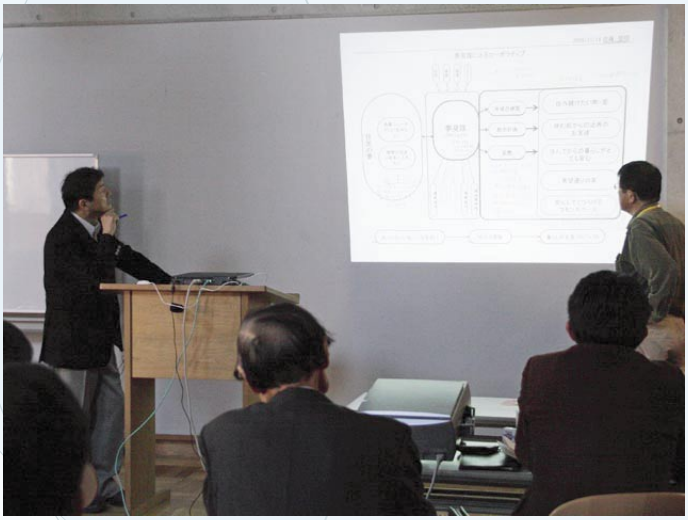
久恒：箇条書きに慣れている私たち。普通は縦に並べて書きますが、まず横に並べて書き、にらむと、大きさと因果関係とが読めるようになる。
もともと、同じ大きさのものはない。力の大小、関係の遠近、重なり、因果関係を読み解くことができるようになる。関係のないという関係もあるはず。
自分のやっていること。市のやっていること友人のやっていること・・・関係を考えることを意識して書き込むと良いでしょう。

富永：10 回のプログラムは箇条書きでありました。むしろ講義も回ごとに、10 回目と同じ方法で各回完結型でやってもよかったと今日やってみて考えました。

久恒：いろいろやってみるとよいですね。7 人の人の並べ方も工夫があってもよいし、関係を考えて並べてもよいでしょう。例えばマニフェストも優先度で大小あるべきなのですが。無駄を削ろうとすると小さな無駄しか削れません。税金の使い方でも効果、透明性・・・で大小つけます。優先度を担当者自身につけてもらって、その順位で判断すればいいはずなのですが。
箇条書的に考えると全体が見えなくなります。図解的思考を身に付けて欲しいと思います。

質問：各回で完結させるとよかったと思いました。図を書くときも、実際にパワーポイントを使ってやるとよいのでは？

久恒：私は、社会的合意形成の方法論がまだ確立されていないと考えており、その土台を用意するために図を使うことを提案しています。その基本として図は手描きを勧めています。ワードやパワーポイントはそれだけで頭を使わず出来たつもりになってしまうのです。手で書くと手を使い、全身を使い、頭を使うことになり、それが基本です。一つの問題は色遣い、これも理解を誤らせやすいのです。論理が大切なので、基本は白黒、手描きでやりましょう。



受講生の図にコメントをする久恒氏
平成 21 年 11 月 21 日　長池公園自然館にて

# 第 11 回「番外編」

ファシリテーター　富永（とみなが）　一夫（かずお）

第 10 回の講座終了後、受講生 7 人を中心に「私の課題にどう取り組みはじめるか」を演習しました。
この講座で学んだことを基にして、受講生お一人（T さん）の考え始めている「私の課題」を素材として提供いただき、関係者も含め皆で 1 時間話し合いました。その結びに、全 10 回のコースを企画し、出席してファシリテーターを努められた富永一夫さんが、『これから地域に出て活動・事業を始める人へ』と題してもよいような、応援の言葉を述べられましたので、記録集の付録として掲載します。

T さん：2 ～ 3 年後を目処に、働くことを前提とした、再就職を考えている女性への活動支援を考えています。対象年齢は絞っていません。私は、長く生協の活動をつづけておりましたが、今回の活動を共にしようとしている人たちは、再来年の 5 月に、生協での活動の期限がくるので、2 ～ 3 年後を目処としています。
志民塾に参加する前は、組織らしい組織をイメージしており、その規模も大きなものになっていました。しかし、志民塾に参加してからは、「自分が一番したいことは何だろう」と考えているうちに、「自分らしく働きたい」と思っている人をフォローすることだと思い至りました。まさしく原点に戻った感じでした。
生協では、環境や育児、高齢者支援などが課題として上がっていましたが、今までは、実際の活動とそれらが一致していませんでした。しかし、色々な人と話しているうちに、それらに関係があることが分かりました。とはいえ、実際は実務に流されてしまっています。
また、私は 23 歳、21 歳、20 歳の子どもがおりますが、私が子育てをしていた頃に悩んでいたことと同じ悩みを今の若いお母さんたちも抱えています。一度仕事を辞めた人の悩みは、ここ 10 年、20 年変わっていません。このような理由から「自分らしく働くこと」を応援したいと思うようになりました。しかし、どうしたら支援や応援ができるのか、啓発活動で終わるのかは分かりません。とりあえず、メンバーそれぞれの立場で目標に向かっているといった状況です。
このような状態なので、目指すところから逆行しているように見えるかもしれませんが、自分たちはより一層目標が明確になったと感じています。今すぐでなくても、力を合わせて向かっていきたいと思っています。
私自身は、6 月に生協を辞めたので、今は、人に会ったり、経験を積んだりするいいチャンスだと思っています。しかし、2 年間、モチベーションをどう持ちつづけたらいいのか、どうスキルを身につけたらいいのか、が少し不安です。
富永：皆さん、どのようなご意見をお持ちでしょうか。参加者の方だけでなく、こちらのスタッフからも聞いてみましょう。まずは、松本先生から。
松本：多摩大総研の松本です。まず質問する方が分かりやすいと思いますので、質問をしたいと思います。支援したいと思っている女性の年齢層は？
T さん：40 代がメインですが、早めに子育てを終えられた人もいると思うので、30 代後半の方々も入ってくるかと思います。
松本：小学校の後半のお子さんがいる方々を想定されていると思いますが、働くイメージとしては、正社員、パート、NPO、ボランティアのうちだったら、どれになるのでしょうか。
T さん：自分たちで、自分の力を活かせることを始めようと思っている人が対象になると思います。パートや正社員でしたら自分で探せると思いますので。
松本：2 年後を目処と考えてらっしゃる理由は？
T さん：メンバーたちの生協での活動の任期が理由です。また、彼女たちはとても忙しく、正社員以上に働いていますので。
松本：経済的な理由より、生きがいややりがいを求める方々と支援したいと思っておられるのですね。
富永：次は御舩さん、お願いします。
御舩：私からは 3 つのことをお勧めします。一つ目は、名刺を持つこと。前々回の私の講義ではお話できませんでしたが、多摩 NPO センターでは、アルバイトでも、週一回のアルバイトでも、インターンの学生でも、職場体験の中学生でも、名刺を持たせておりました。任期がある場合は、名刺に特記をしておりました。その上で実際に動いてもらいました。名刺は社会での対人のツールとして非常に役に立つことを、今までの経験から強く感じております。もし立場や肩書きを持っておられないのでしたら、ご自分の住所を記載してもよいと思います。私も、

## 第 11 回「番外編」

自宅の住所のみを記載した名刺を持っております。その上で、名刺を渡す際に、「私はこんなことをやりたいと考えております」と言いつづけることが大事です。
二つ目は「仲間を二人つくりなさい」ということです。NPO ですと、3 人で理事ができるということもありますが、3 人でやる気になって話し合いをつづけることが大事だと思います。
三つ目は、多摩 NPO センターの「活動体験談」をお読みになることをお勧めします。これには、ここにおられる松本先生や富永さんなども書かれています。活動体験を始めるにあたって、この中から「私に合いそう」と思う体験談を探して、それを参考になさってみてください。この本はお貸しします。
富永：次は、法政大学の浜田君ですが、今日はカメラマンとして参加しています。彼は地域活動に強い関心を持っておられます。学生らしい発言を期待したいと思います。
浜田：私の母はヨーカ堂でパートとして働いています。働く選択肢としてはパートしかないというのが実情です。しかし、地域の触れ合いがある場所で働ければ、もっと生きがいを見つけられるのではないかと思っています。母は最近パートに入ったばかりですが、大きな組織のコマとして働いている感じで、母の個性を活かしきれていないように思います。母は花をつくるのが好きなので、本当はそういったことを活かしたらいいと思うのですが、実際はできていません。「自分らしく働く」ということからこのようなことを感じました。
富永：お母さんはお幾つですか。
浜田：53 歳です。
富永：彼は三鷹在住ですが、三鷹ならば色々な活動があるのに、それらに接点を持つことができない。子どもとしては、母の個性を活かして欲しいという、優しい思いがあるのでしょう。
渡邊：働き先の情報をどのように見つけられるのかが財産になると思います。ハローワークの人が NPO で求職支援をしていると聞きますが、こういった人たちは、ハローワークの情報に拠っていると思います。こういったハローワークに載らないような情報をどうやって提供していくか、どんなことを情報の武器にするのか、を考える必要があると思います。ご存知かもしれませんが、女性のための就労支援の施設が堀之内にあります。ここでの情報も参考になるのではないでしょうか。
島村：メンバーの役割分担はどのようになっているのでしょうか。それぞれの個性を活かせればいいと思いますが、偏っても上手く行かないと思います。マーケティング、経理など、仲間集めの際の人選に留意する必要があるのではないでしょうか。
富永哲：広報はどのようにするのでしょうか。40 代の女性を対象とのことですが、皆さん、中高生のお子さんを抱え、お金のかかる時期だと思います。そういった方々は思いがあっても、生活が苦しくて集まれないのではないかと思います。
Y さん：図解していただかないと理解できないですね（笑）。働きたいという女性をどう支援したいと思っておられますか。
T さん：コミュニティビジネスをイメージしています。自分たちで立ち上げる方法もありますし、既存の活動を紹介する方法もあると思います。女性が働くときに自分らしく働ける場所が少ないのです。「経済」と「やりがい」の間で許される条件の中で、女性が活かされる一つの手段がコミュニティビジネスだと思います。活動としては、啓発だけで終わってしまうかもしれませんが、そういう武器があることで、働き方に変化を与えることができるのではないかと思っています。できる可能性を求めて行きたいと思っています。ですが、どんな力をつけたら実現に近づけるのかが分かりません。
Y さん：今日の新聞に載っていましたが、雇用の少ない現代において、民主党は NPO を頼りにしているとのことです。なぜ NPO かというと、今まで出てこなかったスタイルの仕事を NPO は考えていると民主党は感じている。そうなると、なおさら、こちらは提案力や企画力をつけなくてはならないと思います。
T さん：対象年齢は 40 代とはいえ、実際は、さらに上の 50 代も入ってくると思います。生協の中では、私と同じ思いをしている人が沢山います。ということは、生協以外でもそういう人は多く存在していると思います。「お金よりも生きがい」と思っている人、「お金と生きがい」のバランスを取ろうと思っている人がいると思います。
水谷：家庭にいる方が外に出たいと思っているときに支援したいと思っておられる。例えば、パート勤めの方がさらに違うパートへと移られるときの支援は考えておられますか。こういった場合、多様な選択肢を示す必要があるかと思います。
T さん：起業支援を行い、NPO はプラットフォームとして

## 第 11 回 「番外編」

活動するというプランも考えられます。
水谷：ご自身も学ばれる必要があるかと思います。また、社会に出る選択肢は幅広く持たれた方がいいと思います。まず、ご自分で学んで、その上で経験が活かせたらいいのではないかと思います。
H さん：まだ漠然としていると思いますが、自分たちのモチベーションが保たれるかが心配とのことですが、「誰のために」ははっきりしておられる。次は自分たちのアイデンティティ、つまりどういう立場に立つかをはっきりさせる必要があると思います。また、自分たちの組織としての価値観や信念をもつことが大事なのではないでしょうか。さらに、自分たちの能力の示し方や、どこまでできたらいいのかという「行動」について考えなくてはいけない。次に環境、すなわち「どこでやるか」を考える。これはビジネスの標準的なプロセスです。
例えば、資生堂では、かつて売り子さんたちに対しては「どんどん売れ」というスタンスでした。実際は一人一人皮膚が違うのに、店に来た人にひたすら高いものを売っていたのです。しかし、売り上げは伸びなかった。そこで「ビューティーコンサルタント」を採り入れました。そして「まず、自分たちの仕事に誇りを持つ。そして、お客様の内外の美に尽くす」「感動を与える」といった理念を掲げました。自分たちの能力については、一人一人に合った化粧品を見つける勉強をしました。行動については、挨拶をし、一人一人から要望を聞き、リピーターを増やすように努めました。「お客様の感動を呼ぶ」という理念が売り上げアップに繋がったのです。人を動かすときも褒め、アイデンティティを潰さないようにしていました。
S さん：T さんの考えておられる位置づけを確認させていただきたいのですが、「コミュニティビジネス」ということですね。
最近、女性の講演をつづけて聞きました。一人は池内ひろ美さん、もう一人は名前は忘れましたが、年金コンサルタントの方です。池内さんは、離婚の調停などを扱っておられるようですが、「笑顔で接しなさい」と仰っておられました。
女性だけでの活動を考えておられるようですが、男性の助けも必要なのではないでしょうか。女性だけでやれるのかが心配です。また、仕事の時にはコミュニケーションが大事だと思いますが、どう考えておられますか？
T さん：長い付き合いですし、仕事をする上での価値観も同じで、意見を言い合うこともできます。一方で、女性だけの難しさも感じています。また、三人だけでは無理だと思うのですが、広げるのも難しい。また、久恒先生も仰っておられましたが、人間性はなかなか変えられない。経験で乗り切れればいいなと思います。また、将来的には、男性に入っていただくこともあるかもしれません。
S さん：北海道の「だんだん」という 25 名くらいのグループは、3 年で止めかかったが、盛り上げて「もう一回やろう」という人がいたそうです。そういう人がいなくてはならないのかもしれません。
S さん：コミュニティビジネスを立ち上げて、ある程度で満足されるのか、あるいはニーズを聞いて紹介するイメージなのか、それぞれやり方が違うと思います。辻村さんのイメージがあるとして、それは世の中に全く無い NPO なのでしょうか。現段階でも、多種多様な NPO があります。また、辻村さんは今フリーの身ということなので、どこかの NPO で武者修行をして、一定期間経験を重ねられたらどうでしょうか。実際は、志民塾で勉強したことよりももっと沢山のことがあると思います。その難しさやノウハウを蓄積し、仲間で練り上げるという方法もあるのではないでしょうか。
S さん：同じ女性としてとても素敵なアイデアだと思います。場所はどこを想定しているのでしょうか。私も子育てをしながら仕事をしてきました。私の場合は経済的な理由ですが、T さんは「自己実現」の支援と仰っておられますね。
T さん：収入と理想の駆け引きですが、中には収入を切り詰めても理想を実現したいと思っている人がおられます。そういった人を応援したいと思っています。
貞清さん：具体的な支援策はありますか。私の場合、自分のしたいことのために何かしてもらったという経験がありませんので。
T さん：生協では、有給者が少ないのですが、その代わりスタッフの入れ替わりも起きません。また、それぞれの役割が果たせていないのが実情です。また、割りに合わないと感じた人はすぐに他へ行きます。関心をもって生協に入ってきますが、いいなと思うことが、仕事に反していると感じると、他のパートに移ってしまう人もいます。このような状態なので、組織はガタガタです。そういった理由から勤続年数に制限を設けたのです。しかし、任期後の行き場がないのです。
私が生協を辞めたとき、ある程度の立場にいる人でも「偉

## 第 11 回「番外編」

いね。私は辞めろと言われるまでは辞めない」と言うのです。また、ある人は「他に仕事も無いのになぜ辞めるの」と言うのです。
また、「何か地域でできるよね。皆でやれば何かできるよね」と言いつつも、実際は何もできずにきました。ですが、思いは残っているのです。しかし、年齢が上がるにつれて仕事は無くなってくる。そういう状況をよく見てきました。正社員でもパートでもない、何か他の道筋が立てられないかと思っています。
場所についてはまだ絞りきれていません。
生協の中にもう一度投げかけることも、仲間同士では考えています。
何ができるのか、経験があれば分かるのに、と思うので、経験を積みたいと思います。また、常に問題意識を持っていなくてはと思います。
富永：地域活動の中に欠けているのが、ビジネスモデルのセンスだと思います。しかし、地域活動はビジネスモデルでは語りきれない部分が多い。ビジネスモデルは簡単です。お金に直結しているからです。「お金を稼ぐ」か「やりがい」か、という議論になっていますが、お金を稼ぐことは少しも恥ずかしいことではありません。逆に、お金を取らないことが難しさを生みます。10 人関わったら 10 人の違う気持ちのファクターが絡むからです。ある人は 0 円でも「充分だ」と思う一方で、違う人はそうではない。
また、地域は組織にバインドされた人々ではなく、いわば「野生動物」の集まりです。組織は動物園の同種の動物の集まりです。それが外に出ると勝手きままにやれるのではないかと思っている。しかし、それまでのビジネスモデルでは通用しないのです。
また、抽象的に「何かしたいな」と思っていても、なかなか見えてこない。それが長く続くと落ち込んでしまいます。ですが、私の場合で言えば、自分が働かないといけない状況だったわけです。そういう危機意識があると、夢を見ている状態から抜け出せるきっかけが掴めます。世の中で蠢いていることの中から掴んだもの、それが NPO フュージョンです。ここには、「ふわふわした思い」と「モチベーション」という二重構造が存在しています。
また、自分を中心に置かなくてはいけません。「人のため」ばかりですと、自滅してしまいます。せめて、「自分」と「人」が五分五分でなくてはならない。そうでないと心が空虚な状態になってしまいます。
対価は、「お金」か「心の満足」か、それは経験でしか分からない。
きちんとした運営を行う際には、ビジネスモデルは有効です。しかし、今はまだ前段の段階ですから、曽田さんのご意見に出た、武者修行、インターンシップが必要です。地域の NPO を見尽くすくらいの気持ちが必要です。その際に、誰かに頼るのではなく、自分自身で体験しなくてはなりません。「誰かがやってくれるだろう」という気持ちで、内輪で堂々巡りの話しをしているとネガティブな状況に陥りますが、自らやろうという気持ちになれば、ポジティブな状況に変化します。各 NPO を 1 週間単位で武者修行をしてみたらいいと思います。そうすると、自分に足りない部分が見えてきます。99％のできないことが明確になったら、今度は、できないことを補ってくれる人を探すのです。気の合う人だけでは無理です。価値観が合う上で、A さんは経理、B さんは広報、C さんは他の業務といったように、役割分担をする。
お金だけではないファクターで計るのは難しい。ビジネスよりも地域活動の方が難しいのです。お金にすることは恥ずかしいことではありません。
まず誰かの組織を手伝った上で、ご自分で立ち上げるのもいいでしょう。ですが、いずれにしても修行が必要です。
また、まず自分の周りの女性に「どうしたいのか」を聞くことが必要です。抽象的に感じている「何に困っているのか」を突き詰める必要があります。
地域の広がりの中で、色々なやり方が沢山あります。その人なりの「自分の生きがい」というポジションが見つけられます。実現できるチャンスは誰もが持っています。

本当に 10 週間有難うございました。

編者・発行　はちおうじ志民塾　専門課程　地域コーディネーター養成コースプロジェクトチーム
発　行　日　2010 年 2 月 1 日

お問い合わせ先：八王子市 市民活動推進部 協働推進課
住所：東京都八王子市元本郷町 3-24-1　電話：042-620-7401（直通）　FAX：042-626-0253